

テ余ハ之ヲ其自首免除ノ條件トハ謂ハス或ハ曰フ所謂事ヲ行ハサル前トハ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ニ關ス故ニ内亂ハ既ニ既遂又ハ未遂ノ状態ニアルトキト雖モ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者カ之ヲ行ハサル前ニ自首シタルトキハ本條ノ適用アリト

第二 本刑

本條ニ所謂本刑トハ主刑及附加刑ヲ包含ス即チ主刑及附加刑ヲ規定シタル内亂罪ヲ犯シタル者ト雖モ自首シタルトキハ一旦其刑ノ全部(監視モ免除ス)ヲ免除セラレ新ニ六月乃至三年ノ監視ノミニ付セラル、モノトス然レトモ禁制物ノ沒收ノミハ文字上穩當ナラサレトモ其本質ヨリ論シテ之ヲ附加セサルコトヲ得スト解ス

第二目 純内亂罪ノ準備行為ニ屬スル強盜罪及其刑

刑法ハ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ云々ト規定ス本罪ハ強盜罪ニ對スル特別罪ト見ルコトヲ得ヘシ

純内亂罪ノ準備行為ニ屬スル強盜罪及其刑

内亂ヲ起ス目的トハ思フニ純内亂行為ヲ實行セントスルニ拘ラス未タ之ニ著手セサル前ニ於ケル犯人ノ心情ヲ謂フ軍備ノ物品トハ交戦ニ必要ナル動産ヲ謂ヒ余ハ多少ノ異論ナキニアラスト雖モ本條ニ所謂軍備ノ物品トハ政府ノ所有ニ係ルト否トヲ問ハスト解釋ス劫掠トハ暴行又ハ脅迫ニ因リ強奪スル行為即チ強盜ノ行為ヲ謂フ

本罪ヲ犯シタル者ニ對スル刑ハ既ニ内亂ヲ起シタル者ニ對スル刑ニ同シ刑法第二百二十四條、第二百五條及第二百六條ハ本條ノ罪ニモ亦適用ヲ有ス即チ本罪ノ罰スヘキ未遂ニハ既遂ト同一ノ刑ヲ科シ本罪ノ豫備ニハ既遂ニ對スル刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑ヲ科シ本罪ノ陰謀ニハ既遂ノ刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑ヲ科シ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者自首シタルトキハ本刑ヲ免除シ唯六月乃至三年ノ監視ニ付スヘキナリ本罪ハ上述ノ如ク内亂ノ準備ヲ罰シタル罪ニ過キサルヲ以テ更ニ其未遂又ハ準備ヲ罪トスルハ畢竟内亂ノ準備ノ準備ヲ罪ト爲スニ同ク立法上妥當ナラスト雖モ明文ニ依據スルヲ以テ懷疑ノ餘地ナシ

第三款 内亂罪ノ犯人ニ集會所ヲ給與スル罪

内亂罪ノ犯人ニ集

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 國事ニ關スル罪及其刑 内亂ニ關スル罪及其刑

本罪ハ内亂者ニ集會所ヲ給與スル行爲ナリ而シテ刑法カ内亂ノ情ヲ知リテト規定セルハ衍文ナリ

茲ニ所謂内亂トハ準内亂ヲモ包含シ其既遂未遂及準備ヲ包含セルモノト信ス本罪ノ刑ハ二年乃至五年ノ輕禁錮トス而シテ本罪ハ内亂罪ナル重罪又ハ輕罪ヲ犯スコトヲ知り集會所ヲ給與スル罪ニシテ集會所ノ給與ハ事實上多クノ場合ニ於テハ内亂ノ既遂未遂又ハ準備ノ準備タルヘキヲ以テ本罪ノ犯行者ハ内亂罪ノ犯人ノ從犯即チ幫助犯ナリ然ラハ本條ナシト雖モ刑法第百九條ノ規定ノ結果トシテ此種ノ幫助者ヲ處罰スルコトヲ得ヘシ

第四款

内亂ノ實行中ニ生シタル身體、財産ニ對スル重罪又ハ輕罪ニシテ純内亂ノ目的ニ關セサルモノ及其刑

内亂ノ實行中ニ生シタル身體、財産ニ對スル重罪又ハ輕罪ニシテ純内亂ノ目的ニ關セサルモノ及其刑

刑法第百二十八條ノ規定ハ單ニ内亂ニ乘スルコトニ關ス故ニ準内亂罪及純内亂ノ準備ニ屬スル強盜罪ヲモ包含スヘシト雖モ既ニ乘シト云フ以上ハ常ニ純内亂

ノ著手以上ノ行爲アリタル場合ナリト信ス純内亂ノ實行中罪ヲ生スルニ種々ノ場合アリ

第一 内亂ニ干與セサル者カ内亂ヲ好機トシテ公益ニ關スル重罪、輕罪又ハ身體、財産ニ對スル重罪、輕罪若ハ違警罪ヲ犯シタル場合

第二 内亂ニ干與シタル者即チ内亂ヲ起シタル者カ

一 内亂ニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其行爲カ公益ニ關スル重罪、輕罪、身體、財産ニ對スル重罪、輕罪又ハ違警罪ナリシトキ

二 内亂ニ必要ナラサル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其行爲カ

(1) 公益ニ關スル重罪、輕罪ナリシトキ

(2) 身體、財産ニ對スル重罪、輕罪ナリシトキ

(3) 違警罪ナリシトキ

上述ノ如ク種々ノ場合アルモ若シ刑法ニ特別ノ處斷法ヲ規定セサランカ第一ノ場合ニ付テハ單一ニ各本條ニ於テ規定シタル罪ト爲シ之ヲ内亂罪ト爲サス第二ノ一ノ場合ニ於テハ單一ニ内亂罪ト爲シ之ヲ各本條ニ規定シタル罪ト爲サス第

二ノ二ノ場合ニ於テハ其(1)タルト(2)タルト又ハ(3)タルトヲ問ハス内亂罪及各本條ニ規定シタル罪ノ俱發トスヘキヤ一點ノ疑ナシ刑法ハ唯第二ノ二ノ(2)ノ場合ニ於テノミ特ニ明文ヲ設ケテ特種ノ處斷法ヲ規定ス刑法第二百二十八條ノ規定是ナリ

第一 身體、財産ニ對スル重罪、輕罪 法文ハ單ニ人ノ身體、財産ニ對シ云々重罪、輕罪ヲ爲シト云フト雖モ其意ハ刑法第三編ノ題目ヲ指示セルモノニシテ實質ヨリ謂フトキハ生命、身體、自由及名譽ニ對スル重罪、輕罪ヲ包含ス

第二 内亂ノ目的ニ關セサル重罪、輕罪 内亂ノ目的ニ關セサル重罪、輕罪ト云フ語ハ極テ不明ノ文字ナリト雖モ上述ノ如ク余ハ内亂ニ必要ナラサル重罪、輕罪ナル意ト解ス内亂即チ朝憲紊亂ヲ目的トスル暴動ニ在リテハ交戰者ノ殺傷軍需ノ徵發等ハ常ニ必要ナル行爲即チ内亂ノ目的ニ關スル行爲ナリト雖モ姦淫猥褻又ハ墮胎等ハ常ニ必要ナラサル行爲即チ内亂ノ目的ニ關セサル行爲ニシテ交戰者ナラサル者ノ殺傷、軍需品以外ノ奪取、誣告、誹謗、略取、誘拐又ハ脅迫等ハ多クノ場合ニ於テハ必要ナラサル行爲即チ内亂ノ目的ニ關セサル行爲タルヘ

キナリ而シテ本條ニ所謂内亂ノ目的ニ關スルヤ否ヤハ之ヲ客觀的ニ觀察シテ一般國際法上交戰行爲ト認メ得ヘキヤ否ヤニ因リテ決定スヘシ然レトモ此場合ニ於テモ刑法ノ不論罪ニ關スル條項ノ適用アルコトヲ忘ルヘカラス

第三 内亂ノ實行中ニ生シタル重罪、輕罪 刑法ハ内亂ニ乘シト云ヘルヲ以テ前述ノ如ク準内亂ヲ包含セサルハ勿論純内亂ニ付テモ其未遂又ハ準備ニ止ル場合ヲ包含セス

本罪ハ通常ノ刑ニ照ラシ重キニ從テ處斷セラルヘキモノナリ然ラハ此種ノ罪アリタル場合ニ於テハ或ハ身體、財産ニ對スル罪ナル章中ノ各本條ニ規定シタル刑ヲ科シ或ハ本條ニ規定シタル刑ヲ科ス
本條ニ付キ問題タルヘキハ本條ノ場合ニハ一罪ナリヤ數罪ナリヤト云フニ在リ余ハ數箇ノ行爲アル場合ハ原則トシテ數罪ヲ成立セシムヘキモノナリト信スルヲ以テ本條ノ場合ニハ數罪ヲ成立セシムヘキモノト信スト雖モ刑法カ既ニ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷スト規定シタル以上ハ法律上ノ一罪ナリト云ハサルヘカラス

外患ニ關
スル罪及
其刑
總說

第三節 外患ニ關スル罪及其刑

第一款 總說

刑法ハ第二編第二章第二節ニ於テ外患ニ關スル罪ト題シ第二百二十九條乃至第三百三十五條ノ規定ヲ設ケタリ第三百三十五條ハ單ニ刑ニ關スル規定ナルヲ以テ今之ヲ論セスト雖モ而モ第三百三十三條及第三百三十四條ノ罪ノ規定ノ如キハ何レノ點ヨリ觀ルモ外患ニ關スル罪ト云フコトヲ得ス余ハ刑法ハ本節ニ於テハ外患ニ關スル罪ナル題目ノ中ニテ外患罪並ニ國交ニ關スル罪ヲ規定シタルモノト信ス

刑法第三百三十五條ニ曰ク此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ニハ六月乃至二年ノ監視ヲ付スト本章ニ記載シタル罪ニ對シテハ第三百三十四條ノ罪ヲ除ク外皆重罪ノ刑ヲ科ス然ラハ本條ハ第三百三十四條ノ罪以外ニ適用ナキカ如シト雖モ其他ノ罪ノ犯人ト雖モ法律上又ハ裁判上ノ減輕ヲ爲ス結果時ニ輕罪ノ刑ニ處スヘキ場合モ亦尠シトセス本條ハ此場合ニ於テモ其適用ヲ有スヘシ

外患罪及
其刑

第二款 外患罪及其刑

第一 本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬スル罪 或ハ本條ハ外國ニ與シテ帝國ニ抗敵

スル罪外國ト交戰中帝國ノ同盟國ニ抗敵スル罪及本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬スル罪ノ三箇ノ罪種ヲ區別スル者アリ或ハ外國ニ與シテノ副詞ハ單ニ帝國ニ抗敵シナル語句ノミニ關シ同盟國ニ抗敵シナル語句ニ關セストスル者アリ或ハ帝國ニ抗敵スル行爲又ハ帝國ニ背叛シ敵兵ニ附屬スル行爲ハ交戰中ナルコトヲ必要トセス是レ刑法ハ同盟國ニ抗敵スル行爲ニ付テノミ交戰中ナル文字ヲ用ヒタルカ故ナリト解スル者アリト雖モ余ハ之ヲ採ラス余ハ本條ハ日本帝國ノ臣民カ交戰中又ハ宣戰布告後ニ日本帝國ニ背叛シテ敵國ニ附屬スル行爲ニ關スルモノト爲ス

刑法ハ本罪ノ主體ハ日本帝國臣民タル特別資格ヲ有セサルヘカラサルコトヲ明言セスト雖モ既ニ「本國ニ背叛シテ」ト明記セル以上ハ其主體カ帝國ノ臣民タルヘキコトモ亦明ナリ

刑法ハ犯罪成立ノ時期ヲ日本帝國カ外國ト交戰シタル後又ハ外國ニ對シ宣戰ヲ布告シタル後ニ限ル明文ヲ設ケス然レトモ敵兵ニ附屬スト云ヒ又ハ本國ニ抗敵スト云フ交戰後又ハ少クトモ宣戰布告後ニアラサレハ敵ナルモノナキヲ

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 國事ニ關スル罪及其刑 外患ニ關スル罪及其刑

以テ自ラ此意義ヲ暗示シタルモノト解スヘシ外國トハ日本帝國以外ノ國家ニシテ國際法上國家トシテ承認セラル、モノヲ謂フ宣戰布告トハ一國又ハ他國間ニ於テ開戰ヲ爲スヘキ意思表示ニシテ如何ナル意思表示ハ之ヲ宣戰布告ト看做スヘキヤハ國際法ニ依テ判斷セサルヘカラス中世以來各國ノ戰爭ヲ開始スルヤ概ネ宣戰布告ヲ爲スヲ通例ト爲シタルモ今日ノ國際慣例ハ必シモ此轍ヲ履マス或ハ布告ヲ爲サスシテ事實上開戰スルコトアリ是レ即チ余カ交戰後ト云ヒタル所以ナリ

日本帝國臣民ハ帝國ニ忠實ナルヘキ義務ヲ負擔ス故ニ帝國ニ背叛ストハ此臣民ノ義務ニ違背スルコトヲ謂フニ外ナラス敵兵ニ附屬シトハ最モ廣キ意義ヲ有スル文字ニシテ容易ニ之ヲ斷定スルコトヲ得ス刑法ハ余ノ見解ニ依レハ敵兵ニ附屬スルニ例ヲ掲ケタリ即チ帝國ニ抗敵スル行爲又ハ同盟國ニ抗敵スル行爲是ナリ然ラハ敵兵ニ附屬スル行爲トハ少クトモ帝國又ハ其同盟國ニ抗敵スル行爲ヲ意味シ其他是等ノ行爲ニ類似セル行爲即チ敵兵ノ醫療事務、運送事務、工作事務、通信事務其他萬般ノ軍務ヲ爲ス行爲ハ勿論尙ホ或ハ何等ノ事務ヲ

モ執ラス唯敵兵ニ附屬スル行爲ヲモ包含スルモノトス

本罪ノ刑ハ死刑ナリ本罪モ亦多衆ニ依リテ犯シ得ルモノニシテ必シモ首魁、樞要ノ地位ヲ占ムル者、機械的勞務ニ服スル者ノ區別ナシトセス然レトモ刑法ハ内亂罪ニ付キテハ此區別ヲ認メ刑ヲ別異ニシタリト雖モ本條ノ外患罪ニ付キテハ此區別ヲ認メサルコトヲ注意スヘシ

第二 敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシムル罪 本罪ハ所謂結果罪ニシテ日本帝國ノ臣民カ交戰後又ハ宣戰布告後敵兵ヲ誘導スル行爲ヲ爲シ其結果之ヲ日本帝國ノ領土又ハ領水内ニ入ラシメタル行爲ニ關ス日本帝國ノ臣民タルヘキコトハ刑法カ本國管内ニ入ラシメト規定スルニ依リテ明白ナリ而シテ誘導トハ侵入行爲ノ教唆又ハ幫助ヲ謂フニ外ナラス
本罪ニ對スル刑ハ死刑ナリ

第三 本國又ハ同盟國ノ軍事ニ關スル土地家屋又ハ物件ヲ敵國ニ交付スル罪
本罪ハ日本帝國ノ臣民カ交戰後又ハ宣戰布告後日本帝國又ハ其同盟國ノ軍事ニ關スル土地、家屋又ハ物ヲ敵國ニ交付スル罪ニ關ス交付トハ引渡ト云フ意ニ

シテ所持ヲ移轉スル行爲ヲ謂フ軍事ニ關スル土地、家屋又ハ物トハ刑法ニ例示シタル都府例ハ市町村等、城寨例ハ屯營、要塞、鎮守府等其他兵器、彈藥、艦船例ハ軍艦、軍用運送船等ハ勿論總テ軍事ニ關スル動産及不動産ヲ包含ス
本罪ノ刑ハ死刑ナリ

第四 本國又ハ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若ハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知スル罪 本罪ハ日本帝國ノ臣民カ交戰後若ハ宣戰布告後日本帝國又ハ其同盟國ノ軍事的若ハ外交的祕密ヲ敵國ニ通知スル行爲ニ關ス學者或ハ本罪ニ付テハ交戰後又ハ宣戰布告後ナルコトヲ必要ナリト明言セスト雖モ若シ之ヲ必要ナラストセハ敵國タルモノナキニ至リ從テ事實上此罪ヲ犯スコト能ハサルニ至ルヘシ刑法ハ軍情機密ト云ヒ又ハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ト云フト雖モ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷トハ交戰後又ハ宣戰布告後ニ於テハ少クトモ軍情機密ニ屬スト思料シ軍情機密トハ軍事的又ハ外交的機密ヲ謂フニ過キスト思料ス刑法ハ漏泄ト云ヒ又ハ通知ト云フト雖モ漏泄ハ通知ノ結果ニシテ通知ハ漏泄ノ手段ナリ余ハ漏泄モ亦通知ナリト解釋ス

本罪ノ刑ハ無期流刑トス

第五 敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタル罪 本罪ハ所謂結果罪ニシテ日本帝國ノ臣民カ交戰後又ハ宣戰布告後敵國ノ間諜ヲ誘導スル行爲ヲ爲シ其結果トシテ之ヲ日本帝國ノ領土内ニ入ラシメタル事實ニ關ス間諜ノ何タルヤハ國際法ニ於テ決スヘキ問題ナリト雖モ概ネ交戰者ニアラスシテ一國ノ軍事上又ハ外交上ノ祕密ヲ探偵スル者ト解スヘシ
本罪ノ刑ハ無期流刑トス

第六 敵國ノ間諜ヲ藏匿スル罪 本罪ハ日本帝國ノ臣民カ交戰後又ハ宣戰布告後敵國ノ間諜ヲ藏匿スル行爲ニ關ス藏匿ナル語ハ概ネ人ニ關スル場合ト物ニ關スル場合トニ依リ其意義ニ多少ノ差異ナキニアラスト雖モ人ニ關スル藏匿ハ通俗ニ所謂「カクマフ」ノ義ナリ藏匿ハ隱祕ニアラス故ニ隱祕ニ相對スル語句ナリトシテ解スレハ祕密ニ自己ノ勢力内ニ間諜ヲ居留セシメタル行爲ヲ謂フ
本罪ニ對スル刑ハ無期流刑トス

第七 第三百三十二條ノ罪 本罪ノ主體ハ陸海軍ノ命ニ依リ物品ヲ供給スル日本

刑法各論
本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
國事ニ關スル罪及其刑 外患ニ關スル罪及其刑

帝國臣民又ハ陸海軍ノ命ニ依リ工作ヲ爲ス日本帝國臣民ニ限定セラル刑法ハ「陸海軍ヨリ」ト規定セルモ其意ハ陸海軍省、陸軍ノ軍吏、海軍ノ主計其他物品ノ供給又ハ工作ヲ命シ得ヘキ軍事官廳、軍人又ハ軍屬ヲ謂フ刑法ハ「委任ヲ受ケ」ト規定セルモ要スルニ命ヲ受クルコトヲ謂フニ過キス刑法ハ物品ヲ供給シ及工作ヲ爲スト規定スルモ是レ動産ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲スノ意ニシテ必シモ同時ニ二者ヲ兼有スルヲ要セス

本罪ハ所謂結果罪ニシテ上述ノ身分資格ヲ有スル者カ交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ敵國ノ賂遺ヲ受ケテ動産ノ供給又ハ工作ノ施設ノ命令ニ違背スル行爲ヲ爲シ其結果トシテ軍備カ缺乏シタル事實ニ關ス刑法ハ交戦ノ際ト云ヒ交戦中ト云ハス故ニ戰爭開始ノ前後ヲ意味ス賂遺トハ所謂賄賂ニシテ其詳細ハ收賄罪ニ付キ説明スヘシ動産ノ供給又ハ工作ノ施設ノ命令ニ違背スル行爲トハ動産ノ全部又ハ一部ノ不供給又ハ工作ノ全部又ハ一部ノ不施設ヲ謂フ本罪ニ對スル刑ハ有期流刑ナリトス

國交ニ關スル罪及其刑

第三款 國交ニ關スル罪及其刑

第一 總說

刑法ハ國交ニ關スル罪トシテハ僅ニ第三百三十三條及第三百三十四條ヲ設ケタルニ止ル然レトモ近時ノ立法例ニ依レハ其範圍ヲ擴張シテ種々ノ行爲ヲ國交ニ關スル罪トセリ諸國ノ規定スル所一様ナラスト雖モ其内容ヲ概括スレハ左ノ三ナルカ如シ

- 一 外國ノ主權者又ハ其代表者ノ生命、身體、自由、名譽ニ對スル傷害行爲
- 二 外國ノ主權ヲ表彰スル記號ヲ損壞、汚瀆又ハ侮蔑スル行爲
- 三 外國ノ主權ヲ危害スル行爲

第二 外國ニ對シテ私職ヲ開始シタル罪 本罪ノ根據ハ外國ノ主權ヲ危害スルニ在リ

本罪ハ日本帝國ノ臣民カ外國ニ對シ私職ヲ開始シタル行爲ニ關ス本條ニハ本國ナル語句ヲ見ス從テ本罪ノ主體ハ單ニ日本帝國臣民ニ限ラサルカノ疑ナキ能ハス然レトモ本條ハ外國ニ對シテト規定シ外國ト云フハ刑法ノ意義ニ於テハ本國ニ反對スル語句ナルヲ以テ間接ニ本罪ノ主體ハ日本帝國臣民ニ限ル旨ヲ規定シタルニ異ルコトナキナリ私職トハ國際法上ノ成語ニシテ公戰ナル語

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 國事ニ關スル罪及其刑 外患ニ關スル罪及其刑

句ニ相對ス即チ國際間ノ戰爭ニアラサル戰爭ニシテ換言スレハ國家對個人ノ戰爭ヲ謂フ刑法ハ私ニ戰端ヲ開クト規定シ學者ハ之ヲ日本帝國ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ國際間ニ於ケル戰爭ヲ開ク意味ナリト解釋セリト雖モ余ハ之ヲ採ラス刑法ハ戰端ヲ開クト規定ス學者或ハ之ヲ戰爭ノ實行行為ニ著手シテ未タ遂ケサル體様ヲ謂フト解釋スト雖モ余ハ之ヲ採ラス通説モ亦然リ蓋戰端ヲ開クトハ戰爭ノ實行行為ヲ爲ス作用ヲ謂フト爲スヲ語義上正當ナリト信ス故ニ

- (1) 外國ニ對シ私戰ヲ開始シタル行為ハ本罪ノ既遂ノ體様ナリ
- (2) 外國ニ對シ私戰ヲ開始セントシテ其實行即チ開始ニ著手シ未タ遂ケサル行為ハ本罪ノ未遂ノ體様ナリ
- (3) 外國ニ對シテ私戰ヲ開始スル豫備ヲ爲シタル行為ハ本罪ノ準備ノ體様ナリ

本罪ノ刑ハ

第一 既遂ノ體様ヲ有スル場合ハ有期流刑トシ

第二 未遂ノ體様ヲ有スル場合ハ第一百十二條、第一百十三條第一項ノ規定ニ依リ

有期流刑ヨリ一等又ハ二等ヲ輕減シタル刑即チ重禁獄又ハ輕禁獄トス

第三 準備ノ體様ヲ有スル場合ニ於テ

一 所謂隱謀ヲ爲シタルトキハ罪成立セス

二 豫備ヲ爲シタルトキハ第三百三十三條後段ニ依リ有期流刑ヨリ一等又ハ

二等ヲ輕減シタル刑即チ重禁獄又ハ輕禁獄トス

上述セル所ニ依レハ本條ノ罰スヘキ未遂ニ對スル刑ト豫備ニ對スル刑トハ全然同一ナリ戰端ヲ開クナル語句ヲ戰爭行為ノ未遂ト解スル論者ハ曰ク斯ノ如ク不權衡ヲ來スハ戰端ヲ開クト云フ語ヲ戰爭ノ既遂ト解釋スル結果ナリト

第三 日本帝國ノ臣民カ局外中立ノ布告ニ違背シタル罪 本罪ハ日本帝國ノ臣民カ局外中立ノ布告ニ違背シタル行為ニ關ス刑法ハ本國ナル語ヲ用ヒタルヲ以テ本罪ノ主體ニ日本帝國ノ臣民タル身分ヲ必要トスルコト明白ナリ刑法ハ(一)外國交戰ノ際(二)本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタルトキ(三)其布告ニ違背シ云々ト規定スレトモ(一)外國交戰ノ際ニアラサレハ事實上局外中立ノ布告アルヘ

キニアラス然ラハ局外中立ノ布告ト云ヘハ外國交戦ノ際ナルコトハ自明ノ理ナリ(二)局外中立ヲ布告シタル場合ニアラスハ事實上局外中立ノ布告ニ違背スルコトヲ得ス然ラハ局外中立ノ布告ニ違背シタリト云ヘハ局外中立ヲ布告シタルトキナルコトモ亦自ラ明ナリ局外中立トハ即チ國際法上ノ成語ニシテ二個以上ノ外國カ戦争ヲ開始シタル際其何レノ國家ニモ好意又ハ惡意ヲ表示セサル第三國ノ地位ヲ謂フ第三國カ上述ノ地位ニ在ル場合ニ於テハ國際法上局外中立ノ布告ヲ以テ其地位ヲ公表スルヲ通常トス刑法ハ此地位ヲ公表シタル布告ニ違背スル行爲ヲ鎮壓セントスルナリ然レトモ我從來ノ慣例ニ依レハ此布告ニハ單ニ中立ノ地位ニ立ツコトノミヲ公布スルニ止リ其結果トシテ國民ノ遵守スヘキ條項ヲ掲ケス故ニ正確ニ立論スレハ中立ノ布告ニ違背スト云フ語ハ全然意味ナキ語タルヲ免レスト雖モ要スルニ國際法上局外中立國ノ爲スヘカラサル行爲ト承認セラル、モノヲ禁制セントスル趣旨ト解セサルヘカラス

本罪ノ刑ハ主刑トシテ六月以上三年以下ノ輕禁錮、附加刑トシテ十圓乃至百圓

ノ罰金ナリトス

第三章 靜謐ヲ害スル罪及其刑

第一節 總說

靜謐トハ公ノ安寧又ハ秩序ナリト解釋シ靜謐ヲ害スル罪トハ公ノ安寧又ハ秩序ヲ害スル罪ト解釋ス刑法ハ本章ノ罪ヲ細分シテ種々ノ罪ヲ規定スト雖モ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪、囚徒逃走ノ罪、罪人藏匿ノ罪、附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪又ハ公務ヲ行フコトヲ拒ム罪ヲ靜謐ヲ害スル罪ト爲スハ不當ナルヘク尙ホ刑法カ財産罪トシテ規定セル罪ノ中放火、失火ノ罪又ハ決水ノ罪、船舶ヲ覆没スル罪ヲ靜謐ヲ害スル罪ト爲サ、リシハ不當ナルヘシ

第二節 兇徒聚衆ノ罪及其刑

第一款 總說

刑法ニ於テ兇徒聚衆ノ罪ト云フハ兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ爲ス行爲ニ關ス第一 兇徒多衆ノ嘯聚 刑法ニ所謂兇徒トハ憚惡ナル者ヲ意味スルカ如シト雖モ單ニ人衆即チ人ノ多數ナルコトヲ以テ足ル然ラハ特ニ兇徒ナル語ヲ使用ス

靜謐ヲ害スル罪及其刑 總說

兇徒聚衆ノ罪及其刑 總說

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 總說 兇徒聚衆ノ罪及其刑

ルノ必要ナキカ如シ多衆トハ人ノ多數ヲ謂フ然ラハ幾人以上ノ聚合ヲ以テ多衆ノ聚合ト稱スヘキヤハ事實問題ニシテ豫メ之ヲ説明スルコトヲ得ス所謂嘯聚トハ其語句ノ解釋上聚合スルコトニアラスシテ聚合セシムルコトナリト云ハサルヘカラス然ラハ多衆カ自ラ聚合スルコトハ嘯聚ニアラストナスヘキカ多少ノ異説ナキニアラス且字義ノ解釋トシテハ或ハ妥當ヲ缺クカ如シト雖モ暴動一般ノ觀念ヨリ打算シテ嘯聚トハ單ニ聚合スル行爲即チ多衆カ聚合スル行爲ヲ謂フト解スルヲ通説トス

第二 暴動 暴動トハ刑法第三百三十七條ニ例示スル如ク多衆カ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ村市ヲ騷擾スル等ノ暴行又ハ脅迫ヲ謂ヒ純内亂ト異ル所ハ唯朝憲紊亂ノ目的ノ有無ニ在ル如シ而シテ暴動ノ干與者ハ二ノ方面ヨリ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

一 一物トシテ觀察シタル暴動者ノ干與者 暴動ヲ一物トシテ觀察スルトキハ其干與者ヲ暴動ニ於ケル地位如何ニ依リテ區別シテ暴動ノ首魁暴動ノ教唆者暴動ノ助勢者及暴動ノ附和隨行者ト爲スコトヲ得

二 個々ノ行爲ノ集合トシテ觀察シタル暴動ノ干與者 暴動ヲ個々ノ行爲ノ集合トシテ觀察スルトキハ暴動ノ干與者ハ各其干與者ノ犯シタル行爲如何ニ依リ之ヲ區別スルコトヲ得故ニ實際上ヨリ言フトキハ暴動干與者ノ中ニハ殺人犯人モアルヘク強盜犯人モアルヘク又放火犯人モアルヘシ

刑法ハ第三百三十七條ニ多衆聚合シテ暴動ヲ爲シタル罪ヲ規定シ第三百三十六條ニ多衆聚合シテ暴動ヲ謀リ不當ニ解散セサル罪ヲ規定ス即チ刑法ニ於テハ多衆聚合ノ行爲ヲ區別シ多衆聚合シテ暴動ヲ實行シタルトキハ第三百三十七條ノ罪トシ多衆聚合シテ暴動ヲ謀リタル場合ニ於テ官吏ノ説諭ヲ受ケテ解散シタルトキハ少クトモ暴動罪ハ成立セサルモノトシ官吏ノ説諭ヲ受ケタルニ拘ラス尙ホ解散セサルトキハ第三百三十六條ノ罪トセリ

多衆聚合シテ暴動ヲ謀リ不當ニ解散セサル罪及其刑

第二款 多衆聚合シテ暴動ヲ謀リ不當ニ解散セサル罪及其刑

本罪ハ所謂不作爲罪ニシテ多衆聚合シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受ケタルニ拘ラス仍ホ解散セサル不作爲ニ關ス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 兇徒聚衆ノ罪及其刑

ス然ラハ其一人カ殺害行為及放火行為以外ノ罪タル行為ヲ爲シタリトセハ個々ノ罪ト暴動罪トノ二罪俱發ナリト斷定スヘキナリ然レトモ其個々ノ行為カ暴動ニ必要ナルモノナルトキハ内亂罪ニ付キ述ヘタルト同シク自ラ別問題ナリ或ハ曰ハン若シ然ラハ刑法カ特ニ第三百三十八條ノ規定ヲ設ケタル理由如何ト然レトモ刑法第三百三十八條ハ主トシテ同條第二項ノ罪ヲ規定スル爲メ之ヲ設ケタルモノニシテ兼テ殺害行為ハ其謀殺行為ナルト若ハ故殺行為ナルトヲ區別セス又放火行為ハ人ノ住居シタル家屋ニ關スルト若ハ人ノ住居セサル家屋ニ關スルトヲ區別セス又人ヲ乗載シタル艦船、瀛車ニ關スルト否ラサルトヲ區別セス又自己ノ家屋ニ關スルト若ハ他人ノ家屋ニ關スルトヲ區別セス之ニ死刑ヲ科スル旨ヲ明ニシタルナリ換言スレハ第三百三十八條第一項ニ記載シタル罪ニハ暴動ノ際ナルコトヲ理由トシテ通常ノ罪ヨリ比較的重キ刑ヲ科セントスルナリ

暴動ノ首魁又ハ教唆者又ハ犯情重キ助勢者カ暴動ニ著手スト雖モ意外ノ障礙ニ因リ之ヲ遂ケサルトキハ未遂犯成立ス然レトモ刑法第三百三十六條ニ依レハ官吏ノ説諭ヲ受クルニ拘ラス解散セサルコトヲ條件トシテ總テ暴動ノ陰謀、豫備及著

手ヲ特別罪トシテ規定シタリ然ラハ官吏ノ説諭ヲ受ケテ解散シタル者カ暴動ノ首魁又ハ教唆者或ハ犯情重キ助勢者タルトキハ之ニ本條ノ罪ノ意外ノ障礙ニ因ル未遂ノ責任ヲ歸スヘキモノトシ官吏ノ説諭ヲ受クルニ拘ラス解散セサル者カ暴動ノ首魁、教唆者若ハ附和隨行者タルトキハ之ニ第三百三十六條ノ責任ヲ歸スヘキモノトス而シテ上述二箇ノ場合ニ適用スヘキ刑ヲ見レハ解散シタル者ハ比較的的重キ刑ヲ科セラレ解散セサル者ハ比較的輕キ刑ヲ科セラル、奇觀ヲ呈ス多衆カ聚合シテ暴動ヲ爲シタル場合ニ於テ其首魁又ハ教唆者ニハ重懲役ヲ科シ其犯狀重キ助勢者ニハ輕懲役、犯狀輕キ助勢者ニハ二年乃至五年ノ重禁錮ヲ科シ其附和隨行者ニハ二圓乃至二十圓ノ罰金ヲ科ス

多衆聚合シテ暴動ヲ爲シタル場合ニ於テ其一人又ハ數人カ殺害行為又ハ放火行為ヲ爲シタルトキハ各之ニ死刑ヲ科シ暴動罪ノ刑ヲ科セス而シテ上述ノ犯人ノ教唆者ハ刑法第一百五條ニ依リ同一ニ科刑セラルヘキコト明瞭ナレトモ刑法ハ第三百三十八條第二項ニ於テ情ヲ知ルニ拘ラス犯行ヲ制止セサル暴動ノ首魁及教唆者ニモ上述ノ犯人ニ對スル刑ト同一ノ刑即チ死刑ヲ科スヘキ旨ヲ規定シタリ是

官吏ノ職
務ヲ妨害
スル罪及
其刑
總説

レ是等ノ首魁及教唆者ヲ嚴罰セントスルノ趣旨ニ外ナラス

第三節 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

第一款 總説

本節ノ罪ハ其職務執行ノ抗拒罪ナルト又ハ官吏侮辱罪ナルトヲ問ハス常ニ官吏タル身分ヲ有スル者ニ對シテ之ヲ犯スコトヲ必要トス歐洲ノ立法例ニ於テハ刑法ニ所謂官吏ノ何タルヤヲ明定スルモノ尠シトセス而シテ我國法ニ於テ所謂官吏トハ(1)狹義ノ官吏(2)公吏(3)憲兵上等兵(4)陸軍上等卒ナリ

第一 狹義ノ官吏

官吏ノ何タルヤニ付テハ異説甚々多シト雖モ今試ニ其大略ヲ説明スヘシ
國家各般ノ政務ハ主權者之ヲ總攬スト雖モ事實上必ス多數ノ吏員ヲ使用シテ其處理ニ任セシメサルヘカラス而シテ其吏員ヲ採用スル形式ニ三様アリ即チ徵集、雇傭及任命是ナリ以上三種ノ形式中第三種ノ形式即チ任命ノ形式ニ依リテ公務ニ從事スル者ハ所謂官吏ナリ狹義ノ官吏ト非官吏トノ區別ノ標準ハ任命ノ形式ニ依リ公務ニ從事スルト否ラサルトニ存ス從テ或學者ノ言ヘルカ如ク其區別ノ標準ハ職務ノ有無ニアラス職務ニ專任スルヤ否ヤニアラス俸給ノ有無ニアラス職務ノ性質如何ニアラス要スルニ狹義ノ官吏トハ任命ナル公法上ノ形式ニ依リ公務ニ從事スル者ヲ謂ヒ俸給ヲ受ケ不定量ノ職務ヲ負擔シテ司法事務、中央行政事務、軍事、外交ニ從事スルコトヲ常トス

上來説述シタル所ニ依レハ任命ノ有無ハ即チ官吏ナル特別ノ身分ノ有無ヲ判斷スル唯一ノ標準ナリ然ラハ任命ノ形式ハ實際上果シテ如何ナル標準ニ依リテ雇傭又ハ徵集ノ形式ト區別スヘキヤ徵集ノ形式カ任命ノ形式ト區別アルコトハ明白ニシテ一點ノ疑ナシト雖モ我國法ノ實際ニ於テハ未タ嚴格ニ雇傭及任命ノ形式ヲ區別スルニ至ラス從テ又正確ニ官吏ト被雇傭者トヲ區別スルコトヲ得ス然ラハ上來説述シタル官吏ノ意義モ亦不明確ナルコトヲ免レスト雖モ我現行ノ國法上正確ニ官吏ノ意義ヲ説明スルコトハ到底不能ノコトニ屬ス二個々ノ吏員ニ付テ論スレハ文武高等官及文武判任官ノ官吏ナルコトハ勿論ニシテ一點ノ疑ナシト雖モ所謂準官吏及執達吏カ官吏ナリヤ否ヤニ付テハ異論ナキニアラス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

準官吏ナル語ハ我國法上種々ノ法律ニ散見スト雖モ何等正確ニ其意義ヲ説明シタルモノナシ余ハ此語ヲ以テ所謂奏任待遇又ハ判任待遇ヲ受クル者ヲ指稱シタルモノト解セントス而シテ巡查、看守ハ判任官ヲ以テ待遇ストノ勅令アリ公立中學校、高等女學校、專門學校ノ校長、教諭、助教諭、舍監、書記ハ判任文官ト同一ニ待遇シ學校ノ等位種類等ニ依リ學校長及教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ニ待遇ストノ勅令アリ市町村立小學校長及教員ハ判任文官ト同一ニ待遇ストノ勅令アリ其他諸般ノ法令ニ依リ奏任又ハ判任ノ待遇ヲ與フヘキ者ヲ規定セリ余ハ是等ノ待遇官吏即チ所謂準官吏ハ官吏ニアラスト信ス巡查、看守ノ如キハ立法論トシテ之ヲ官吏ト爲スコトヲ必要ト思料スト雖モ單ニ官吏ト同一ノ待遇ヲ受クルノ一事ヲ以テ直ニ之ヲ狹義ノ官吏ト云フコトヲ得スト信ス
 執達吏ハ官吏ナリヤ蓋裁判所構成法ニ依レハ執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補スト規定シ執達吏規則ニ於テ執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ルト規定セルヲ以テ官吏ト見サルヘカラス執達吏規則ニ依レハ執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ種々ノ事務ヲ管掌スル職務ヲ有スルヲ以テ或ハ公吏ニ

シテ官吏ニアラサルヤノ外觀ナキニアラスト雖モ官吏タル要素ハ其職務ニ專任スルニアラサルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ
 學者或ハ曰ク官吏タラサル者ト雖モ現實ニ官吏ノ爲スヘキ職務ニ従事スル際ハ之ヲ官吏ト認ムヘキモノナリト而シテ大審院モ嘗テ此見解ヲ採用セシモ明治三十五年末ニ至リ官吏ニ關スル見解ヲ理論的ニ發表シテ高等官、判任官及法律上是等ノ者ニ準スヘキ者ノミカ官吏ナリト定義シ爾來各方面ニ於テ此論理ヲ貫徹セントスルカ如シ故ニ此見解ニ從フトキハ執達吏規則ニ依ル執達吏代理ノ官吏侮辱、通信事務員ノ監守盜其他ヲ生スルコトナカルヘシ
 第二 公吏 明治二十五年十月法律第百號ニ依レハ刑法中官吏ニ關スル條項ハ之ヲ公吏ニ適用スル旨ヲ規定スト雖モ官吏ト同ク一モ其内容ヲ規定セス然レトモ當時恰モ自治制ヲ施行シタル際ナリシコト等ヨリ稽查スレハ公吏トハ概テ此見解ヲ採レルカ如シ然ラハ公吏トハ地方自治團體ニ屬スル事務ヲ執行スル吏員ヲ謂フ地方自治團體ニ於テモ雇傭契約ニ依リテ其事務ニ従事スル者ヲ

採用スルコトナキニアラサルモ其被雇傭者ハ公吏ニアラス從來學者ハ公吏ノ何タルヤニ付キ研究ヲ爲サ、リシカ如シ從テ其觀念ヲ明確ニスルコト困難ナルカ故ニ左ニ府縣制郡制市制及町村制ニ依リテ公吏ト公吏ニアラサル吏員トニ付キ説明セントス

一 府縣

- (イ) 參事會(府縣制 六) 參事會ノ權限ハ府縣制ニ依レハ主トシテ議決ヲ爲スコトニ在リテ府縣ノ行政ヲ執行スルコトニ在ラス故ニ異説ナキニアラスト雖モ府縣參事會員ハ之ヲ公吏ト爲サ、ルコトヲ通説トス大審院モ亦然リ但府縣知事及府縣高等官ハ其官吏タル資格ニ於テ當然府縣ノ參事會員ト爲ルモノナルヲ以テ常ニ官吏ナリト云ハサルヘカラスト信ス
- (ロ) 臨時又ハ常設ノ委員(府縣制 七)
- (ハ) 府縣ノ出納吏其他ノ吏員(府縣制 七)

二 郡

- (イ) 參事會(郡制 四) 參事會ノ權限ハ府縣參事會ノ權限ト同一ナルカ故ニ郡參

事會員モ亦之ヲ以テ公吏ト爲スコトヲ得ス但郡長ハ府縣知事等ニ付キ述ハタルト同一ノ理由ニ因リ常ニ之ヲ官吏ト云ハサルヘカラスト

- (ロ) 臨時又ハ常設ノ委員(郡制 五)
- (ハ) 郡ノ出納吏其他ノ吏員(郡制 六)

三 市

(イ) 參事會(市制 四) 市參事會ハ市長、市助役及名譽職參事會員ヲ以テ組織セラル、モノニシテ其權限ノ性質上之ヲ組織スル會員ハ總テ公吏ト云フコトヲ得ヘシ

- (ロ) 臨時又ハ常設ノ委員(市制 五)
- (ハ) 收入役(市制 九)
- (ニ) 書記其他ノ附屬員(市制 六)
- (ホ) 區長及區ノ附屬員(市制 六)

四 町村

- (イ) 町村長及助役(町村制 五)

刑法各論 本論、重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

(ロ) 臨時又ハ常設ノ委員(町五村制)

(ハ) 收入役(町二村制)

(ニ) 書記其他ノ附屬員(町三村制)

(ホ) 區長及其代理者(町四村制)

地方自治團體ノ經營スル事業ニ從事スル者即チ教育事務其他ノ公務ニ從事スル者ノ如キハ公吏タルヤ否ヤニ付キ疑アリト雖モ之ヲ公吏トスルモ何等ノ支障ナシト信ス

余ノ所謂公吏トハ上述シタル者ニ止ル學者或ハ曰ク公吏トハ必シモ地方自治團體ニ屬スル行政事務ニ從事スル者ノミヲ謂フニアラスト上述シタルカ如ク我國法ハ公吏ナル語ヲ使用スト雖モ毫モ其内容ヲ定ムヘキ規定ヲ設ケス是以テ公吏ナル語ニ如何ナル内容ヲ有セシムルモ學者ノ自由ナリ然ラハ公吏ナル語ヲ余ノ所謂公吏以外ニ擴張セントスルモ之ヲ不當ナリト云フコトヲ得スト雖モ余ハ之ヲ採ラス蓋余ノ論結ト反對論例ハ大審院ノ判決例トノ差異ハ主トシテ公證人ヲ公吏ト爲スヤ否ヤノ點ニ在リ余モ亦公證人ハ立法論トシテハ

之ヲ公吏ト同視スヘキモノト信スト雖モ解釋上若シ公證人ヲ公吏ト爲シ得ヘクンハ辯護士ハ何故ニ之ヲ公吏ト爲スコトヲ得サルヤ公證人ヲ公吏ト爲スハ畢竟公吏ト非公吏トノ區別ヲ一層曖昧ナラシムルニ過キス

第三 憲兵卒 明治十五年十二月第七十三號布告憲兵卒職務ニ關スル犯罪處斷方ニ依レハ憲兵卒カ職務ニ關スル罪ヲ犯シタルトキハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷スト規定スルヲ以テ此法律ニ基キ官吏トシテ取扱ヲ爲サルヘカラス然レトモ明治二十八年七月勅令等百十一號ニ依レハ憲兵上等兵ハ判任ノ待遇ヲ受クルヲ以テ若シ大審院ノ新見解ニ依レハ當然官吏タルニ至ルヘシ

第四 陸軍上等兵 明治十五年八月司法省令第四十一號陸軍上等卒犯罪處斷方ニ陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタルトキハ總テ官吏ニ準シ候儀ト心得ヘシ云々ト故ニ其準官吏タルハ單ニ其主體ニ官吏タル身分ヲ要スル罪ニ關スル場合ノミニシテ其官吏タル身分ヲ有スル者ニ對スル罪ニ關スル場合ニ於テハ一私人ト同一ニ待遇スヘキナリ

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 辯護ヲ害スル罪及其刑 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

官務執行ノ職
吏ノ職ヲ
拒シタ
ル罪及
其刑

暴行又ハ
脅迫ヲ以
テ執行官
吏ノ職務
ヲ拒シタ
ル罪及
其刑

第二款 官吏ノ職務執行ヲ抗拒シタル罪及其

刑

第一項 暴行又ハ脅迫ヲ以テ執行官吏ノ職務執行ヲ抗拒シタル罪及其刑

刑法ハ單ニ「其官吏ニ抗拒シ」ト規定スト雖モ「其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官吏ノ命令ヲ執行スルニ當リ」ナル語句ヲ比照セハ其所謂「其官吏」トハ執行官吏タルコトヲ推知スルニ足ルヘク又其所謂「官吏ニ抗拒シ」トハ官吏ノ職務執行ヲ抗拒スル意義ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ刑法ニ所謂「法律規則」トハ法律命令ヲ謂ヒ「行政司法官署ノ命令」トハ所謂行政處分即チ處分、裁決並ニ司法裁判即チ判決、決定、命令ヲ謂ヒ「執行」トハ所謂形式上及實質上確定シタル國家ノ意思ノ實現ニシテ必要ナル場合ニ於テハ強制的ニ實行シ得ヘキモノヲ謂フ
本罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ執行官吏ノ職務執行ヲ抗拒シタル行為ニ關ス抗拒トハ一個ノ勢力カ他ノ勢力ニ對シ積極的ニ對抗スル作用即チ二個以上ノ勢力カ相爭フ作用タルニ過キサルヲ以テ少クトモ二個以上ノ勢力存在スルニアラサレハ

抗拒ナル作用アルヘキニアラス又縱令二個以上ノ勢力アリト雖モ其勢力カ相互ニ其勢力ヲ以テ他ノ勢力ヲ抑制セントスル作用アルニアラサレハ抗拒ト云ヒ得サルヲ以テ一ノ勢力カ他ノ勢力ニ抑制セラル、コトヲ免レントスル作用ハ抗拒ト云フコトヲ得サルヘシ

第一 執行官吏ノ職務執行ノ抗拒 執行官吏ノ職務執行ノ抗拒トハ執行官吏ニ抗拒シテ其職務執行ヲ妨害シタル作用ヲ謂フ故ニ執行行為ヨリ謂ヘハ之ヲ妨害スル作用ト爲リ執行官吏ヨリ謂ヘハ之ニ抗拒スル作用ト爲ル執行官吏トハ必要ナル場合ニ於テハ強制的ニ實行シ得ヘキ權限ヲ有シテ人又ハ物ニ對シ法律命令又ハ行政處分又ハ司法裁判ヲ實行スル官吏ヲ謂フ執行官吏ノ職務執行トハ執行ノ職務ヲ實行スル作用ヲ謂フ而シテ執行ノ何タルカニ付テハ前ニ述ヘタリ然レトモ一般ニ謂フトキハ如何ナル場合ニ於テ職務ノ執行アリト云フヘキヤハ稍複雑ナル問題ナリトス余ハ職務執行ナリヤ否ヤハ管轄權ノ存否所謂具體的管轄權ノ存否及職務執行ノ形式ノ存否如何ニ依リテ之ヲ決定セントス

(イ) 管轄權ノ存否 官吏ノ管轄權ニ二ノ種様アリ即チ一ハ土地管轄權ニシテ
 一ハ事物管轄權是ナリ故ニ或行爲カ職務執行ナリヤ否ヤハ先ツ職務ヲ執行
 シタル土地ハ其官吏カ正當ニ職務ヲ執行シ得ヘキ地域内ナリヤ否ヤ及職務
 ヲ執行シタル事物ハ其官吏カ正當ニ職務ヲ執行シ得ヘキ人物又ハ事實ニ關
 スルヤ否ヤニ依リテ決セサルヘカラス

(ロ) 所謂具體的管轄權ノ存否 具體的管轄權トハ一般ノ土地管轄權及事物管
 轄權ヲ抽象的管轄權ト看做シ之ニ相對シテ名ケタル語ニシテ個々ノ職務執
 行ニ付テノ管轄即チ個々ノ職務行爲ヲ爲ス法律上ノ要件ノ存在及法律上ノ
 範圍内ノ職務執行ヲ謂フ換言セハ其職務執行ハ法律上所定ノ理由ニ根據ス
 ルモノニシテ且法律上所定ノ範圍内ニ屬スルモノナルコトヲ要ス而シテ官
 吏カ其職務ヲ執行スル法律上所定ノ理由ハ或ハ其官吏ノ判斷ナルコトアリ
 又ハ上級官吏ノ適法ノ命令ナルコトアツ上級官吏ノ命令ニ依據シテ職務執
 行ヲ爲シタル場合ニ於テ絶對ノ服從關係ヲ有シタルトキハ其行爲カ客觀的
 違法ノ行爲ナリト雖モ尙ホ其官吏ニ付テハ之ヲ適法行爲ナリト云フヘキコ

トハ刑法第七十六條ノ規定スル所ナリ然レトモ職務執行自體ノ適否ヲ論ス
 ルニ付テハ其理由ハ當該官吏ノ判斷ナルト又ハ其上級官吏ノ命令タルトヲ
 區別セス又ハ其上級官吏ニ對シ絶對ノ服從關係ヲ有スルト否トヲ區別セス。
 上級官吏ノ違法ノ命令ニ依據シ又ハ其職務ノ範圍外ニ於テ爲シタル行爲ハ
 常ニ之ヲ違法ノ職務執行即チ職務執行ニ屬セサル行動ト云ハサルヲ得ス再
 言スレハ余ハ官吏ノ客觀的違法ノ行爲ハ如何ナル場合ニ於テモ其官吏ノ職
 務行爲ニアラスト論斷セントス
 然レトモ事實上法律ニ定メタル理由ニ依據セス又ハ法律ニ定メタル範圍ニ
 屬セサルニ拘ラス官吏カ錯誤ニ因リ之ヲ法律上所定ノ理由ニ依據シ又ハ法
 律上所定ノ範圍ニ屬スト思斷シテ爲シタル場合ハ如何ナル效果ヲ生スルヤ
 此問題ヲ解明スル學說ハ便宜上之ヲ二個ニ區別スルコトヲ得
 第一說ハ官吏ノ錯誤ハ客觀的違法ノ行動ヲ適法ノモノト爲スニ足ラストス
 ル見解ナリ

第二說ハ官吏カ其職務ニ相當ナル考慮ヲ爲シタル後行爲ヲ爲シタル場合ニ

於テハ其錯誤ハ客觀的違法ノ職務執行ヲ適法ノモノト爲ストノ見解ナリ詳言スレハ此見解ハ錯誤ヲ法律上ノ錯誤宥恕スヘカラサル事實上ノ錯誤及宥恕シ得ヘキ事實上ノ錯誤ノ三ニ區別シ特定ノ事實上ノ錯誤ニ限り客觀的違法ノ職務執行ヲ適法ノモノト看做ストスルモノナリ

余ハ第一ノ見解ヲ以テ理論ニ適合スルモノト信ス然レトモ職務執行自體ノ適法ナリヤ否ヤノ問題ト執行官吏カ其職務執行ニ對シ罪責ヲ有スルヤ否ヤノ問題トハ全然區別セサルヘカラス

(ハ) 職務執行ノ形式ノ存否、職務執行ニ關シテハ法律上必ス一定ノ形式ヲ履行スヘキコトヲ命シタル場合敢テ尠シトセス特ニ刑事訴訟法ニ於テ最モ其然ルヲ見ル此場合ニ於テハ法定ノ形式ヲ履行セサリントキハ其執行ハ全然違法ノ執行ナリト云ハサルヘカラス

而シテ職務執行ノ抗拒トハ官吏カ職務執行ヲ爲ス際ニアラスハ生スヘカラサル事項ニ屬ス故ニ官吏ニ抗拒シタル場合ト雖モ其官吏カ職務ニ關セサル行爲ヲ爲ス際ナリトセハ職務執行ノ抗拒トハ謂フヘカラサルノミナラス又

其官吏カ職務執行ヲ爲ス際ト雖モ客觀的適法ノ職務執行ヲ爲ス際ニアラスハ職務執行ノ抗拒ハ存在セス

第二 暴行又ハ脅迫ニ因ル抗拒 抗拒トハ當然暴行又ハ脅迫ヲ手段トスルコトヲ意味ス故ニ刑法カ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル者云々ト云ヘルハ全然無意味ナリ

一 暴行 抗拒ノ手段タルヘキ暴行ニ付テハ刑法ハ別ニ何等ノ制限ヲ付セス而シテ本罪ノ性質ヨリ思考スルトキハ其暴行ナル語ヲ狹義ニ解釋セサルヘカラサル特別ノ事由ナシ余ハ抗拒ノ手段タル暴行ハ直接又ハ間接ニ執行官吏ニ對スル暴行ヲ謂フト解釋ス

二 脅迫 抗拒ノ手段タル脅迫ハ暴行ノ脅迫ナリト解釋ス然ラハ名譽毀損ノ脅迫ニ因ル抗拒ハ官吏抗拒罪ヲ構成セサル結果ヲ生スヘシ

本罪ニ對スル刑ハ

一 主刑ハ四月乃至四年ノ重禁錮トシ

二 附加刑ハ五圓乃至五十圓ノ罰金トス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

官吏抗拒罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ手段トスルモノナルヲ以テ其暴行ヲ手段ト爲シタル場合ニ於テハ或ハ執行官吏ヲ毆打スル結果之ヲ傷害シ又ハ致死セシムルコト敢テ尠シトセス刑法ハ其第四百十條ニ於テ此種ノ行爲ヲ特定ノ一罪ト規定シタリ

官吏抗拒ニ因ル毆傷罪ニ對スル刑ハ官吏抗拒罪ノ刑ト毆打創傷ノ各本條ニ規定シタル刑ニ一等ヲ加ヘタルモノトノ中比較的重キ刑ナリトス

明治二十二年法律第二十八號議會並ニ議員保護ノ件第三條ニハ議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ヲ處罰シ第五條ハ因テ議員ヲ毆傷シタル者ノ處分ヲ規定シタリ是レ議員ハ官吏又ハ公吏ニアラサルカ故ニ立法セラレタルニ過キス

暴行又ハ脅迫ヲ執行官吏以外ノ職務ヲ爲シタル者ノ爲メ其刑

第三項 暴行又ハ脅迫ヲ以テ執行官吏ヲシテ職務以外ノ行爲ヲ爲サシメタル罪及其刑

刑法第三百三十九條第二項カ如何ナル罪ヲ規定スルヤハ刑法發布以來學者間ニ異

說アル一問題ナリ抑刑法第三百三十九條ニ關スル立法ノ沿革ヲ考フルニ佛文第一草案ニ於テハ本條第一項ノ罪ハ官吏カ適法ナル職務ノ執行ヲ爲シタル場合ニ於テノミ成立スルモノト爲シ第二項ニ該當スル條項ニ於テハ前顯ノ官吏ニ其爲スコトヲ欲セサル行爲ヲ強行セシムル目的ヲ以テ暴行脅迫ヲ爲シタルトキ亦同シト規定シタリ然ルニ日本草案ニ於テハ第一項ハ佛文草案ノ規定ヲ全部襲用セシニ拘ラス其第二項ノ規定ヲ變改シテ「官吏ノ權内ニアラサル事件ヲ強行セシメタル者亦同シ」ト爲シ一二文字ノ修正ヲ經テ現行刑法ノ規定ヲ生シタルナリ茲ニ於テカ或ハ第二項ノ立法ノ眞意ハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ職務外ノ行爲ヲ行ハシメタル行爲ヲ罪ト爲スニアリト爲シ或ハ本條第二項ノ立法ノ趣意ハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲スコトヲ欲セサル行爲ヲ行ハシメタル行爲ヲ罪ト爲スニ在リト爲セリ今立法論トシテ論スレハ獨逸刑法ノ如キモ暴行脅迫ヲ以テ官吏ニ對シ其適法ノ職務行爲ヲ強要シタル行爲ヲ罪トセルノミナラス暴行又ハ脅迫ヲ以テ官吏ニ作爲又ハ不作爲ヲ強要スルハ多クノ場合ニ於テ官吏ノ適法ノ職務行爲ニ關スヘキモノナルカ故ニ或ハ第二ノ見解ヲ可トスヘキカ如シト雖モ刑法ハ明ニ暴行

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 誹謗ヲ害スル罪及其刑 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シト規定ス從テ
解釋論トシテハ第一ノ解釋ニ從ハサルヘカラス
余ハ本項ノ罪ハ暴行脅迫ヲ以テ執行官吏ヲシテ職務外ノ行爲ヲ爲サシメタル行
爲ナリト解釋ス

本罪ノ刑ハ官吏抗拒罪ノ刑ト全然同一ナルノミチラス本罪ヲ犯シ因リテ官吏ヲ
毆傷シタル場合ノ刑モ亦官吏抗拒ニ因ル毆傷罪ノ刑ニ同シ

職務ニ關
スル官吏
侮辱罪及
其刑

第三款 職務ニ關スル官吏侮辱罪及其刑

官吏侮辱罪ニ關シテハ理論上凡ソ三様ノ法制ヲ想像スルコトヲ得ヘシ而シテ此
三様ノ法制ハ概テ刑法ノ沿革ニ於テモ亦之ヲ認ムルコトヲ得

第一 總テ官吏ニ對スル侮辱ヲ特別ノ侮辱罪ト爲ス法制 此法制ノ中ニ付テモ
身分ノ高下ニ依リ數多ノ特別ノ侮辱罪ト爲スモノト單ニ一個ノ特別ノ侮辱罪
ト爲スモノトアリ得ヘシ

第二 官吏ニ對スル侮辱ハ職務ニ關スル侮辱ニ限リテノミ之ヲ特別ノ侮辱罪ト
爲ス法制 此法制ハ沿革上ヨリ謂ヘハ漸ク第十九世紀ノ初ニ於テ唱道セラレ

タル說ニシテ官吏ハ其職務ト牽聯スル場合ニ於テノミ官吏ナリトノ思想ニ根
據セルモノナリ此法制モ亦之ヲ身分ノ高下若ハ種類ニ依リ數多ノ特別ノ侮辱
罪ト爲ス法制ト單ニ一個ノ特別ノ侮辱罪ト爲ス法制トニ分ツコトヲ得而シテ
職務ニ關スル侮辱ニ限リ身分ノ高下若ハ種類ノ如何ヲ問ハス單ニ一ノ特別ナ
ル侮辱罪ト爲ス法制ハ我刑法ノ採用セル主義ナリトス

第三 官吏ニ對スル侮辱ヲ特別ノ侮辱罪ト爲サ、ル法制 此法制ハ沿革上最近
ニ發達セルモノニ屬シ官吏ト雖モ其名譽傷害ニ關シテハ特ニ之ヲ通常人ト區
別スル必要ナシトスルノ思想ニ根據スルモノナリ獨逸刑法ハ此法制ヲ採用セ
リ

官吏侮辱罪ニ關シテハ上述シタル如ク種々ノ法制ヲ想像スルコトヲ得ヘシト雖
モ余ハ少クトモ現時ニ於テハ職務ニ關スル官吏侮辱及職務執行中ノ官吏侮辱ハ
之ヲ特別侮辱罪ト爲ス必要ヲ感スルモノナリ
本罪ハ官吏ノ職務ニ關シ特定ノ方法ニ依リ侮辱スル行爲ナリ再言スレハ特定ノ
方法ニ依ル官吏ノ職務ニ關スル侮辱行爲ナリ

侮辱トハ名譽ニ對スル傷害行為ナリト雖モ之ヲ正確ニ論スルトキハ威嚴ヲ汚損スル行為ナリト云ハサルヘカラス刑法中名譽ニ對スル傷害行為ヲ表示スル爲メ使用シタル語句數多アリ即チ或ハ侮辱ト云ヒ或ハ誣告ト云ヒ(例ハ三五六)或ハ誹毀(例ハ三五六)ト云ヒ或ハ詈罵嘲弄(例ハ四二六)ト云フ是等ノ語句ニ付キ各正確ナル區別ヲ爲スコトハ固ヨリ困難ナルヘシト雖モ又多少ノ區別ナキニアラス惟フニ詈罵嘲弄トハ意見ノ發表ニ依ル名譽及體面ノ傷害ヲ謂ヒ誹毀トハ名譽ヲ傷害スヘキ事實ヲ發表スル行為ヲ謂フ誣告ハ曩ニ述ヘタルカ如ク一面ハ名譽傷害ノ性質ヲ有スルモ其侮辱誹毀罵詈嘲弄ト區別アルハ言ヲ俟タス侮辱トハ直接ニ體面ヲ傷害シ間接ニ名譽ヲ傷害スルモノナルヲ以テ既ニ事實又ハ意思ノ發表ニ依リ直接ニ名譽ヲ傷害スル行為アリトスレハ常ニ之ヲ侮辱ト云ヒ得ヘキノミナラス體面ヲ汚瀆シ又ハ其資格ニ附隨セル威嚴ヲ無視スル行為ト雖モ尙ホ之ヲ侮辱ト云フコトヲ得ヘシ即チ詈罵嘲弄又ハ誹毀ノ侮辱タルコトハ勿論罵詈嘲弄又ハ誹毀ト云フコトヲ得サル數多ノ行為ヲ含メリ而シテ侮辱ハ其客體對手人ノミ現在スル場合ト雖モ之ヲ爲シ得ヘシト雖モ誹毀ハ其對手人以外ニ尙ホ第三者ノ介在スルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サル結果ヲ生ス

侮辱ハ種々ノ標準ニ依リ之ヲ區別スルコトヲ得

- 第一 職務ニ關スル侮辱及職務ニ關セサル侮辱 職務ニ關スル侮辱ハ侮辱力職務ニ關スルコトヲ要件トス故ニ職務執行中ノ侮辱ナリト雖モ必シモ職務ニ關スル侮辱ナリトハ謂フヘカラス又職務ヲ執行セサル際ニ於ケル侮辱ナリト雖モ必シモ職務ニ關スル侮辱ニアラスト云フヘカラス或ハ曰ク職務執行中ノ侮辱ハ常ニ職務ニ關スル侮辱ナリト理論上ハ決シテ然ラス或ハ曰ク非職官吏ニ對シテハ職務ニ關スル侮辱ナシト職務ヲ有セサル者ニ對シテ職務ニ關スル侮辱ノ存セサルコトハ論ナシト雖モ非職ノ官吏待命中ノ官吏等ノ如キハ其前職務ヲ有セシ者ナルヲ以テ其前ノ職務ニ關スル侮辱ヲ想像スルコトヲ得ヘシ
- 第二 職務ヲ行フ際ニ於ケル侮辱及職務ヲ行ハサル際ニ於ケル侮辱 非職官吏待命中ノ官吏ノ如キハ尙ホ官吏ナリト雖モ職務ヲ有セサルヲ以テ從前ノ職務ニ關シ侮辱セラル、コトアリト雖モ職務執行中ニ侮辱セラルヘキ理ナシ
- 第三 面前ニ於ケル侮辱及面前ニ於テセサル侮辱 侮辱ハ前述ノ如ク人ノ體面

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 誹謗ヲ害スル罪及其刑 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪及其刑

ノ傷害ナリ人ノ體面ハ或ハ其現在スルト否トヲ問ハス之ヲ傷害スルコトヲ得ヘシ

第四 所作ニ依ル侮辱言語ニ依ル侮辱及印刷物ニ依ル侮辱 印刷物ノ何タルヤニ付テハ多少ノ異論アリト雖モ要スルニ活版又ハ其他ノ化學的又ハ機械的ノ方法ニ依リ一時ニ其多數ヲ作りタル文書、圖書又ハ之ニ類似ノ物ヲ謂フ

刑法ハ官吏侮辱罪ヲ規定スルニ付キ左ノ法制ニ依レリ

第一 職務ニ關セサル官吏侮辱ハ凡テ之ヲ罪ト爲サス

第二 職務ニ關スル官吏侮辱ニ付キ其面前ニ於テ爲シタル侮辱ヲ第一項ニ規定シ其面前ニ於テセサル侮辱ヲ第二項ニ規定シタリ

第三 其面前ニ於テ侮辱スル場合ニ於テハ所作又ハ言語ヲ侮辱ノ手段ト爲シ否ラサル場合ニ於テハ侮辱ノ手段ヲ印刷物ノ刊行及公然ノ演説ノミニ限定シタリ

本罪ニ對スル刑ハ主刑ハ一月乃至一年以下ノ重禁錮ニシテ附加刑ハ五圓乃至五十圓以下ノ罰金ナリ

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑
囚徒逃走ニ關スル罪及其刑
總說

明治二十二年法律第二十八號議會並ニ議員保護ノ件第一條ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對スル公然ノ誹毀侮辱罪ヲ規定シ同第二條ニ於テ前掲ノ議會ノ議員ニ對スル公然ノ誹毀侮辱罪ヲ規定シタリ

第四節 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

其刑

第一款 囚徒逃走ニ關スル罪及其刑

第一項 總說

囚徒トハ刑法ニ於テ或ハ之ヲ囚人ト云ヒ法令ニ依リ監獄ニ拘禁セララル、者ヲ謂フ而シテ監獄則第一條ニ依レハ現時ノ國法ニ於ケル監獄ノ種類ハ集治監、假留監、地方監獄、拘留監、留置場及懲治場ナルヲ以テ法令ニ依リ監獄ニ拘禁セララル、者トハ概ネ

一 死刑ノ確定裁判ヲ受ケタル者(改正案)

二 徒刑流刑懲役禁獄禁錮拘留ノ執行ヲ爲ス者(監獄則一第一號及第一號乃)

三 刑事被告人(監獄則一第四號及第五號)

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑

四 刑法第二十七條及第三十條ニ依リ罰金又ハ科料ニ代ヘ輕禁錮又ハ拘留ヲ執行スル者(監獄則一第五號科料ヲ拘留ニ換)

五 刑法附則第三十二條ニ依リ監視期間中監獄内ノ別房ニ留置セララル、者

六 懲治場留置ヲ命セラレタル者(監獄則一第六號)

ヲ謂フナルヘシ而シテ逮捕セラレタル者又ハ捕虜ノ如キハ法令ニ依リテ監獄ニ拘禁スル者ニアラサルカ故ニ囚徒ト云フコトヲ得ス然レトモ苟モ法令ニ依リテ監獄ニ拘禁セラレタル者ナランカ縱令事實上ハ監獄ノ外ニ在ル場合ト雖モ之ヲ囚徒ト云ハサルヘカラス

囚徒逃走罪及其刑

第二項 囚徒逃走罪及其刑

本項ニ於テ論スル罪ハ皆其主體ニ囚徒ト云フ特別ノ身分アルコトヲ必要トス逃走トハ他ノ勢力ノ支配スル場所ニ在ルコトヲ欲セサル爲メ其場所ヲ退去スル作用ヲ謂ヒ囚徒ニ付テ謂ヘハ拘禁スル勢力外ニ退去スル作用ヲ謂フ而シテ拘禁スル力ハ事實上ヨリ謂ヘハ監視スル力ニ外ナラサルヲ以テ換言スレハ監視力ノ及フ區域ヲ退去スル作用ナリト云フコトヲ得ヘシ然ラハ囚徒ヲ監視スル勢力

區域ハ如何學者或ハ少クトモ囚徒カ監獄ヨリ逃走シタル場合ニ付テハ監獄ノ區域ニ依リテ監視力ノ區域ヲ斷定セントスル者アリ余ハ監視力ノ區域ハ囚徒ノ獄内ニ在ルト又獄外ニ在ルトヲ區別セス凡テ事實上監視力ノ及ヒタル區別ニ依リ決定スヘキモノナリト信ス

囚徒ノ單純逃走ハ之ヲ罪ト爲スヘキヤ否ヤニ付キテハ異說アリ或ハ單ニ獄内懲戒罰ヲ科スヘキ事由トスヘシト論スル者アリ其論據ノ著キ點ハ自由ヲ恢復セントスルハ人類通有ノ弱點ナルノミナラス之ヲ罰スルトキハ同一ノ行爲ニ付キニ重ノ制裁ヲ科スルノ嫌アリト爲スニ在リ現時歐洲ノ立法例ハ概ネ此見解ヲ採レルカ如シ或ハ之ヲ罪ト爲スヘシト論スル者アリ曰ク之ヲ罪トスルハ社會ノ秩序ヲ維持スルニ必要ナリト此種ノ見解ヲ採ル者ハ更ニ反對論ノ根據ニ付キ辯駁ヲ爲セリ即チ反對論ノ第一ノ根據ニ付テハ法令ニ依リテ拘禁セラレタル者ニ對シテハ縱令人類通有ノ弱點ナリトスルモ之ヲ弱點トシテ保護スルノ必要ナシト云ヒ第二ノ根據ニ付テハ縱令獄内懲罰ヲ科スヘキ事由トスルモ尙ホ同一ノ行爲ニ對シニ様ノ制裁ヲ科スル嫌アルヲ免レスト云ヘリ刑法ハ一面我國法ノ沿革ニ鑑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
 靜謐ヲ害スル罪及其刑 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

ミ又一面ニハ秩序維持ノ必要ヨリ打算シテ歐洲諸國ノ成例ヲ無視シ單純ノ逃走ヲ罪ト規定シタリ
刑法ハ第四百四十四條ニ於テ未決囚ノ逃走罪ヲ規定スルニ付キ入監中ナル語ヲ附加シタリト雖モ贅文ナリト信ス然ラハ刑法ハ既決囚ノ逃走罪ト未決囚ノ逃走罪トヲ別罪トシテ規定スト雖モ二者其刑ニ於テ同一ナル以上ハ其區別ヲ爲ス必要ナキカ如シ

刑法カ囚徒ニ付キ罪トシテ規定シタル逃走行爲ハ左シ如シ

第一 囚徒カ單獨ニ又ハ二人通謀シテ逃走シタル行爲

一 獄舎又ハ獄具ヲ損壞シテ逃走シタル行爲ノ既遂及未遂

二 暴行又ハ脅迫ヲ用ヒテ逃走シタル行爲ノ既遂及未遂

上述シタル一及ニ記載シタル行爲ノ既遂ニ付テハ既決囚ナルトキハ刑法第

百四十二條第二項ニ依リ未決囚ナルトキハ刑法第四百四十四條及第四百四十二條

ニ依リ共ニ三月乃至三年ノ重禁錮ヲ科ス

三 前顯ノ方法ヲ用ヒスシテ逃走シタル行爲ノ既遂及未遂 此種ノ行爲ノ既

遂ニ付テハ既決囚ナルトキハ刑法第四百四十二條第一項ニ依リ未決囚ナルト

キハ刑法第四百四十四條及第四百四十二條第一項ニ依リ共ニ一月乃至六月ノ重

禁錮ヲ科ス

第二 囚徒カ三人以上通謀シテ逃走シタル行爲

一 獄舎又ハ獄具ヲ損壞シテ逃走シタル行爲ノ既遂及未遂

二 暴行又ハ脅迫ヲ用ヒテ逃走シタル行爲ノ既遂及未遂

上述シタル一及ニ記載シタル行爲ノ既遂ニ付テハ既決囚ナルトキハ第四百

十五條、第四百四十二條第二項ニ依リ未決囚ナルトキハ第四百四十五條、第四百四

條、第四百四十二條第二項ニ依リ共ニ第一ノ一及ニ付キ記載シタル刑ニ一等ヲ

加重シタル刑ヲ科ス

三 前顯ノ方法ヲ用ヒスシテ逃走シタル行爲ノ既遂及未遂 此種ノ行爲ノ既

遂ニ付テハ既決囚ナルトキハ第四百四十五條、第四百四十二條第一項ニ依リ未決

囚ナルトキハ第四百四十五條、第四百四十四條、第四百四十二條第一項ニ依リ共ニ第

一ノ三ニ付キ記載シタル刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科ス

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
靜論 害スル罪及其刑 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

上ニ述ヘタル第一ノ三ノ場合ニ於テハ學者之ヲ單純ノ逃走ト云ヒ其他ノ場合ニ於テハ凡テ之ヲ複雑ノ逃走ト云フ

其囚徒カ確定裁判ニ依リ重罪、輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ既決囚ノ逃走罪ハ輕罪ナルヲ以テ當然刑法第九十二條又ハ第九十八條ヲ適用シテ本刑ヲ加重セサルヘカラス然レトモ刑法ノ立法者ハ囚徒逃走罪ニ付キ本刑ヲ加重スルコトヲ妥當ナラスト爲シ特ニ第四百十三條ニ於テ既決囚逃走罪ハ一罪ノ刑ヲ執行スル際ニ犯シタル其前ノ逃走罪ニ對シテノミ本刑ヲ加重スヘキ累犯タル效力ヲ有スト雖モ別異ノ罪ノ刑ノ執行中ニ犯シタル其前ノ逃走罪又ハ逃走罪以外ノ罪ニシテ其前ニ犯シタル重罪又ハ輕罪ニ對シテハ本刑ヲ加重スヘキ累犯タル效力ヲ有セスト規定シタリ而シテ此除外例ヲ認ムル理由ハ略ホ單純逃走ヲ罪ト爲ササル論者ノ説ク所ニ同キカ如シ刑法ハ既ニ單純逃走ヲモ罪ト爲シタルヲ以テ此除外例モ亦之ヲ認ムルノ必要ナシト信ス或ハ本條ニ再犯ヲ以テ論セスト云フ意味ハ單ニ本刑ヲ加重セスト云フ意味ニアラスシテ全然其犯行カ他ノ罪ニ及ホス效力ヲ剝奪スルノ謂ナリ故ニ既決囚ノ逃走罪ハ唯其罪ニ對スル刑ヲ執行セシムル效力ヲ有スルノミニシテ毫モ其他ノ效力ヲ有セスト云フト雖モ通説ニハアラサルナリ(一五六)參照

未決囚ハ法令ニ依リ罪責ヲ審理スル爲メ拘禁セラル、者ナルヲ以テ未決囚タル身分ヲ有スル者ハ必ス少クトモ一個ノ罪ノ嫌疑ヲ有スヘシ故ニ未決囚カ逃走罪ヲ犯シタル場合ニ於テ

一 審理ノ結果嫌疑セラレタル罪ナク又ハ犯行ノ證明不充分ト爲スヘキトキハ當然逃走罪ノ責任ノミヲ負擔セシムヘク

二 審理ノ結果其嫌疑セラレタル罪アリトスヘキトキハ當然其罪ト逃走罪トニ對シ數罪俱發即チ併合罪ノ處分ヲ爲スヘキナリ

理論上此二個ノ斷案ハ解釋上當然生スルモノナルニモ拘ラス刑法ハ第四百四十四條但書ニ於テ原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ヲ照シテ處斷スト規定ス故ニ此規定ハ審理ノ結果嫌疑セラレタル罪ナキカ又ハ犯行ノ證明等充分ナル場合ニ付テハ多少不當ノモノト云ハサルヘカラス

第三項 囚徒ノ逃走ヲ幫助シタル罪及其刑

囚徒ノ逃走ヲ幫助シタル罪及其刑

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

囚徒逃走罪ノ從犯ハ總則ノ適用ニ依リテ之ヲ處罰スヘキコト勿論ナリトス然レトモ刑法ハ從犯ニ對シ特別ノ刑ヲ規定シ併テ從犯ト稱スヘカラサル幫助者ヲモ處罰セントシテ特ニ刑法第四百十六條前段ノ規定及第四百十七條第一項後段ノ規定ヲ設ケタルカ如シ

第一 逃走セシムル目的ヲ以テ囚徒ニ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル行爲ノ既遂及未遂 本罪ハ刑法第四百十六條及第四百十九條ノ規定ニ關スル第四百十六條及第四百十九條ノ罪ハ所謂目的ヲ法定シタル罪ニ屬シ囚徒ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ囚徒ニ器具ヲ給與スル行爲若ハ囚徒ニ逃走ノ方法ヲ指示スル行爲ノ既遂又ハ未遂ニシテ囚徒又ハ囚徒ノ監視者モ亦本罪ノ主體タルコトヲ得ヘシ通説ニ依レハ本條ノ罪ハ囚徒ヲ逃走セシムル罪ナル罪種ノ一トナシ職責ヲ有セサル者カ此種ノ行爲ヲ爲シタルトキハ本條ニ依リテ處斷シ職責ヲ有スル者カ爲シタルトキハ第四百十八條ニ依リテ處斷スヘシト爲ス如シ然レトモ本罪ハ一定ノ目的ヲ以テ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル罪ニシテ如何ニ曲解スルモ之ヲ囚徒ヲ逃走セシメタル罪ノ一種ナリトハ謂

フヘカラス是レ余輩カ監視者モ亦本罪ノ主體タルコトヲ得ヘシトノ斷案ニ違スル所以ニシテ同時ニ本項ノ罪ヲ囚徒ヲ逃走セシムル罪種中ニ排列セサル所以ナリ但本罪ノ結果囚徒カ逃走スルニ至リタルトキハ之ヲ囚徒ヲ逃走セシメタル罪ノ一種ト云ハサルヘカラスシテ此場合ニ於ケル犯人カ監視者ナルトキハ第四百十八條ノ犯人タルヘシ而シテ本罪ノ成立ニハ囚徒カ逃走ノ意思ヲ有スルコトヲ必要トセス又必スシモ囚徒カ逃走セルコトヲ必要トセス唯本罪ヲ犯シタルニ因リ囚徒カ逃走シタルトキハ情狀重キ罪ヲ構成スト雖モ之ハ囚徒ヲ逃走セシムル罪中ニ説明スヘシ本罪ノ刑ハ主刑トシテハ三月乃至三年ノ重禁錮附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金トス

第二 暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル罪 本罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ逃走セントスル囚徒ノ逃走行爲ヲ幫助シタル行爲ノ既遂及未遂ニシテ本罪ノ刑ハ
1 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ輕懲役トシ
2 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニアラサルトキハ主刑トシテハ一年乃

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑 評議ヲ害スル罪及其刑

囚徒ヲ奪取シタル罪及其刑

至五年ノ重禁錮附加刑トシテハ五圓乃至五十圓ノ罰金ナリトス

第四項 囚徒ヲ奪取シタル罪及其刑

本罪ノ目的物タル囚徒ハ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合アリ或ハ輕罪又ハ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合アリ或ハ懲治處分ニ處セラレタル者ナル場合アリ或ハ未決ノ囚徒ナル場合アリ其何レノ場合タルヲ問ハス本罪ハ囚徒ヲ奪取スル行爲ノ既遂又ハ未遂ナリ奪取トハ刑法ニ所謂劫奪ニシテ暴行又ハ現在ノ害惡ノ脅迫ヲ以テ囚徒ヲ其監視力ヨリ自己ノ勢力内ニ移ラシムル行爲ヲ謂スモノト解スヘシ故ニ單ニ囚徒ヲ逃走セシメタルコト即チ單ニ監視力外ニ移ラシメタルコトハ常ニ同一ナリト云フ能ハス而シテ奪取セラレタル囚徒カ逃走ノ意思ヲ有シタルヤ否ヤハ本罪ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

本罪ニ對スル刑ハ

- 一 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナル場合ニハ輕懲役トシ
- 二 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニアラサル場合ニ於テハ主刑トシテ一年乃至五年ノ重禁錮附加刑トシテ五圓乃至五十圓ノ罰金トス

囚徒ヲ逃走セシムル罪及其刑

第五項 囚徒ヲ逃走セシムル罪及其刑

囚徒ヲ逃走セシムル行爲トハ囚徒ノ逃走ニ相對スル語ニシテ囚徒ノ逃走行爲トハ囚徒自身カ監視力ヲ脫スルコトヲ謂セ囚徒ヲ逃走セシムル行爲トハ囚徒ヲシテ其監視力ヲ脫セシムルコトヲ謂フ故ニ囚徒ヲシテ其監視力ヲ脫セシメタルニアラサレハ本罪ハ成立セス是レ囚徒ヲ奪取スル罪囚徒ノ逃走ヲ幫助シタル罪又ハ看守者ノ過失ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺知セサリシ罪ヲ本罪中ニ排列セサル所以ナリ

第四百十六條末段ノ規定ハ要スルニ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シ囚徒ノ逃走ヲ致シタル事實ニ關ス然レトモ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ或行爲ヲ爲シ其結果囚徒カ逃走スルニ至リタルトキハ是レ囚徒ヲ逃走セシムル罪ニ外ナラス然レトモ本罪ハ第四百十五條前段ノ罪ト異リ監視者ノ犯ス場合ヲ包含セスシテ此場合ニ於テハ第四百十七條ノ罪ニ於ケルト同シク第四百十八條ノ罪ト爲ルヘシ

本罪ノ刑ハ逃走セシムル目的ヲ以テ囚徒ニ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑
 靜論 害スル罪及其刑
 囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

シタル罪ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス而シテ本罪ハ所謂結果罪ナルヲ以テ若シ囚徒カ逃走セザリシトキハ逃走ノ幫助罪トシテ之ヲ所罰スヘク本罪ノ未遂トシテ之ヲ所罰スヘキニアラス

第四百四十八條ノ罪ノ主體ハ必ス囚徒ノ監視者即チ看守者又ハ護送者タル身分ヲ有スルコトヲ必要トス所謂囚徒ヲ看守スル者トハ司獄官吏即チ典獄、看守長、看守女監取締、所謂囚徒ヲ護送スル者ハ囚人及刑事被告人押送規則ニ依レハ概シ警察官吏即チ警部、巡查ニシテ例外トシテ看守長、看守、憲兵下士卒ナリトス而シテ本罪ハ單ニ囚徒ヲ逃走セシムル行爲ノ既遂ナルヲ以テ苟モ其結果トシテ囚徒カ逃走スルニ至リタルトキハ或ハ逃走ノ看過或ハ單純ノ解放其他ノ行爲ニ依リテモ亦成立スヘシ

本罪ニ對スル刑ハ

- 一 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ輕懲役トシ
- 二 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニアラサルトキハ主刑トシテ一年乃至五年ノ重禁錮、附加刑トシテ五圓乃至五十圓ノ罰金トス

第六項 監視者カ懈怠ニ依リ囚徒ノ逃走ヲ

覺知セサル罪及其刑

監視者カ
懈怠ニ依
リ囚徒ノ
逃走ヲ覺
知セサル
罪及其刑

本罪ハ所謂過失罪ノ一種ニシテ監視者カ囚徒ノ逃走ヲ覺知セサル過失ヲ罰セルモノナリ本項ニ説明スル行爲ノ如キハ立法論トシテハ(1)懲戒事由トシテ監督權ノ作用ニ一任スルコトヲ可トシ(2)罪ト爲ストスルモ之ヲ瀆職罪ノ一種ト爲スコトヲ可ナリト信ス

本罪ハ上ニ述ヘタル如ク過失罪ニ屬スルモノニシテ又不作爲罪ニ屬シ監視者カ懈怠ニ依リ囚徒ノ逃走ヲ覺知セサル不作爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其囚徒カ逃走シタル事實ナリトス

刑法ハ過失ヲ疎虞及懈怠ノ二ニ區別シタリ然ラハ疎虞ニ因リタルトキハ本項ノ罪トシテ之ヲ處斷スルコトヲ得サルカ學者或ハ曰ク監視者ハ職務トシテ囚徒逃走ノ防止ニ從事スル者ナルヲ以テ如何ナル場合ト雖モ疎虞ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺知セスト云フコトヲ得ス換言スレハ監視者カ囚徒ノ逃走ヲ覺知セサレハ常ニ懈怠ナリト云ハサルヘカラサルヲ以テ刑法ハ唯懈怠ニ因ル場合ノミヲ豫想シタ

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑
公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
懈怠ニ依リ囚徒ノ逃走ヲ覺知セサル罪及其刑
囚徒逃走ノ刑及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

ルニ過キスト余輩ハ此見解ヲ正當ト信ス
本罪ニ對スル刑ハ

- 一 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ三圓乃至三十圓ノ罰金トシ
- 二 囚徒カ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニアラサルトキハ二圓乃至二十圓ノ罰金トス

第三款

犯罪人逃走ノ囚徒又ハ監視ニ付セラレタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル罪及其刑

罪人ヲ藏匿又ハ隱避スル罪ハ或罪ノ成立後之ヲ幫助スル行爲ナルヲ以テ罪證湮滅ノ罪及贓物ニ關スル罪ト共ニ學者ノ所謂庇護罪又ハ事後ノ共犯即チ罪ノ成立後犯人ニ對シ其罪ノ成果ヲ確保シ又ハ犯人ヲシテ其科刑ヲ免レシメ其他犯人ヲ庇護シタル罪ト稱スルモノニ該當ス

刑法第五十一條ニハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知リテ之ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ云々ト規定ス然レトモ及ヒ監視

犯罪人、逃走ノ囚徒、監視ニ付セラレタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避スル罪及其刑

ニ付セラレタル者トハ又ハ監視ニ付セラレタル者ノ意ナルコト明白ナリ又ナルコトヲ知リテ云々ト規定シタルハ贅文ナリ要スルニ余ハ本罪ハ犯罪人逃走ノ囚徒又ハ監視ニ付セラレタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル行爲ナリト信ス

一 犯罪人 犯罪人トハ凡テ罪ヲ犯シタル者ヲ謂フ故ニ苟モ罪ヲ犯シタル者ナルトキハ

1 其罪ハ生命刑ヲ科スヘキモノナルト自由刑ヲ科スヘキモノナルト又ハ財産刑ヲ科スヘキモノナルトヲ問ハサルナリ論者或ハ現行刑法草案ハ逮捕ヲ要スヘキ刑事被告人ト規定シアリタルニ拘泥シ茲ニ犯罪人ト云フモ單ニ之ヲ逮捕スヘキ犯罪人ニ限ラサルヘカラスト爲スト雖モ余ハ之ヲ採ラス

2 其罪ハ重罪ナルト輕罪ナルト又ハ違警罪ナルトヲ問ハス而シテ其犯罪人ハ必ス眞ニ罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ要シ單ニ罪ノ嫌疑ヲ受ケタルニ止マル者ヲ包含セス論者或ハ刑法草案ニ刑事被告人ト規定シアリタルニ拘泥シ茲ニ犯罪人トハ必ス眞ニ罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ要セスト爲スト雖モ余ハ又之ヲ採ラス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 囚徒逃走ノ罪及犯人ヲ藏匿スル罪及其刑

二 逃走ノ囚徒 逃走ノ囚徒ハ概ネ囚徒逃走ノ犯罪人ナルヘシト雖モ例ハ懲治場ニ留置セラレタル者ノ如キハ逃走ノ囚徒ナリト雖モ犯罪人ニハアラス

三 監視ニ付セラレタル者 所謂監視ニ付セラレタル者ト雖モ別房ニ於テ之ヲ執行スル者ニ關スルトキハ概ネ囚徒逃走ノ犯罪人ヲ藏匿又ハ隱避スル行爲トナルナリ

四 藏匿、隱避 藏匿トハ秘密ニ自己ノ勢力内ニ居留セシムル行爲ヲ謂ヒ隱避トハ秘密ニ退去セシムル行爲ヲ謂フ

本罪ニ付テハ藏匿者又ハ隱避セシメタル者及犯罪人、逃走ノ囚徒又ハ監視ニ付セラレタル者ノ間ニ親屬關係カ存在スル場合ト否ラサル場合トノ區別アリ

第一 親屬關係カ存在スル場合 此場合ニ於テハ何等ノ刑ヲモ之ニ科セス此特例ハ親族間ノ情誼ヲ顧慮シテ設ケタルモノニシテ第一百五十三條ニ之ヲ規定ス同條ニハ唯犯人ト云フト雖モ正確ニ論スレハ犯罪人、逃走ノ囚徒又ハ監視ニ付セラレタル者ト云ハサルヘカラス

第二 親屬關係カ存在セサル場合 此場合ニ於テハ

罪責ヲ免
レシムル
目的ヲ以
テ證據ヲ
毀滅又ハ
隱匿スル
罪及
其刑

一 原則トシテハ主刑トシテ十一月乃至一年ノ輕禁錮、附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金ヲ科ス

二 重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニシテ逃走罪ヲ犯シタル者ニ關スルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科ス

第四款 罪責ヲ免レシムル目的ヲ以テ證據物ヲ毀滅又ハ隱匿スル罪及其刑

刑法第五十二條ニ於テハ他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタル者ハ云々ト規定ス而シテ隱蔽トハ有形的又ハ無形的ニ或ハ絶對的又ハ相對的ニ事物ノ存在ヲ失ハシムルヲ謂フト解釋セサルヘカラス

本罪ハ罪責ヲ免レシムル目的ヲ以テ證據物ヲ毀滅又ハ隱匿スル行爲ニ關ス

第一 罪責ヲ免レシムル目的 刑法ハ本罪ヲ犯ス目的ヲ制限シ罪責ヲ免レシムル目的ナルコトヲ要ストセリ故ニ他人ヲ陷害スル目的又ハ單ニ裁判ヲ誤ラシムル目的等ニ出テタルトキハ本條ノ行爲アルモ罪ト爲スコトヲ得ス是レ刑法ノ重大ナル缺點ナリト信ス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑

公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲ藏匿スル罪及其刑

第二 證據物ヲ毀滅又ハ隱匿スル行爲 刑法ハ罪證トナルヘキ物件即チ證據物ト云ヘリ故ニ罪ニ關スル證據資料ト雖モ例ハ足跡、血痕其他有體物タラサルモノ、隱蔽ハ本罪ヲ構成セス而シテ毀滅トハ有形的絶對的ニ物ノ存在ヲ失ハシムルコトヲ謂ヒ隱匿トハ無形的即チ相絶的ニ物ノ存在ヲ失ハシムルコトヲ謂フ故ニ稀ニ證據物ノ變造ヲ包含スヘシト雖モ常ニ證據物ノ偽造ヲ包含セス本罪ニ付テハ

第一 犯人及本罪ノ行爲者間ニ親屬關係カ存在スルトキハ何等ノ刑ヲモ之ニ科セス

第二 若シ親屬關係カ存在セサルトキハ主刑トシテ十一月乃至六月ノ輕禁錮、附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金ヲ科ス

第五節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪及其刑

第一款 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者カ公權ヲ行使シタル罪及其刑

本罪ノ主體ハ刑法上剝奪公權又ハ停止公權ヲ科セラレタル者ナルコトヲ要ス公

附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪及其刑
公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者カ
公權ヲ行使シタル罪及其刑
公權ヲ行使シタル罪及其刑
公權ヲ行使シタル罪及其刑

權ノ何タルヤニ付テハ刑法第三十一條ノ列記スル所ニシテ又如何ナル場合ニ剝奪公權又ハ停止公權ヲ科スヘキヤニ付テハ刑法第三十二條乃至第三十四條ノ規定スル所ナリ而シテ本罪ハ公權ヲ行使スル行爲ナリ刑法ハ「私」ニ公權ヲ行ヒタルトキハト規定スルヲ以テ或ハ詐欺的ニ又ハ惡意ヲ以テ公權ヲ行使セラレハ本罪ハ成立セスト論スル者アリト雖モ余ハ之ヲ採ラス
本罪ニ付テモ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者カ同一ノ刑期間二度以上本罪ヲ犯スニアラサレハ再犯加重ヲ爲サス
本罪ノ刑ハ主刑トシテ一月乃至一年ノ重禁錮、附加刑トシテ二圓乃至十圓ノ罰金トス

第三款 監視ニ付セラレタル者カ監視規則ニ

違背シタル罪及其刑

本罪ノ主體ハ監視ト云フ附加刑ヲ科セラレタル者ナルコトヲ要ス茲ニ所謂監視ノ中ニハ刑法第五十五條ニ所謂特別ニ定メタル監視即チ刑法附則第三章ニ所謂特別監視ニ付セラレタル者ヲモ含ムヤ否ヤニ付テ異論アリ(一)特別監視ニ付セラ

監視ニ付セラレタル者カ監視規則ニ違背シタル罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪及其刑

レタル者ヲ包含セスト爲ス見解ニ依レハ刑法第二編第三章第四節ノ題目ニハ明ニ附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪ト規定セラル然ルニ特別監視ハ附加刑ニアラス加之刑法ニ於テハ特別監視ニ付テハ常ニ特別監視ナルコトヲ明示セルニモ拘ラス監視違反罪ニ付テハ單ニ監視ト規定スルニ過キスト云ヒ(二)特別監視ニ付セラレタル者ヲモ包含スト爲スノ見解ニ依レハ刑法附則ニ於テハ特別監視ニ關スル規則アルニ拘ラス若シ特別監視ニ付セラレタル者カ本罪ノ主體ト爲ルコト能ハストスレハ特別監視ニ關スル規則ニ違背スルモ全ク之ヲ處罰スルコトヲ得サルニ至ラン故ニ寧ロ本條ノ監視ヲ廣義ノ監視ナリト解釋スルコトノ適當ナルニアラスヤト云フ大審院ハ後ノ見解ヲ採用スル如シ

本罪ハ監視規則ニ違背シタル行爲ナリ即チ作爲又ハ不作爲ナリ所謂監視規則ト云フハ被監視人カ遵守スヘキ規則ノ意義ニシテ刑法附則第二章中第二十七條其他ニ規定シタル事項ナリトス而シテ其ノ一事項ニ違背シタル行爲ハ直ニ本罪ヲ成立セシムルニ足ルト雖モ同時ニ其數箇ノ事項ニ違背シタルトキモ亦本罪ノ一箇ヲ成立セシムルモノトス

本罪ニ付テモ同一ノ監視期間内ニ累犯スルニアラサレハ再犯加重ヲ爲サス
本罪ニ對スル刑ハ十五日乃至六月ノ重禁錮ナリ

第六節 私ニ軍用ノ銃砲、彈藥ヲ製造シ又ハ所有スル罪及其刑

第一 總說

本節ノ罪ハ軍用ノ銃砲及破裂物ヲ製造、輸入、販賣又ハ所有スル行爲ニ關ス
本節ノ罪ニ牽聯シテ明治三十二年八月法律第百號銃砲火藥類取締法、同年同月陸海軍兩省告示及明治十七年十二月第三十二號布告爆發物取締罰則アリ

然ラハ軍用銃砲ノ何タルヤハ明治三十二年八月陸海軍兩省ノ告示ニ依リ之ヲ定ムヘク爆發物ニ付テハ事實問題トシテ軍用ノ爆發物即チ破裂物ノ何タルカヲ決定スヘク軍用ノ銃砲ノ製造其他ニ關シテハ銃砲火藥取締法第十四條ニ依リ常ニ本節ノ規定ヲ適用スヘク非軍用ノ銃砲ノ製造其他ハ全ク罪ト爲ラサル行爲タルヘク爆發物ノ製造其他ノ行爲ニ付テハ其爆發物カ軍用タルト軍用タラサルトヲ區別セス治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスル目的ニ出テ

私ニ軍用ノ銃砲、彈藥ヲ製造シ又ハ所有スル罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 私ニ軍用ノ銃砲、彈藥ヲ製造シ又ハ所有スル罪及其刑

タルトキハ爆發物取締罰則第三條ノ規定ヲ適用シ前顯ノ目的ニ出テサルコトヲ證明シタルトキニ於テ尙ホ銃砲火藥取締法第十四條ニ依リ本節ノ規定ヲ適用スヘキナリ

軍用ノ銃砲及爆發物カ禁制物ナルコトハ禁制物ニ付キ如何ナル定義ヲ下ストスルモ之ヲ疑フヘカラス故ニ刑法第四十三條第一號及第四十四條ノ適用アルコトハ固ヨリ言フ俟タス

第二 軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ製造シタル罪

軍用ノ爆發物トハ事實上軍用ニ供セラル、爆發物例ハ火藥、雷管、導火線等ヲ謂フ

本罪ハ或ハ數多ノ雇人又ハ職工ヲ使役シテ之ヲ犯スコトナキニアラス刑法ハ雇人又ハ職工トシテ他人ノ指揮ヲ受ケ本罪ヲ犯シタル者ノ情狀ハ稍輕キモノト思斷シ其刑ヲ區別シタリ即チ通常主刑トシテハ二月乃至二年ノ重禁錮附加刑トシテハ二十圓乃至二百圓ノ罰金ヲ科スト雖モ他人ノ雇人又ハ職工トシテ本罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ通常ノ刑ヨリ二等ヲ輕減シタル刑ヲ科ス

軍用ノ銃砲又ハ爆發物ノ製造ニ使用シタル器械ハ犯罪ノ用ニ供シタル物ニ外ナラス故ニ刑法第四十三條第二號及第四十四條ニ依リ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者ナキトキニ於テハ之ヲ沒收シ得ルコトハ明ナリ然レトモ刑法ハ單ニ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ノ製造ニノミ供スヘキ物ニ付テハ除外例ヲ認メ其所有者ノ何人タルヲ問ハス凡テ之ヲ沒收スルコトヲ得ト規定セリ

第三 軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ輸入シタル罪

本罪ノ刑ハ恰モ軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ製造シタル者ノ刑ニ同シ即チ行爲者カ雇人又ハ職工ナリシヤ否ヤニ因リ別段ノ刑ヲ科スヘキモノナリ

第四 軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ販賣スル罪

本罪ニ對シテハ通常ノ場合ニ於テハ主刑トシテ一月乃至一年ノ重禁錮ヲ科シ附加刑トシテ十圓乃至百圓ノ罰金ヲ科シ行爲者カ他人ノ雇人又ハ職工ナルトキハ通常ノ刑ヨリ二等ヲ輕減シタル刑ヲ科ス

第五 軍用ノ銃砲又ハ爆發物ヲ所持スル罪

刑法ハ所有シト規定スト雖モ此種ノ物ハ特別ノ認許ヲ受クルニアラサレハ所

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 私ニ軍用ノ銃砲、彈藥ヲ製造シ又ハ所有スル罪及其刑

有權ノ目的物タルコトヲ得サルヲ以テ畢竟其物ヲ支配スル事實即チ所持ヲ謂
フノ意味ナルヤ明白ナリ

本罪ニ對スル刑ハ二圓乃至二十圓ノ罰金ナリトス

第七節 往來通信ヲ妨害スル罪及其刑

第一款 往來妨害ノ罪及其刑

第一項 總說

所謂往來トハ交通ノ意義ニシテ往來ヲ妨害スル罪ト云フハ交通ヲ妨害スル行爲
ナリ然レトモ往來ヲ妨害スル行爲ハ總テ刑法第六節中ニ規定セラレタリト誤解
スヘカラス刑法ニ於テモ別ニ違警罪タルヘキ往來妨害罪ヲ規定シ又明治三十三年
三月法律第六十五號鐵道營業法ハ往來妨害ノ有無ニ拘ラス鐵道ノ標識ヲ損壞
スル行爲其他ヲ罪トシ明治二十一年十月勅令第六十七號航路標識條例ハ往來妨
害ノ有無ニ拘ラス航路標識ヲ損壞スル行爲其他ヲ罪トシ明治二十三年五月法律
第三十八號水路測量標條例ハ往來妨害ノ有無ニ拘ラス基點標又ハ測量標ノ移轉
又ハ毀壞ヲ罪トシテ往來妨害トナルヘキ行爲ヲ禁制シタリ

往來通信
ヲ妨害ス
ル罪及其
刑
往來妨害
ノ罪及其
刑
總說

往來ヲ妨
害シタル
罪及其刑

第一項 往來ヲ妨害シタル罪及其刑

本罪ハ往來ヲ妨害シタル罪ナリト雖モ凡テノ往來妨害罪ヲ規定セスシテ却テ其
妨害ノ手段ヲ法定シタリ換言スレハ本罪ハ道路、橋梁、河溝、港埠ヲ損壞スル行爲ヲ
爲シタル結果トシテ往來ヲ妨害シタル事實ナリトス道路、橋梁トハ陸路ヲ謂ヒ河
溝、港埠トハ水路ヲ謂ヒ損壞ニハ壅塞スル行爲ヲモ包含ス而シテ往來ヲ妨害シタ
ルヤ否ヤハ客觀的ニ之ヲ觀察スヘシ故ニ事實上交通ヲ妨害セラレタル者ナキ場
合ニ於テモ尙ホ往來ヲ妨害シタリト云フコトヲ得サルニアラス
本罪ノ行爲者ハ或ハ交通事務ニ從事スル官吏又ハ雇人タルコトアルヘク或ハ然
ラサル者ナルコトアルヘシ而シテ刑法ハ本罪ノ行爲者カ交通事務ニ從事スル者
ナル場合ニ於テハ之ヲ比較的重キ罪ト規定セリ
本罪ヲ犯シタル結果或ハ因リテ人ヲ死去セシメ又ハ創傷セシムルコトナキニア
ラスト雖モ此種ノ死傷ハ毆打創傷ノ觀念ナキ場合ニ於テハ直ニ之ヲ毆打創傷罪
ヲ以テ論スルコト能ハサルヲ以テ刑法ハ此種ノ行爲ヲ別種ノ結果罪ト規定シタ
リ

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
靜謐ヲ害スル罪及其刑 往來通信ヲ妨害スル罪及其刑

本罪ノ刑ハ

第一 單純ノ往來妨害罪ニ付テハ

一 原則トシテハ主刑トシテ二月乃至二年ノ重禁錮、附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金トシ

二 行爲者カ交通事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加ヘタル刑トス

第二 死傷ノ結果ヲ惹起シタル往來妨害罪ニ付テハ毆打創傷罪ニ關スル各本條ノ刑ト單純ノ往來妨害罪ニ對スル刑トノ比較上比較的重キ刑トス

第三項 瀛車ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ

危險ナル障礙ヲ爲シタル罪及其刑

本罪ハ瀛車ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ其往來ニ危險ナル障礙ヲ爲ス行爲ノ既遂及未遂ニシテ所謂危險ナル障礙ヲ爲ス行爲トハ例ハ軌道ヲ損壞スル行爲、瀛車ノ往來ニ必要ナル標識ヲ損壞又ハ偽造スル行爲、軌道上ニ障害物ヲ置ク行爲等ナリトス

瀛車ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ危險ナル障礙ヲ爲シタル罪及其刑

本罪ニ付テハ二様ノ結果罪ヲ認ム

一 本罪ヲ犯シタル結果トシテ瀛車ヲ顛覆セシメタル事實

二 本罪ヲ犯シタル結果トシテ人ヲ死ニ致シタル事實

本罪ノ刑ハ

第一 單純ノ瀛車往來ノ妨害罪ニ付テハ

一 原則トシテ重懲役トシ

二 行爲者カ鐵道事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑即チ有期徒刑トス

第二 瀛車顛覆ノ結果ヲ惹起シタル瀛車往來ノ妨害罪ニ付テハ無期徒刑トシ

第三 致死ノ結果ヲ惹起シタル瀛車往來ノ妨害罪ニ付テハ死刑トス

本罪ニ付テハ過失犯ヲ認ムル必要ナキカ刑法改正案ハ過失ニ因リ本罪ヲ犯スコトモ亦罪ト規定シタリ

第四項

艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ航路標識ヲ損壞又ハ偽造スル罪及

艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ航路標識ヲ損壞又ハ偽造スル罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑
公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
往來通信ヲ妨害スル罪及其刑

其刑

本罪ハ艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ航路標識ヲ損壞スル行爲ノ既遂及未遂
又ハ艦船ノ往來ヲ妨害スル目的ヲ以テ偽造ノ航路標識ヲ設置スル行爲ノ既遂及
未遂ナリトス而シテ航路標識トハ航路標識條例ニ依レハ航路ノ安寧ヲ保護スル
爲メ政府又ハ公共團體ニ於テ設置スル物ヲ謂フ如シ故ニ燈臺、浮標、測量標等ヲ包
含スルコト勿論ナリトス艦船ト云フハ軍艦及船舶ヲ謂フ
本罪ニ付テモ前項ノ罪ト同シク二様ノ結果罪ヲ認ム
本罪ノ刑ハ

第一 單純ノ往來妨害ニ付テハ

- 一 原則トシテ重懲役トシ
- 二 行爲者カ航海事務ニ從事スル者ナルトキハ有期徒刑トシ
- 第二 艦船覆没ノ結果ヲ惹起シタル艦船往來ノ妨害ニ付テハ無期徒刑トシ
- 第三 致死ノ結果ヲ惹起シタル艦船往來ノ妨害罪ニ付テハ死刑トス

第二款 通信妨害ノ罪及其刑

第一 總說

本款ノ罪ニ付テハ明治三十三年三月法律第五十四號郵便法、明治三十三年三月
鐵道船舶郵便法、明治二十五年六月法律第二號小包郵便法、明治三十三年三月電
信法等ヲ參照スヘシ

第二 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害スル罪ノ既遂及未遂 偽計トハ詐欺ノ手
段ヲ謂ヒ威力トハ暴行又ハ脅迫ヲ謂ヒ妨害トハ全部ノ妨害即チ阻止及一部ノ
妨害ヲ謂フ

本罪ノ刑ハ

- 一 原則トシテハ主刑トシテ二月乃至二年ノ重禁錮、附加刑トシテ二圓乃至二
十圓ノ罰金トス
- 二 行爲者カ郵便事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル
刑トス
- 第三 器械、柱木、條線ヲ損壞シテ電信ヲ妨害スル罪 本罪ハ器械、柱木、條線ヲ損壞
スル行爲ヲ爲シタル結果トシテ電信ヲ妨害シタル事實又ハ電信ヲ妨害シ之ヲ

不通ニ致シタル事實ナリ電信ニハ電話ヲ包含セスト解釋スルヲ妥當トス然レトモ上述シタル電信法ハ電信及電話ニ共通スルモノナルコトニ注意ヲ要ス而シテ第七十條ハ本罪ニモ其適用ヲ有スルヲ以テ罰スヘキ未遂アリ得ヘシト雖モ本罪ニハ事實上罰スヘキ未遂ト稱スヘキ段階ナキ如シ

一 電信ヲ不通ニ致シタル罪ノ刑ハ
1 原則トシテハ主刑トシテ三月乃至三年ノ重禁錮附加刑トシテ五圓乃至五十圓ノ罰金トシ

2 行爲者カ電信事務ニ從事スル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

二 電信ヲ妨害シタル罪ノ刑ハ

1 原則トシテハ一ノ一ニ記載シタル刑ヨリ各一等ヲ減シタル刑トシ
2 行爲者カ電信事務ニ從事セル者ナルトキハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

人ノ住所
ヲ侵ス罪
及其刑

第八節 人ノ住所ヲ侵ス罪及其刑

本罪ニ依リ保護セントスルモノハ人ノ家宅權ナリ所謂家宅權ト云フハ少クトモ個人ノ法物ノ一種ナルヲ以テ宜シク之ヲ個人ニ對スル罪ト爲スヘクシテ刑法ノ如ク公益ニ關スル罪又ハ靜謐ヲ害スル罪ノ一種ト爲スヘカラサルニアラサルカ一憲法第二十五條ニ曰ク日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其承諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラレ、コトナシト即チ日本臣民カ家宅權ヲ有スルコトヲ保障シタル一例ナリトス我國法ハ各國ノ成例ノ如ク一方ニハ憲法ニ於テ主權ニ對シテ個人ノ家宅權ナルモノヲ保障スルト同時ニ又一方ニハ刑法ニ於テ廣ク他人ノ家宅權ヲ侵害スル行爲ヲ罪ト爲シタリ

刑法ハ常ニ故ナク侵入シタルコトヲ以テ人ノ住所ヲ侵ス罪ノ成立ニ必要ナル條件ト規定シタリ然ラハ其故ナクトハ果シテ如何ナル意味ヲ有スル語ナルカ學者間ニ異論アリト雖モ或ハ正當ノ事由ナクシテ若ハ權利ナクシテト解スヘシト云ヒ或ハ承諾ヲ得スシテト解スヘシト云フ然レトモ今假ニ故ナクヲ正當ノ事由ナクシテ若ハ權利ナクシテト解スヘシト云ハサルヘカラス余輩ハ故ナクナル語ヲ承諾ナクシテト解スル學說ヲ可ナリトス蓋上述セル如ク憲

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 人ノ住所ヲ侵ス罪及其刑

法ニ於テ其許諾ナクシテ云々ト規定セルヲ以テ或ハ許諾アリタル場合ニ於テハ當然家宅權ノ保障ナシト論難スル者ナキニアラサルヘシ然レトモ被害者ノ承諾ハ當然違法ヲ除却スルモノニアラサルヲ以テ刑法各本條ニ於テ被害者カ拋棄スルコトヲ得ル法物ト然ラサル法物トヲ明定スル必要アルヘク家宅權ノ如キハ之ヲ被害者ノ拋棄スルコトヲ得ル法物ナリト云フニ至リテハ何人モ異論ナキ所ナルヲ以テ刑法ノ立法者ハ「故ナク」ト云フ語ヲ以テ此意味ヲ明示セントシタルニ外ナラスト信ス

本罪ハ承諾ヲ得スシテ他人ノ住居シタル邸宅、他人ノ看守シタル建造物、皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ皇陵ニ入りタル行爲ニ關ス家宅權者ト云フハ家宅權ヲ有スル者即チ住居人又ハ看守人若ハ是等ノ者ノ委任ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ承諾ト云フハ明示又ハ默示ノ許可ヲ謂フ而シテ刑法ハ單ニ入ルト規定スルヲ以テ一定ノ場所ニ侵入スル行爲ノミニ關シ一定ノ場所ヨリ退去セサル行爲ヲ包含セサルナリ本罪ヲ説明スルニ當リ犯時、犯行ノ手段及犯行ノ場所ヲ三段ニ區別セントス

第一 犯時 犯時ノ晝間ナルヤ將又夜間ナルヤハ本罪ノ成立ニハ何等ノ關係ナ

シト雖モ其刑ニ輕重ノ區別ヲ爲セリ然ラハ晝ト夜トハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ區別スヘキヤ刑法ハ之ヲ區別スルニ足ルヘキ何等ノ明文ヲ置カス刑事訴訟法第七十八條第三項ニ依レハ日出前日没後ヲ以テ夜間ト爲セリ此刑事訴訟法ノ主義ハ移シテ以テ更ニ刑法ノ主義ナリト解スルコトヲ得ヘキカ

第二 犯行ノ手段 刑法ハ犯行ノ手段如何ヲ論セス之ヲ罪ト爲スト雖モ其手段ノ如何ニ依リ或ハ刑ノ輕重ヲ區別スルコトナキニアラス

一 門戶、牆壁ノ踰越又ハ損壞

二 鎖鑰ノ開披

三 犯行ノ用ニ供スヘキ物ノ携帶 所謂犯行ノ用ニ供スヘキ物品トハ兇器及兇器ニアラサル物ヲモ包含スト解スヘキカ如シト雖モ兇器以外ノ犯罪ノ用ニ供スヘキ物トハ果シテ如何ナル物ヲ謂フヤノ疑似ヲ生スヘシ蓋罪ニハ數多ノ種類アリ故ニ汎ク犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ト云ヘハ如何ナル物ト雖モ犯行ノ用ニ供スヘカラサル物ナシ通説ニ依レハ所謂犯行ノ用ニ供スヘキ物ト云フハ廣義ノ兇器ニ外ナラストセリ

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 人ノ住所ヲ侵ス罪及其刑

四 暴行 本罪ニ付キ所謂暴行ト云フハ主トシテ侵入ノ手段タル不法ノ腕力ヲ謂フ暴行ハ本罪ニ付テハ上述シタル如ク一種ノ犯行ノ手段ナリ故ニ侵入後其場ヲ去ル場合ニ於テ家人ニ暴行ヲ加フル如キハ或ハ別種ノ罪ヲ構成スヘシト雖モ茲ニ所謂暴行ニハアラス

五 二人以上ノ共同侵入 刑法ハ單ニ二人以上ニテ入りタルトキト規定セルモ二人以上ノ共同侵入ノ意義ヲ有スト解釋ス故ニ乳兒ヲ伴ヒテ侵入シタルトキノ如キハ所謂二人以上トハ謂フヘカラス又二人以上共同セスシテ同時ニ家宅ノ表及裏ヨリ入りタルトキモ亦所謂二人以上トハ云フヘカラス而シテ所謂共同トハ通謀ヲ要スルカ又ハ一方ニ於ケル共同ノ觀念ニテ足レリトスルヤハ之ヲ總則ニ於ケル共同實行犯ニ付テノ研究ニ讓ラントス

六 爾餘ノ手段 上述五箇ノ手段ニ依ラスト雖モ苟モ侵入ノ行爲アルトキハ本罪ノ成立ニハ何等ノ妨ナシ故ニ私ニ侵入シタルトキモ亦其罪ハ成立ス

第三 犯行ノ場所

犯行ノ場所ニ付キ刑法ニ於テ船舶、止宿人ノ居室等ヲ豫想セサルハ今日一般學

者ノ非難スル所ナリ

- 一 他人ノ住居シタル邸宅 本罪ハ個人ノ拋棄シ得ヘキ法物ノ侵害ナリ故ニ自己ノ住居スル邸宅ニ關セサルヤ當然ナリトス住居トハ多少ノ日時内定住スル行爲ナリ故ニ止宿等ヲ包含セスト雖モ苟モ定住スル行爲アリトセハ犯行ノ當時ニハ現在セサルモ可ナリ邸宅トハ俗ニ所謂屋敷ヲ謂フ即チ一家ノ構内ヲ謂フ然レトモ多少ノ圍障物アリテ構内ト構外トヲ別ツニアラサレハ家宅權者ノ主觀的ニ邸宅内ナリトスルモ之ヲ所謂邸内トハ謂ヒ難カルヘシ
- 皇居、禁苑、離宮ハ勿論或場合ニ於ケル行在所ハ他人ノ住居シタル邸宅ナリト云フコトヲ得故ニ皇室ニ屬スル住宅ニシテ刑法第七十三條ニ列記セラレサルモノハ概ネ之ヲ他人ノ住居シタル邸宅トシテ取扱ハサルヘカラス
- 二 他人ノ看守シタル建造物 看守トハ有形的又ハ無形的の看守ヲ謂フ故ニ看守者ヲ置クコトハ勿論單ニ鎖鑰ヲ施シタルコトヲモ包含スヘシ
- 三 皇陵 常人ノ墓所ニ侵入スルコトハ概ネ罪トナラスシテ唯皇陵ニ付テノミ侵入罪成立ス

晝間他人ノ住所ヲ侵シタル罪ニ對シテハ十一月乃至六月ノ重禁錮ヲ科シ夜間他人ノ住所ヲ侵シタル罪ニ對シテハ一月乃至一年ノ重禁錮ヲ科ス而シテ若シ門戶墻壁ヲ踰越損壞シ鎖鑰ヲ開披シ犯行ノ用ニ供スヘキ物ヲ携帶シ暴行ヲ爲シ又ハ二人以上共同シテ侵入シタル場合ニハ其犯時ノ晝間ナルト夜間ナルトヲ區別シ各其刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科ス
而シテ侵入シタル場所カ皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ皇陵ナリシトキハ常ニ普通ノ場合ニ於ケル刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科ス

第九節 官ノ封印ヲ破棄スル罪及其刑

第一款 總說

所謂官ノ封印トハ官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ謂ヒ私人ノ施シタル封印ニ及ハス官署ノ處分ト云フハ強制執行、證據資料ノ保存等ノ目的ヲ以テ民事訴訟法及刑事訴訟法其他特別ノ稅法等ニ依據シテ爲ス差押ニ外ナラス民事訴訟法ノ規定ニ依レハ差押ハ必スシモ封印ノミニ依ルヘキモノト云フヲ得スト雖モ刑法ニハ單ニ封印ノミヲ規定セルヲ以テ其他ノ差押ノ表示ヲ含ムモノトハ解釋スルコ

官ノ封印
破棄スル
罪及其刑
總說

ト能ハス又破棄ト云フハ所謂全部又ハ一部ノ破棄即チ損壞ヲ謂フ然レトモ損壞以外ノ方法ニ依リ事實上封印ノ效果ヲ皆無ナラシムル行爲ヲ包含セサルモノト解セサルヘカラス但判例ハ之ニ反セリ

第二款 官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ破棄シタル罪及其刑

刑法ニ「特別ニ施シタル封印」ト云フ然レトモ余輩ハ苟モ官署ノ處分トシテ施シタル封印ナル以上ハ特別ニ施シタルモノナルト又ハ特別ニ施シタルニアラサルモノトノ區別ヲ爲スコトヲ得スト信ス刑法ハ「家屋、倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印」ト云フ然レトモ既ニ其他ノ物件ト云フ以上ハ家屋倉庫ハ勿論其他事實上封印ヲ施スコトヲ得ヘキ物ニ及フヲ以テ寧ロ封印ヲ施シタル物ノ如何ヲ限定セサルコトヲ可ナリト信ス

官署ノ處分
ニ依リ
施シタル
封印ヲ破
棄シタル
罪及其刑

本罪ハ官署ノ處分ニ依リ施シタル封印ヲ破棄スル行爲ナリ而シテ差押ヲ爲スニ當リテハ其看守者ヲ置ク場合ナシトセス故ニ本罪ノ主體ハ或ハ其看守者タルコトアルヘク或ハ然ラサル者タルコトアルヘシ看守者本罪ヲ犯シタルトキハ其情

狀ハ固ヨリ然ラサル者ノ犯シタル場合ヨリ重キヲ以テ刑法ハ第七十四條第二項ニ之ヲ規定シタリ

本罪ハ盜罪又ハ毀壞罪ト俱發スルコト多シ即チ官署ノ封印ヲ施シタル物ヲ盜取又ハ毀壞シタル行爲ハ多クノ場合ニ於テハ同時ニ其封印ヲ破棄スル行爲ヲ隨伴ス此場合ニ於テハ理論上現實ニ若ハ外觀的ニ二罪俱發スト雖モ刑法ハ之ヲ一罪トナス見解ヲ採リ第七十五條ニ於テ之ヲ規定シタリ然レトモ之ヲ一罪トナスノ實益ハ刑法第百條ノ適用ヲ爲スコトヲ要セサルニ止リ余輩ハ特ニ本條ヲ規定スル必要ナシト信ス

本罪ノ刑ハ左ノ如シ

- 一 本罪ノ主體カ看守者ナラサル場合ニ於テハ二月乃至二年ノ重禁錮ヲ科シ若シ本罪ヲ犯シテ其封印ヲ施シタル物ヲ盜取又ハ毀壞シタルトキハ前顯ノ刑ト盜罪若ハ毀壞罪ニ對スル刑トヲ比較シ比較的ニ重キ刑ヲ科ス
- 二 本罪ノ主體カ看守者ナル場合ニ於テハ通常ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科シ若シ本罪ヲ犯シ其封印ヲ施シタル物ヲ盜取又ハ毀壞シタルトキハ前顯ノ刑ト

ト盜罪又ハ毀壞罪ニ對スル刑トヲ比較シ比較的ニ重キ刑ヲ科ス

第三款 看守者カ懈怠ニ依リ封印ノ破棄ヲ覺

知セサル罪及其刑

刑法ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人云々ト規定ス故ニ其意ハ封印ヲ施シタル物ヲ盜取毀壞シタル犯人ハ封印ヲ破棄セサル者ト雖モ之ヲ含マシムルニ在ル如シト雖モ此種ノ行爲ハ官ノ封印ヲ破棄スル罪ト何等ノ關係ナキヲ以テ本罪ノ趣意ヨリ云ヘハ封印ヲ破棄シテ封印ヲ施シタル物ヲ盜取毀壞シタル犯人ノミヲ謂フト解スヘキカ若シ然ラハ單ニ封印ヲ破棄シタル犯人ニ付テノミ規定ストスルモ其趣意ニ於テハ何等ノ差異ナシト信ス

本罪ハ過失罪ニシテ其主體ハ官署ノ處分ニ因リ封印ヲ施シタル物ノ看守者タルコトヲ要シ懈怠ニ依リ封印ノ破棄又ハ封印ヲ施シタル物ノ盜取毀壞ヲ覺知セサル行爲ニ關ス而シテ本罪ノ刑ハ二圓乃至三十圓ノ罰金トス

第十節 公務ヲ行フヲ拒ム罪及其刑

第一款 陸海軍ノ將校カ權限アル官署ヨリ出

看守者カ懈怠ニ依リ封印ノ破棄ヲ覺知セサル罪及其刑

公務ヲ行フヲ拒ム罪及其刑
陸海軍ノ將校カ權限アル官署ヨリ出

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑
詳論 重罪、輕罪及其刑
公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
公務ヲ行フヲ拒ム罪及其刑

限アル官署ヨリ出
兵ヲ要求ス
ルニ拘ラタ
ス之ヲ肯
セサル罪
及其刑

兵ノ要求ヲ受ケタルニ拘ラス之ヲ肯 セサル罪及其刑

本罪ハ所謂不作爲罪ノ一ニシテ其主體ハ陸海軍ノ將校ナリ陸海軍ノ將校ト規定
スルヲ以テ下士以下ヲ包含セサルハ勿論ナルモ陸海軍ノ將校中出兵ノ要求ヲ受
ケテ出兵スル權限ヲ有スル者例ハ通常ノ場合ニ付キ論スレハ師團長、旅團長、警備
隊司令官ヲ謂フト解スヘシ

本罪ハ權限アル官署ヨリ出兵ノ要求ヲ受ケタルニ拘ラス之ヲ肯セサル不作爲ニ
關ス出兵ヲ要求スル權限ヲ有スル官署トハ裁判官、檢察官、司法警察官(明治十四年
太政官達第
八十二號司
法官ヨリ巡
查兵員要求
使用手續)道廳長官知事(明治二十六年十月
勅令第百六
十二號地方
官官制)、(明治三十年十月
勅令第三百
九十月
二號北海
道廳官制)等ノ官府ヲ謂フ出兵要求ノ權限アル官署ト規定スル故ニ動員命令ヲ發
スルコトヲ得ル官府ヲ包含セサルコトハ明瞭ナリトス
本罪ノ刑ハ主刑トシテ二月乃至二年ノ輕禁錮、附加刑トシテ五圓乃至五十圓ノ罰
金トス

第二款 兵役ヲ免ル、目的ヲ以テ詐僞ノ行爲

兵役ヲ免
ル、目的
ヲ以テ詐
僞ノ行爲

僞ノ行爲
ヲ爲ス罪
及其刑

ヲ爲ス罪及其刑

刑法第七十八條第一項ノ罪ハ兵役ニ編入セラルヘキ者カ詐僞ノ行爲ヲ以テ免
役ヲ圖ル行爲ナリ而シテ明治二十二年一月法律第一號徵兵令第三十一條ニハ「兵
役ヲ免カル、爲メ逃走シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞
ノ所爲ヲ用キタル者ハ一月以上一年以下ノ重錮禁ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス」ト規定ス徵兵令第三十一條ノ罪ハ兵役ヲ免ル、目的ヲ以テスル詐
僞ノ行爲ニシテ詐僞ノ行爲ヲ爲スニ依リテ成立シ詐僞ノ行爲ヲ手段トシテ免役
ヲ圖ルコトヲ要セス然ラハ刑法第七十八條第一項ノ罪ニ比較シ比較的廣濶ナ
ル範圍少ナクトモ同一ノ範圍ニ關スルニ拘ラス比較的の新法ナリ故ニ刑法第七
十八條第一項ハ事實上徵兵令第三十一條ニ依リ廢止セラレタルモノトスルモ何
等ノ不可ナシ是レ余輩カ本罪ヲ兵役ヲ免ル、目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲ス罪ト
ナシ直ニ徵兵令第三十一條ノ罪ヲ說明セントスル所以ナリ
本罪ニ付テハ陸軍刑法第二百二十四條、海軍刑法第三百三十九條ニ於テ軍人ニ關スル
忌避罪ノ規定アルヲ以テ本罪ハ自ラ軍人ニアラサル者ノ忌避罪ニ關スルモノト

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
靜謐ヲ害スル罪及其刑 公務ヲ行フ拒ム罪及其刑

解セサルヘカラス
 徴兵令第一條ニ依レハ常備兵役即チ現役及豫備兵役、後備兵役、補充兵役及國民兵役ヲ以テ所謂兵役ト爲シ、徴兵令第一條、第八條、第十二條、第十九條及明治二十五年三月陸軍省令第三號徴兵検査規則等ニ依レハ日本帝國臣民ニシテ滿十七歲以上滿四十歲以下ノ男子タルコト、公權ヲ剝奪セラレサル者ナルコト、身體検査規則上不合格者タラサル者ナルコト等ノ資格ヲ具有スル者ハ服役義務ヲ有ス故ニ此種ノ資格ヲ有スト査定セラレタル者カ現實ニ服役スルニ至ルマテノ間服役義務ヲ有スル者ナルコト疑似ナクシテ此種ノ者カ徴兵忌避ノ行爲ヲ爲シタリトスレハ徴兵忌避罪ハ直ニ成立スヘシ而シテ此種ノ年齢ニ達セサル者又ハ査定ヲ受クルニ至ラサル者ハ將來ニ於テ或ハ兵役義務ヲ有スルニ至ル者ナリト雖モ兵役ヲ免ル、目的ヲ以テ犯意ニ因リ詐欺ノ行爲ヲ爲シタルトキハ直ニ本罪ハ成立スト信ス唯身體検査規則上不合格者トナルヘキ者ナルヤ否ヤノ點ハ裁判所ニ於テ認定スルノ外ナシ但大審院判例ハ徴兵適齡以前ニ於テ兵役ヲ免ル、爲メ用ヒタル詐僞ノ行爲ハ徴兵忌避罪ノ豫備ニ止リ滿二十年ニ達シテ始テ成立ストナス如シ

本罪ハ兵役ヲ免ル、目的ヲ以テ詐僞ノ行爲ヲ爲ス行爲ニ關ス詐僞ノ行爲トハ例ハ逃走、潜匿、身體ノ毀傷、疾病ノ作爲、他人ニ囑托シテ其氏名ヲ詐稱セシメ代リテ兵役ニ服セシムル行爲其他ヲ謂フ

刑法第七十八條第二項前段ノ罪ハ同條第一項ノ罪又ハ徴兵令第三十一條ノ罪ノ適用例ニ過キスシテ刑法上別ニ之ヲ規定スル必要ナシト信ス又同項後段ノ罪ハ純然タル氏名詐僞ノ行爲ニシテ本條ノ規定ヲ待テ始テ氏名詐僞ノ責任ヲ歸スヘキモノニアラス余輩ハ此後段ノ罪モ亦氏名詐稱罪ノ適用例ニシテ刑法上特ニ之ヲ明定スル必要ナシト信ス
 本罪ノ刑ハ主刑トシテ一日乃至一年ノ重禁錮、附加刑トシテ三圓乃至三十圓ノ罰金ナリトス

第三款 業務上官署ヨリ解剖、分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサル罪及其刑

本罪ノ主體ハ或ハ醫師藥劑師タルコトアリ或ハ理學者タルコトアリ或ハ書家、畫

業務上官署ヨリ解剖、分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサル罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 靜謐ヲ害スル罪及其刑 公務ヲ行フヲ拒ム罪及其刑

家又ハ骨董商ナルコトアリ要スルニ苟モ一定ノ業務ニ從事スル者ハ皆本罪ノ主體タルコトヲ得ヘシ

本罪ハ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサル不作爲罪ナリ官署トハ例ハ司法裁判所行政裁判所軍法會議又ハ行政官廳等ヲ謂フ而シテ行政官廳カ法律上解剖等ヲ命シ得ヘキ場合ハ例ハ明治十年二月第二十二號布告檢視上變死者解剖ノ件ニ依ル場合ナリトス鑑定トハ作用ノ目的ヨリ付シタル名稱ニシテ解剖分析ハ作用自體ナリ故ニ解剖ハ人體ニ付テノ鑑定ヲ爲ス手段タルコトアルヘシ分析ハ藥物其他ニ付テノ鑑定ヲ爲ス手段タルコトアルヘシ鑑定ノ爲メノ呼出ニ應セサルコト又ハ呼出ニ應シタリト雖モ鑑定ヲ拒ムコト其他ヲ包含スヘシ

本罪ニ付テハ尙ホ刑事訴訟法第百十八條、第百三十六條、第百三十八條、民事訴訟法第二百九十四條、第三百二十八條、行政裁判法第三十八條、陸軍治罪法第六十四條、第六十五條、海軍治罪法第六十九條、第七十條等ヲ參照スヘシ
本罪ノ刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金ナリトス

第四款

裁判所ニ於テ證人トシテ事實ノ陳述ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサル罪及

其刑

裁判所ニ於テ事實ノ陳述ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサル罪及其刑

本罪ハ裁判所ヨリ證人トシテ陳述ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサル不作爲罪ナリ而シテ證人トシテ陳述スルコトヲ必要トスルカ故ニ口頭鑑定又ハ參考人トシテノ陳述ヲ命セラレタル場合ヲ包含セス裁判所ノ何ナリヤニ付キテハ種々ノ異論アレトモ要スルニ司法權ヲ行フ官府ナルヘシ然ラハ民事裁判所、刑事裁判所ノ裁判所ナルコトハ勿論陸軍軍法會議、海軍軍法會議、領事廳、集治監モ亦裁判所タルヘシ懲戒委員會(文官懲戒法)、懲戒裁判所(判事懲戒法)其他ハ特別ノ監督權ニ依リテ懲罰ヲ科スル設備ナルヲ以テ行政裁判所ハ行政監督ノ一方法ナルヲ以テ理論上之ヲ裁判所ト見サルヲ可トスル如シト雖モ國法上ハ之ヲ裁判所ト云ハサルヘカラス違警罪即決處分ヲ爲ス警察官署又ハ憲兵部、間接國稅又ハ關稅犯則者、處分其他ヲ爲ス稅務官廳ハ之ヲ裁判所トナスヘキヤ否ヤニ付テハ異論アリト雖モ余輩ハ之ヲ裁判所トナサ、ルヲ可トス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 評議ヲ害スル罪及其刑 公務ヲ行フヲ拒ム罪及其刑

本罪ニ付テモ刑事訴訟法第一百八條、第二百二十六條、民事訴訟法第二百九十四條、第三百二條及第四款ニ於ケル説明
本罪ノ刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金トス

第五款

醫師傳染病ニ關シ病患ノ検査又ハ消滅方法ノ陳述ヲ肯セサル罪及其刑

醫師傳染病ニ關シ病患ノ検査又ハ消滅方法ノ陳述ヲ肯セサル罪及其刑

本罪ノ主體ハ醫師又ハ獸醫トス

本罪ハ傳染病流行ノ時期又ハ傳染病者若ハ傳染病ヲ疾ム獸畜ノ乗船スル疑アル艦船入港ノ際病患ノ検査又ハ消滅ノ方法ノ陳述ヲ命セラレタルニ拘ラス之ヲ肯セサル不作爲罪ナリトス傳染病ニハ人類ニ關スル傳染病及獸畜ニ關スル傳染病ノ區別アリ人類ニ關スル傳染病ノ何タルヤハ傳染病豫防法第一條ニ依リ又所謂獸類及獸類ノ傳染病ノ何タルヤハ獸疫豫防法第八條ニ之ヲ定ム

本罪ノ刑ハ醫師ニ付テハ五圓乃至五十圓ノ罰金、獸醫ニ付テハ前述ノ刑ニ一等ヲ減輕シタル刑トス

第四章 信用ヲ害スル罪及其刑

信用ヲ害スル罪及其刑

第一節 總說

總說

信用ヲ害スル罪トハ要スルニ公ノ信用ヲ害スル罪ヲ謂フ而シテ廣ク信用ヲ害スル罪ト言フトキハ之ニ共通スル要點ハ人ヲ欺罔シ又ハ欺罔スル危險ニ在リト信ス欺罔トハ人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムルコトヲ謂フ其手段ハ之ヲ左ノ四種ニ分ツコトヲ得ヘシ

(一) 虛言 虛言トハ主トシテ聽官ヲ通シテ人ヲ錯誤ニ陥ラシムル作用ナリ

(二) 偽物ノ呈示 偽物ノ呈示トハ主トシテ視官ヲ通シテ人ヲ錯誤ニ陥ラシメントスル作用ヲ謂フ或種ノ物ハ其物自體ニ於テ一定ノ意義ヲ有スルコトアリ此種ノ偽物ヲ呈示シタルトキハ之ニ接觸スル者ハ其偽物ニ對シテモ亦通常其物自體ノ有スル一定ノ意義ヲ知了シ其知了スルニ因リテ錯誤ニ陥ルヘシ刑法ハ此種類ノ物ノミノ呈示ヲ罪ト爲シタリ

(三) 眞實ノ事實ヲ明告スヘキ法律上又ハ契約上ノ義務アル場合ニ於ケル默祕是レ不作爲ニ依リ人ヲ錯誤ニ陥ラシムル場合ナリトス蓋不作爲ニ依リ人ヲ錯誤ニ陥リタル場合ニ於テハ是レ他人カ錯誤ニ陥リタルニ外ナラスシテ他人ヲ錯

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 總說

誤ニ陷レタリトハ云ヒ得サルカ如シト雖モ法律上又ハ契約上ノ義務アル場合ニ於ケル不作爲ハ刑法上之ヲ作爲ト同視スヘキモノナレハナリ

(四) 包含行爲 包含行爲トハ當然一定ノ事實ヲ表示スル行爲ヲ謂ヒ刑法上虚言ト同一ニ待遇セラル

而シテ公ノ欺罔罪即チ公ノ信用ヲ害スル罪ト云フハ前記欺罔手段中廣キ範圍ニ害ヲ及ホス手段ヲ謂フ是レ刑法カ詐欺取財誘拐等ヲ私ノ欺罔罪ト爲シ他ハ之ヲ公ノ信用ヲ害スル罪ト爲シタル所以ナリ

第二節 貨幣偽造罪及其刑

第一款 總說

刑法ハ貨幣ヲ偽造スル罪ト題ス然レトモ本節中ニ規定セル罪ハ單ニ偽造罪ノミニアラサルヲ以テ正確ニ論スレハ本節ハ貨幣ニ關スル罪又ハ貨幣ノ偽造若ハ變造行使及偽造若ハ變造貨幣ノ行使ニ關スル罪ト題セサルヘカラス

第一 貨幣 貨幣トハ當時ノ有權者カ其物自體ニ於テ價格ノ標準タルコトヲ證明シタル物ヲ謂フ故ニ舊貨幣ハ之ヲ貨幣ト謂フコトヲ得サルナリ貨幣ニハ內

國貨幣及外國貨幣ノ區別アリ

一 內國貨幣 我國法ニ依レハ上ニ述ヘタル有權者ハ原則トシテ國家自體ニシテ唯例外トシテ銀行タルコトアリ明治三十年三月法律第十六號貨幣法第一條ニハ貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬スト規定シ明治十五年六月第三十二號布告日本銀行條例第十四條ニハ日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スル權ヲ有ス云々ト規定セルニ依リテ之ヲ知ルヘシ然ラハ現今ニ於テハ政府又ハ日本銀行カ其物自體ニ於テ價格ノ標準タルコトヲ明示シタル物カ貨幣ナリト解セサルヘカラス

貨幣ノ種類ハ大別シテ紙幣及鑄貨ノ二トナスヘク紙幣トハ兌換銀行券ノミヲ謂ヒ兌換銀行條例第十二條ニ依リ官許ヲ得テ取引スル銀行ノ紙幣ト同一視セラレ夫ノ國立銀行紙幣及政府發行紙幣ノ如キモ既ニ舊貨幣ニ屬セリト雖モ白銅貨ハ青銅貨ト共ニ刑法ニ所謂銅貨幣ト稱スヘキモノトス而シテ鑄貨トハ貨幣法第二條ニ依レハ金貨、銀貨、白銅貨及青銅貨ノ種類アリ未發行ノ貨幣ハ未來ノ貨幣ニシテ廢止セラレタル貨幣ハ過去ノ貨幣ナリ共ニ嚴格ナ

貨幣偽造罪及其刑
總說

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

ル意味ニ於ケル貨幣ト云フコトヲ得サルハ勿論ナリ然レトモ何レノ國ニ於テモ貨幣ハ直ニ之ヲ廢止セス先ツ其通用ヲ廢止シ一定ノ引換期間ヲ定メ其期間經過シタル時ニ於テ其貨幣ヲ廢止ス故ニ通用廢止後引換期間ノ滿了前ニ於ケル貨幣即チ例ハ明治三十七年十二月以前ニ於ケル政府發行ノ紙幣及國立銀行紙幣ノ如キモノカ嚴格ナル意味ニ於ケル貨幣ナルヤ否ヤニ付テハ學者間ニ異說アリ蓋此種ノ貨幣ハ廣義ノ貨幣タルニハ相違ナシト雖モ既ニ法律上其通用ヲ廢止セラレタルモノナルカ故ニ通用ノ廢止ハ直ニ貨幣ノ廢止ト同視セサルヘカラサルノミナラス立法論トシテ言フモ事實上通用スルモ舊貨幣ハ之ヲ嚴格ナル意味ニ於ケル貨幣ヲ以テ論セサルヲ見レハ通用廢止後ノ貨幣ヲ以テ特ニ嚴格ナル意味ニ於ケル貨幣ト爲サ、ルヘカラサル必要ナキカ如シ

二 外國貨幣 外國貨幣トハ外國ノ國法上通用力ヲ有スル金貨幣、銀貨幣及外國政府ノ許可ヲ得テ發行スル銀行紙幣ヲ謂フ

第二 貨幣ノ偽造及變造

一 貨幣ノ偽造トハ眞貨ヲ基礎ト爲サシテ他ノ眞貨ヲ模造スルヲ謂ヒ其模

倣ハ一般世人ヲシテ眞貨ナリト錯誤セシムル程度ニ達スルヲ必要トス

1 眞貨ノ模造 貨幣ノ偽造トハ眞貨ノ模造ヲ謂フ故ニ必スヤ眞貨ヲ模範

ト爲シ眞貨ニ模倣シテ作製シタルコトヲ必要トス故ニ三十錢銀貨ノ模造

ハ刑法上之ヲ偽造ト云フヘカラサル如シ

2 模倣 模倣トハ模倣シテ製作スルコトヲ謂フ故ニ偽造シタル貨幣カ眞

正ノ貨幣ニ比較シ同等又ハ優等ナル貨幣ナルト劣等ナル貨幣タルトハ模

造タルニ於テ何等ノ影響ナシ模倣トハ形式ニ付テ言ヘハ造幣權ヲ害シタ

ル行爲ニシテ實質ニ付テ言ヘハ眞正ナラサル貨幣ヲ製作スル行爲ナルコ

トハ勿論ナリ模倣トハ上述セル如ク眞貨ニ模倣シテ製作スルコトヲ要ス

然ラハ苟モ眞貨ニ模倣シテ製作セル物ナラハ總テ之ヲ偽造貨幣ト云フコ

トヲ得ヘキヤ是レ所謂類似ノ要不要ノ問題ヲ生スル所以ナリ余輩ハ偽造

トハ眞貨ニ模倣シテ製作スルノミナラス又其眞貨ニ類似スルコトヲ必要

トシ其類似ハ一般世人ヲシテ眞貨ト錯誤セシムル程度ニ達スルコトヲ必

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

要ナリト信ス大審院ノ判決例ハ貨幣ノ偽造ハ同質ナラス又ハ粗造ナリト雖モ他人ヲ欺罔スルニ足レハ其罪成立ストナセルカ如シ而シテ理論上ヨリスレハ眞貨ニ模倣シテ製作スルニ二種ノ場合アリ得ヘシ即チ眞貨ヲ製作上ノ基礎トスル場合ト然ラサル場合はナリ然レトモ刑法ハ後ニ述フルカ如ク眞貨ヲ製作ノ基礎ト爲シ他ノ眞貨ヲ模造シタルトキハ之ヲ變造ト爲シ偽造ト云ハス故ニ偽造タルニ必要ナル製作ハ單ニ眞貨ヲ基礎ト爲ササルモノヲ謂フト解セサルヘカラス

二 貨幣ノ變造トハ眞貨ヲ基礎トシテ他ノ眞貨ヲ模造スルコト又ハ眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコトハ刑法上變造ノ一體様ナルコトハ疑ナシト雖モ立法論トシテハ大ニ非難ノ存スル所ナリ蓋シ二錢銅貨ニ工作ヲ加ヘ其名價ヲ變更シテ五十錢銀貨ヲ變造スルハ眞貨ヲ變更スルト同時ニ五十錢ナル眞貨ヲ模造スルヲ以テ此種類ノ變造ハ理ニ於テハ毫モ偽造ニ異ラス而シテ眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコトハ固ヨリ不正違法ノ行爲ナルヘシト雖モ之ヲ以テ偽造ト爲スコトヲ

得サルナリ然ルニ此性質上大ナル區別アルニ行爲ヲ變造ト云フ一ノ語句中ニ包含セシムルハ極テ不當ナリト云ハサルヘカラス獨逸刑法其他歐洲多數ノ立法例ニ依レハ貨幣ノ偽造變造ト貨幣ノ原質ヲ削減スルコトハ全然之ヲ區別セリ

1 眞貨ヲ基礎トナス他ノ眞貨ノ模造 此種ノ變造ニ付テモ其模倣ハ一般世人ヲシテ眞貨ト錯誤セシムル程度ニ達スルコトヲ必要トスルハ勿論ナリ學者多ク偽造ノミニ付テハ類似ノ要不要ノ問題ヲ攻究スト雖モ未タ變造ニ付テ此問題ヲ攻究セシヲ聞カス而シテ二錢銅貨ニ銀鍍金ヲ爲スト雖モ未タ其名價ヲ變セサル行爲ノ如キハ余輩ノ所信ニ依レハ此種ノ變造ニ必要ナル類似ナキモノナリ而シテ此種ノ變造ハ鑄造貨幣ニ付テ云ヘハ拾錢銀貨ニ工作ヲ加ヘ名價ヲ變シ一圓金貨ヲ模造スル行爲等ヲ謂フ然レトモ眞貨ヲ製作ノ基礎トスルコトハ此種ノ變造ノ要件ナリ故ニ事實上眞貨ヲ利用シテ製作シタル場合ト雖モ眞貨ト云フコトヲ得サル程度ニマテ破壞セラレタル物ヲ利用シタルトキハ變造行爲ナリト云ハス紙幣ニ付テ言

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

ハ理論上真正ノ紙幣ヲ基礎トシテ他ノ真正ノ紙幣ヲ模造スル行爲ヲ謂
フモ事實上豫想スルコトヲ得ルハ單ニ其名價ヲ變更スル行爲ノミナリ

2

真正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコト此種類ノ變造ハ機械的又ハ化
學的作用ニ依リ其原質ヲ削減シ因リテ其價額ヲ減損セシムル行爲ニシテ
鑄造貨幣ノミニ付テ考フルコトヲ得ヘシ

大審院ノ判決例ハ貨幣ヲ同質ノ貨幣ニ變更スル行爲ヲ變造トシ之ヲ他質ノ貨
幣ニ變更スル行爲ヲ偽造ト爲スト雖モ良好ノ判決例ニアラサルコトハ學者ノ
一般ニ認ムル所ナリ

學者或ハ曰ク貨幣偽造トハ真正ナラサル貨幣ヲ製作スル行爲ヲ謂フト然リ偽
造トハ真正ナラサル貨幣ノ製作ナリ然レトモ真正ノ貨幣ヲ製作ノ基礎ト爲サ
サルコト及真正ノ貨幣ニ模倣スルコトノ二條件ヲ掲クルニアラサレハ完全ニ
偽造ヲ定義シタルモノト云フヘカラス或ハ曰ク貨幣偽造トハ造幣權ヲ害スル
行爲ヲ謂フト余輩モ貨幣偽造ハ造幣權ヲ害スル行爲ナリト信スル者ナルモ造
幣權ヲ害スル行爲ハ悉ク之ヲ貨幣偽造ナリト云フコトヲ得ス是レ前述ノ如ク

第一種ノ變造ハ一面ヨリ言フトキハ真正ノ貨幣ニ變更ヲ加フル行爲ナルカ如
キモ又他ノ一面ヨリ觀ルトキハ變更ヲ加ヘテ他ノ真正ナル貨幣ニ類似セシム
ル作用ナリ而シテ此後ノ點ヨリ論スルトキハ第一種ノ變造モ亦造幣權ヲ害ス
ル行爲ナリト云ハサルヘカラサレハナリ

要スルニ偽造ト所謂第一種ノ變造トハ理論上何等區別ノ標準ヲ認ムヘカラサ
ルカ如シ故ニ立法論トシテ論スレハ偽造變造ノ區別ヲ廢止シ偽造又ハ贋造ノ
名稱ヲ以テ之ヲ一括シ所謂第二種ノ變造ハ之ヲ原質ノ削減又ハ變造ト命名シ
テ明瞭ニ之ヲ偽造又ハ贋造ト區別スヘキモノト信ス

貨幣偽造ニ關シテハ明治三十八年法律第六十六號外國ニ於テ流通スル貨幣、紙幣
銀行券、證券偽造變造及模造ニ關スル件アリ流通セシムル目的ヲ以テ外國ニ於テ
ノミ流通スル硬貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造變造シ、偽造變造ノ硬貨
紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ流通セシムル目的ヲ以テ輸入シ若ハ授受シタ
ル行爲ヲ罪トシ尙ホ通貨及證券模造取締法ニ於テ貨幣、兌換銀行券ニ紛シキ外觀
ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルヲ罪トシ又滙入紙製造取締規則ニ於テ紙幣

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

行使ノ目的ニ以テ
貨幣ヲ偽造シテ之
ヲ行使スル罪及其刑

兌換銀行券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字、畫紋又ハ凸ニ文字、畫紋ヲ滲入シタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルヲ罪トシ以テ貨幣偽造行使ヲ警察スルニ便セリ

第二款 行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造シテ之ヲ行使スル罪及其刑

本罪ニ關シテハ真正ナラサル貨幣ヲ呈示シテ取財シタル場合ヲ生スルコトナキニアラス此場合ニ於テ其貨幣力上ニ述ヘタル所論ニ依リテ其類似ノ程度上ヨリ見テ偽造又ハ變造ノ貨幣ト云ヒ得ヘカラサルトキハ詐欺取財罪トシテ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘシ

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造シテ行使スル行爲ニ關ス

第一 行使ノ目的 行使ノ何タルヤハ後ニ述フヘシト雖モ偽造又ハ變造ハ行使ノ目的ニ出ツルニアラサレハ例ハ學術上ノ參考品ト爲ス目的、造幣術ヲ修習スル目的ニ出テタルトキハ罪成立セス偽造又ハ變造ニ行使ノ目的ヲ必要トスルコトハ總則ヲ適用シテ判明スヘキ事項ニアラサルニ拘ラス刑法ハ之ヲ明記セサルカ故ニ多少ノ疑ヲ招ク恐ナキニアラスト雖モ偽造又ハ變造ニ關スル規定

ヲ通觀シテ刑法ノ眞意ヲ探究スレハ刑法カ殊更ニ行使ノ目的ヲ不必要ナリトナシタリト認ムヘキ根據ナシ故ニ余輩ハ行使ノ目的ニ出テタル偽造又ハ變造ニアラサレハ刑法上ノ偽造又ハ變造ニアラスト斷言シ從テ刑法力之ヲ明ニ記載セサリシハ重大ナル缺點ナリト言ハント欲ス

第二 一定ノ貨幣 本罪ハ内國及外國貨幣ニ關ス

一 内國貨幣 刑法ハ内國貨幣ニ對シ常ニ内國通用ノナル形容詞ヲ付シタリ

「内國通用」トハ我日本國ニ於テ強制通用力ヲ有スト云フ意味ナリト解釋スル者アリ然レトモ余輩ハ苟モ我國ノ貨幣ト云フナラハ凡テ或意味ニ於ケル強制通用力ヲ有スルモノト云フヲ得ヘク我國ノ貨幣ト云ヒ得ヘクシテ而モ或意味ニ於ケル強制通用力ナキモノハ之ヲ豫想スルコトヲ得スト信スルノミナララス嚴格ニ強制通用力アル貨幣ト云フナラハ唯金貨幣ヲ包含スルノミニシテ補助貨幣ナル銀貨幣、銅貨幣等ハ之ヲ包含セサルモノト云ハサルヘカラス是レ貨幣法第七條ニ依レハ金貨幣ハ其額ニ制限ナク通用シ銀貨幣ハ拾圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リテ法貨トシテ通用スト規定

シタルヲ以テ或數額以上ニ於テハ銀貨幣及銅貨幣ハ強制的ノ通用力ヲ有セサルヲ以テナリ然ラハ余輩ハ刑法カ各内國貨幣ニ付キ内國通用ノト云フ形容詞ヲ付シタルハ貨幣ナル詞ヲ余輩ノ如ク嚴格ナル意味ニ解釋セサリシ結果ナリト信ス從テ貨幣ナル語ヲ嚴格ニ解スルトキハ内國通用ノナル語ハ不必要ナリト云ハサルヘカラス

二 外國貨幣 偽造又ハ變造ノ目的物トナル外國ノ貨幣ハ内國ノ國法上通用力ヲ有スルモノナラサルヘカラス外國貨幣ニシテ内國ノ國法上通用力ヲ有スルモノハ歐洲ニ於ケル銀貨同盟國ニ見ルコトヲ得ルモ現今我國ニ於テハ絶無ナリトス刑法ハ單ニ外國ノ金銀貨ト規定シタルモ嚴格ナル意味ニ於ケル外國ノ金銀貨即チ外國ノ國法上通用力ヲ有スル金銀貨ナルコトハ勿論ナリ刑法ハ内國ニ於テ通用スルト云フ形容詞ヲ付セリ故ニ論者或ハ曰ク是レ内國ニ於ケル任意通用ノ意味ナリト然レトモ若シ此學說ヲ採ルトスレハ内國ニ任意通用スル外國ノ貨幣ノ偽造又ハ變造行使ハ之ヲ罪トスルニ拘ラス何故ニ内國ニ任意通用スル内國貨幣ノ偽造又ハ變造行使ヲ罪トセサルカト

云フ非難ヲ免ル、能ハス余輩ハ此說ヲ採ラス

第三 行使 行使トハ所謂眞物トシテ流通ニ置クノ義ニシテ流通ニ置クト云フハ眞貨トシテ通用スヘキ手段ヲ施スコトヲ謂フ故ニ苟モ眞貨トシテ通用スヘキ手段ナレハ自己カ直接ニ眞貨トシテ使用スルト又ハ間接ニ他人ヲシテ眞貨トシテ使用セシムルトヲ區別セス今行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造シタル者カ偽造貨幣ナルコトヲ知リテ之ヲ購買セントスル者ニ賣リタリトス此場合ニ於テハ偽造者ハ間接ノ方法ニ依リテ以テ眞貨トシテ通用セシメントスルモノニシテ通説ニ依レハ勿論行使シタリト云フコトヲ得ルナリ大審院ノ判決例ハ偽造貨幣ナル情ヲ知ル者ニ賣與スルハ行使ニアラストスル如シト雖モ其誤ナルコトハ現ニ一般學者ノ認ムル所ナリ若シ貨幣ニ關スル行使ヲ所謂流通ニ置ク義ナリト解スレハ印ニ關スル使用、文書ニ關スル行使トハ多少別種ノ意義ヲ有スルモノト云ハサルヘカラサルコトニ注意ヲ要ス而シテ行使スル偽造又ハ變造ノ貨幣ハ必ス行使者又ハ其共犯ノ偽造又ハ變造シタルモノナルヘキコト勿論ナリ而シテ本罪ニ對シテハ

第一 内國貨幣中

- 一 金貨幣、銀貨幣又ハ紙幣ノ偽造行使ニ對シテハ無期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ輕懲役ヲ科ス
- 二 兌換銀行券ニ付テハ兌換銀行券條例第十二條ヲ適用シテ第百八十四條ニ依リ其他ノ許可ヲ得テ發行スル銀行紙幣ニ付テハ直ニ第百八十四條ニ依リテ共ニ第百八十二條ニ從テ其偽造行使ニ對シテハ無期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ輕懲役ヲ科ス
- 三 銅貨幣ノ偽造行使ニ對シテハ輕懲役ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ主刑トシテ一年乃至三年ノ重禁錮ヲ科ス

第二 外國貨幣中

- 一 金貨幣又ハ銀貨幣ノ偽造行使ニ對シテハ有期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ主刑トシテ二年乃至五年ノ重禁錮ヲ科ス
- 二 許可ヲ得テ發行スル銀行紙幣ニ付テハ第百八十四條、第百八十三條ニ依リ其偽造行使ニ對シテハ有期徒刑ヲ科シ其變造行使ニ對シテハ主刑トシテ二

行使ノ目
以テ
偽造
貨幣
其刑
及

年乃至五年ノ重禁錮ヲ科ス
而シテ其内國貨幣タルト外國貨幣タルトヲ區別セス凡テ其偽造又ハ變造行使ニ對シ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ因リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ常ニ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキモノトス

第三款 行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造スル罪

及其刑

刑法ハ貨幣ノ偽造、變造既ニ成リテ未タ行使セサル者ト云ヒ即チ暗黙ノ中ニ自ラ行使ノ目的ニ出テタル偽造又ハ變造ノミヲ豫想セルコトヲ知ルニ足ルヘク而シテ本罪ニ行使ノ目的ヲ必要ト爲スヘキコトハ既ニ上ニ述ヘタリ故ニ本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル行爲ノ既遂又ハ未遂ナリ所謂一定ノ貨幣トハ偽造行使罪ニ付テ述ヘタルモノヲ謂フ偽造又ハ變造ノ行爲ノ成立スル時期即チ此罪ノ成立時期ニ關シテハ固ヨリ事實問題ナルモ通説ニ依レハ偽造又ハ第一種ノ變造ハ共ニ名價ヲ付スル時期ニ於テ完成スルモノト爲スカ如シ本罪ニ付テハ或種ノ豫備モ亦之ヲ罪トス即チ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

造スル爲メ偽造器械ヲ豫備スル行爲ナリ偽造器械トハ主觀的ニ偽造ノ用ニ供スヘキ器械ト認ムヘキモノヲ謂フ單ニ偽造ノ用ニ供スヘキ器械ナルコトヲ要セス本罪ノ刑ハ

一 偽造又ハ變造ノ既遂ニ對シテハ其貨幣ノ偽造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑トシ

二 偽造又ハ變造ノ未遂ニ對シテハ其貨幣ノ偽造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑トシ

三 偽造器械ノ豫備ニ對シテハ其貨幣ノ偽造又ハ變造行使ニ對シ科スヘキ刑ヨリ三等ヲ減輕シタル刑トス

而シテ何レノ場合ニ於テモ本罪ニ對シ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘシ

本罪ニ付テハ自首免除ノ特例ヲ認ム故ニ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造シタル者カ其行使前一般ノ自首ニ必要ナル條件ヲ具備シタル自首ヲ爲シタルトキハ其刑ヲ全免シ單ニ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科スヘキナリ

第四款

行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造セントスル者ノ囑託ヲ受ケ偽造ニ從事シタル罪及其刑

行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造セントスル者ノ囑託ヲ受ケ偽造ニ從事シタル罪及其刑

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造セントスル者ノ囑託ヲ受ケテ偽造若ハ變造ノ勞役ニ服シタル行爲又ハ偽造若ハ變造ノ勞役ヲ幫助スル行爲ニ關ス刑法ハ雇ヲ受ケタル職工ト規定スト雖モ必スシモ雇傭契約ヲ爲スコトヲ要セス又必スシモ職工ナル身分ヲ有スルコトヲ必要トセスシテ單ニ囑託ヲ受ケテ偽造又ハ變造ニ從事スル者ト云フニ同シ

本罪ハ一種ノ結果罪ナリト解釋スルヲ妥當トス是レ刑法カ前數條ト規定シ前條ト規定セサルヲ以テナリ故ニ本罪ノ刑ハ囑託者カ行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シテ行使シタル場合ト單ニ行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シタル場合トニ依リ區別アルヘシト雖モ何レノ場合ニ於テモ囑託ヲ受ケ偽造又ハ變造ニ從事シタル行爲ニ付テハ各囑託者ニ科スヘキ刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑ヲ科シ囑託ヲ受ケ偽造又ハ變造スル行爲ヲ幫助シタル行爲ニ付テハ囑託ヲ受ケ偽造又ハ變造ニ

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

行使ノ目
的ヲ以テ
貨幣ヲ偽
造スル者
ニ房屋ヲ
給與スル
罪及
其刑

從事シタル者ニ科スヘキ刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減輕シタル刑ヲ科スヘシ而シテ
本罪ニ付テモ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ因リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃
至二年ノ監視ヲ附加スヘキモノトス

本罪ニ付テハ總則ノ自首ノ條件以外ニ尙ホ囑託者カ偽造又ハ變造ノ貨幣ヲ行使
スル前ナル條件ヲ具備シタル自首ヲ爲シタルノトキハ本刑ヲ免除セラルヘシ

第五款 行使ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ偽造スル者

ニ房屋ヲ給與スル罪及其刑

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル者ヲ幫助スル行爲ナリ
行使ノ目的ヲ以テ一定ノ貨幣ヲ偽造又ハ變造スル者ヲ幫助スル行爲ハ必スシモ
房屋給與ノミニ限ラサルモ刑法ハ幫助行爲中房屋給與ノミヲ特別罪ト爲シ其他
ハ凡テ之ヲ總則ノ從犯トシテ處斷セントシタルナリ
本罪ノ刑ハ偽造變造ノ各本刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑トス所謂偽造變造ノ各本
刑ノ何タルヤニ付テハ異說アレトモ通說ニ依レハ第百八十二條乃至第百八十六
條ニ記載シタル犯人ノ科セラルヘキ刑ト解釋ス

行使ノ目
的ヲ以テ
貨幣ヲ偽
造スル者
ニ房屋ヲ
給與スル
罪及
其刑

本罪ニ付テハ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキハ六月乃
至二年ノ監視ヲ附加シ總則ノ自首ノ條件以外ニ被給與者カ偽造又ハ變造ノ貨幣ヲ
行使スル前ナル條件ヲ具備シタル自首ヲ爲シタルトキハ其本刑ヲ免除セラル

第六款 行使ノ目的ヲ以テ偽造ノ貨幣ヲ輸入

スル罪及其刑

本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造貨幣ヲ輸入スル行爲ナリ而シテ本罪ノ刑
ハ第百八十二條乃至第百八十六條ニ規定シタル刑ニシテ其刑カ當然又ハ特別ノ
減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ナルトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加シ行使前自首シ
タルトキハ本刑ヲ免除シ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科ス

第七款 偽造貨幣ノ行使罪及其刑

偽造又ハ變造ノ貨幣ヲ行使スル行爲ハ種々ニ之ヲ區別スルコトヲ得

第一 自身偽造又ハ變造シタル貨幣ヲ行使スル行爲 是レ前述ノ偽造行使罪ニ

該當スルモノナリ

第二 他人カ偽造又ハ變造シタル貨幣ヲ行使スル行爲

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 貨幣偽造罪及其刑

一 偽造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知リテ行使シタル行爲

(1) 偽造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知リ之ヲ收受シタル場合(一九)所謂收受トハ廣ク所持ヲ移スコトヲ謂ヒ其所持スルニ至リタル原因ハ法律行爲タルト狹義ノ不法行爲其他タルト又ハ罪タルトヲ區別セサルヲ通説トシ大審院ノ判例モ亦此見解ヲ採レリ

(2) 偽造又ハ變造ノ貨幣ナルコトヲ知ラスシテ之ヲ收受シタル場合(一九) 二 偽造又ハ變造ノ貨幣タルコトヲ知ラスシテ行使シタル行爲

上ニ述ヘタル行爲ノ中ニ於テ第二種ノ二ノ場合ノ罪ト爲ラサルハ當然ニシテ刑法カ罪トセルハ第一種ノ行爲及第二種ノ一ノ行爲ナリ而シテ第一種ノ行爲ハ偽造又ハ變造行使ニシテ既ニ之ヲ上述セリ即チ本款ニ於テ説明スルハ第二種ノ一ニ屬スル行爲ナリ

第二種ノ一ニ屬スル行爲ハ(イ)ノ場合ニ該當スルトキハ現ニ行使シタル場合ニ於テハ偽造又ハ變造行使ニ科スヘキ刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑ヲ科シ其未タ行使セサル場合ニ於テハ偽造又ハ變造行使ニ科スヘキ刑ヨリ三等ヲ減輕シタル刑ヲ

科シ其刑カ輕罪ナルトキハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加シ又行使前ニ自首シタルトキハ其本刑ヲ免除シテ六月乃至三年ノ監視ノミヲ科ス

第二種ノ一ニ屬スル行爲カ(ロ)ノ場合ニ該當スルトキハ其行使シタル貨幣ノ名價ノ二倍ニ該ル罰金ヲ科シ何レノ場合ト雖モ其罰金ハ二圓以上ナルヘキモノト規定セリ

刑法第九十三條ノ罪ハ概ネ純然タル詐欺取財ニシテ詐欺取財タル場合ニ於テハ刑法第三百九十條ノ詐欺取財罪ノ除外例ヲ成スモノナリ故ニ類似ノ程度ヨリ見テ偽造又ハ變造ナリト云フコトヲ得ル模造貨幣ニ關スルトキハ本罪トシテ之ヲ處斷シ類似ノ程度ヨリ見テ偽造又ハ變造ナリト云フコトヲ得サル模造貨幣ニ關スルトキハ詐欺取財トシテ處斷スヘキモノトス而シテ刑法ハ詐欺取財ニハ自由刑ヲ科シ本罪ニハ罰金ヲ科ス到底二者ハ刑ノ輕重ニ付キ其權衡ヲ失スルモノト云ハサルヘカラスシテ刑法中有數ノ缺點ナリトス

第三節 官印ヲ偽造スル罪及其刑
第一款 官印ニ關スル罪及其刑

官印ヲ偽造スル罪及其刑
官印ニ關スル罪及其刑
其罪

刑法各論
本論 重罪、輕罪及其刑、公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑、官印ヲ偽造スル罪及其刑
二八三

第一項 總說

所謂印章トハ或ハ印顆ヲ謂ヒ或ハ印影ヲ謂フ印顆ト印影トハ全ク其本質ヲ異ニス故ニ印章ノ何タルヤヲ説明スルニモ此二者ヲ區別シテ論セサルヘカラス

一 印顆トハ物上ニ印影ヲ現出シ得ヘキ器具即チ携帶シ得ヘキ印刷器ニシテ概ネ單純ナル文字圖書又ハ記號等ヲ刻シタル物ヲ謂フ而シテ印顆ト印刷器トハ唯形體ノ大小及其裝置ノ單複ノ區別アルノミニシテ嚴格ニ此二者ヲ區別スルコト難シ

二 印影トハ印顆ヲ使用シテ物上ニ現ハシタル文字、圖書又ハ記號等ヲ謂フ印影トハ要スルニ文字、圖書、記號其他ヲ謂フモノナルヲ以テ印影ヲ單ニ文書、文字又ハ記號トシテ觀察スルトキハ多クハ其印影ヲ現出セル物ト共ニ所謂文書タルヘシ故ニ印影ト文書トノ區別ハ唯文字其他ノ現出スル物ヲ含ムト含マサルトニ在リト雖モ印影ハ常ニ物上ニ現出スルヲ以テ實際上二者ハ時ニ一定ノ意思ニ表示セサルコトアルト常ニ一定ノ意思ヲ表示スルトノ區別アルノミ故ニ一定ノ場合ニ於テハ印影ト文書トハ嚴格ニ之ヲ區別スルコト能ハス

而シテ印章トハ斯ノ如ク或ハ印顆ヲ謂ヒ或ハ印影ヲ謂フト雖モ印影ノミカ真正ノ印章ト云ヒ得ヘキモノニシテ印顆ノ如キハ單ニ印影ヲ製作スル専用ノ器具タルニ過キス故ニ刑法ノ精神ハ畢竟印影ヲ保護スルニ在ルモ印顆ハ印影ヲ製作スル専用ノ器具ニシテ印顆ヲ保護スルニアラスンハ印影ノ保護モ完全ナリト云フヲ得サルヲ以テ刑法ニ於テハ印影及印顆ノ二者ニ關シ其規定ヲ設ケタリ

印章ニハ其印顆ナルト又印影ナルトヲ區別セス官印、私印ノ區別アリ私印ト云フハ私ノ事務ニ付キ使用スル印ヲ謂ヒ官印トハ公務上使用スル印ヲ謂フ而シテ刑法ハ官印ニ付キ尙ホ左ノ區別ヲ認メタリ

一 御璽、國璽、御璽トハ天皇ノ御印ニシテ御名ノ下ニ押捺セラル、モノナリ國璽トハ日本帝國ノ印ヲ謂フ

二 狹義ノ官印、刑法ハ第九十五條ニ於テハ官署ノ印ト云フト雖モ第九十七條ニ於テハ單ニ官印ト云フノミナラス官署ノ印ト云フモ公務ノ執行上官吏カ使用スル印ヲモ包含スヘキヤ勿論ナルヲ以テ寧ロ官印ト云フヲ可トス而シテ刑法ノ官印ニ關スル規定ハ明治二十三年法律第百號ニ依リテ公署ノ印ニモ

刑法各論
 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
 信用ヲ害スル罪及其刑 官印ヲ偽造スル罪及其刑

適用アルモノトス

1 產物等又ハ什物等ニ押捺スル用ニ供スヘキ官ノ記號印章、此種ノ記號印章ハ其範圍不明ナルモ產物商品等ニ押捺スル用ニ供スル記號印章トハ產物ノ検査濟ヲ表示スル檢印其他ヲ謂ヒ什物書籍等ニ押捺スル官ノ記號印章ハ官廳ノ所有ニ係ルコトヲ表示スル記號印章等ヲ謂フ

2 最狹義ノ官印、狹義ノ官印中ニハ官ノ記號印章ヲモ包含ス故ニ最狹義ニ所謂官印トハ第九十六條ノ規定スル官ノ記號印章ヲ除外シタル官印即チ概テ官文書ニ押捺スル用ニ供スヘキ官印ヲ謂フモノト解セサルヘカラス官印ニ關スル罪トハ官ノ印類偽造ノ罪及官ノ印影使用ノ罪ヲ謂フ而シテ本罪ハ其輕罪タル場合ト雖モ其未遂ヲ罪トシ又本罪ニ付キ當然又ハ特別ノ減輕事由ニ依リ輕罪ノ刑ヲ科スヘキトキト雖モ六月乃至二年ノ監視ヲ附加ス

官ノ印類
ノ偽造罪
及其刑

第一項 官ノ印類ノ偽造罪及其刑

刑法第九十四條乃至第九十六條ニ規定スル偽造力單ニ官ノ印類ニ關スルカ又ハ官ノ印影ニモ關スルカニ付テハ異論ナキニアラス然レトモ刑法ハ第九十

七條ニ於テ明ニ影蹟ニ付キ規定スルヲ以テ特ニ影蹟ト明言セサル第九十四條乃至百九十六條ニ於テハ單ニ印類ノミニ關スト解釋セサルヲ得ス通説モ亦然リ是レ余輩カ本項ノ題目ヲ官ノ印類偽造罪ト題シタル所以ナリ但大審院ハ反對ノ見解ヲ採用セリ本罪ハ官ノ印影ヲ使用スル目的ヲ以テ官ノ印類ヲ偽造スル行爲ノ既遂及未遂ナリ

第一 官ノ印影ヲ使用スル目的 刑法ニ明文ナキモ官ノ印影ヲ使用スル目的ニ出テタルニアラスンハ官ノ印類ノ偽造ヲ罪ト爲サ、ルコト貨幣偽造罪ト同シ官ノ印影ヲ使用スル目的トハ後述スル如ク偽造印類ノ印影ヲ真正ノ印影トシテ使用セントスル目的ニ外ナラス

第二 官ノ印類ヲ偽造スル行爲 偽造ノ何タルカハ貨幣偽造罪ニ付テ説明シタルモノニ同シ要スルニ真正ノ官ノ印類ノ模造ニシテ其模造ハ一般ノ世人ヲシテ真正ノ官ノ印類ナリト錯誤セシムル程度ニ達スルヲ必要トス而シテ貨幣ト印章トハ其物自體ニ於テ差別アル結果トシテ印類ノ原質ノ削減ハ自ラ單純ナ

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 官印ヲ偽造スル罪及其刑

ル物品毀棄罪トナルヘク又真正ノ印類ヲ基礎トシタル模造ハ事實上現出セサルヘク若シ之アリトスルモ斯ノ如キハ偽造ノ罪トシテ處分スヘキモノトス

官ノ印類ノ偽造罪ニ對スル刑ハ其印類カ

一 御璽國璽ニ關スルトキハ無期徒刑トシ

二 最狹義ノ官印ニ關スルトキハ重懲役トシ

三 官ノ記號印章ニ關スル場合ニ於テ

1 產物等ニ押捺スル用ニ供スヘキモノナルトキハ輕懲役トシ

2 書籍等ニ押捺スル用ニ供スヘキモノナルトキハ一年乃至三年ノ重禁錮トス

官ノ印影
及
其
刑

第三項 官ノ印影ノ使用罪及其刑

本項ニ於テハ所謂官印盜用罪及偽造官印ノ使用罪ヲ攻究セントス

刑法第九十七條ニハ影蹟ヲ盜用シタル者ハ云々ト規定ス盜用ナル文字自體ニ

拘泥セハ或ハ印類又ハ印影ヲ竊取又ハ強取シテ使用スルコトヲ要スルカ如キモ

盜ナル語句ハ斯ノ如ク嚴格ナル意味ニ解スヘキモノニアラサルコトハ論ナシ

學者ノ盜用ノ何ナリヤヲ解セントスル者ハ皆刑法ノ成語ヲ省ミスシテ其眞意ヲ刑法佛文草案ニ求メントス同草案第三百三十二條ニハ不法ニ押捺シテ惡意ヲ以テ使用シタル者ハ云々ト規定ス然ルニ此佛文草案ノ解釋如何ニ因リ自ラ二ノ異リタル斷案ニ達スルニ至レリ或ハ盜用トハ盜捺使用ノ意ナリ故ニ少ナクトモ使用者カ真正ナル印類ニ依リ押捺シテ現出セシメタル印影ニ關スルコトヲ要スト爲シ或ハ盜用トハ盜奪使用ノ意ナリ故ニ凡テ真正ナル印類ニ依リ押捺シテ現出セシメタル印影ニ關スルヲ以テ足レリトシ使用者カ真正ノ印類ニ依リ押捺シテ現出セシメタルト否トヲ區別セスト爲ス

上述二ノ見解ハ實際ノ適用上重大ナル差異ヲ生スルモノナリ夫ノ權利者カ正當ニ押捺シテ現出セシメタル印影ヲ切り抜キテ之ヲ他ニ使用スル行爲又ハ權利者カ正當ニ押捺シテ現出セシメタル印影ヲ利用シ其印類ノ現出セル文書ノ内容ヲ變スル行爲ハ第二ノ見解ニ依レハ盜用ト云ヒ得ヘク第一ノ見解ニ依レハ盜用ト云フ能ハス立法論トシテハ第二見解ヲ採ルコト妥當ナルノミナラス大審院ハ從來第二見解ヲ採ル如キモ佛文草案ノ規定ヲ翫味スレハ第一見解ヲ採ラサルヘカ

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 官印ヲ偽造スル罪及其刑

ラサルコトヲ感ス是レ佛文章案ニ於テモ上述ノ如ク不法ニ押捺シテ悪意ヲ以テ使用シト明記ス押捺トハ常ニ印類ニ牽聯スルモノニシテ單純ニ印影ヲ使用スル意味ニアラサレハナリ而シテ其何レノ見解ヲ採用ストスルモ尙ホ盜用ノ意義ニ付キ左ノ二見解ヲ生ス

一 盜用トハ盜捺若ハ盜奪又ハ使用ノ意ナリ故ニ盜捺若ハ盜奪シタル者ハ之ヲ使用スルニ致ラスト雖モ又使用シタル者ハ自身之ヲ盜捺若ハ盜奪シタルニアラスト雖モ共ニ盜用罪ノ犯人トナスコトヲ得ヘシ

二 盜用トハ盜捺若ハ盜奪且使用ノ意ナリ故ニ自身盜捺若ハ盜奪シテ之ヲ使用スルニアラスンハ盜用罪ハ成立セスト

而シテ少クトモ解釋論トシテハ余ハ第二見解ヲ正シキモノナリト信ス

刑法第九十四條乃至第九十六條ニハ單ニ偽璽又ハ偽印ヲ使用シト云ヘトモ主トシテ偽造印類ノ影蹟ヲ使用スル行爲ヲ謂フ然ラハ結局之ヲ押捺使用ト解シ特ニ盜用ト同シク押捺且使用ト解スル外ナシ
官ノ印影トハ官ノ印類偽造ニ付キ述ヘタル官ノ印類ニ依リ現出スヘキ影蹟ヲ謂

フ官ノ印影ノ使用トハ印類ヲ官ノ印影トシテ使用スルコトヲ謂フ故ニ印影ハ必スシモ紙上ニノミ現出スルモノニアラス稀ニ木皮上ニ又ハ木板上其他ニ現出スルコトアリト雖モ其紙上ニ現出シタル場合ニ於テハ多クハ其文書ノ行使ヲ以テ官印使用ト解スヘシ而シテ其使用セル印影ノ現出スルニ付テハ理論上種々ノ場合アリ得ヘシ

第一 眞正ノ官ノ印類ノ影蹟ナル場合 此場合ニモ亦種々ノ區別アリ

一 押捺者カ權利ヲ有スル場合 此場合ハ罪トナラス

二 押捺者カ權利ヲ有セサル場合 此場合ニモ尙ホ左ノ區別アリ

1 押捺有カ印影ノ使用者ナルトキ 刑法第九十七條ニハ御璽、國璽、官印、偽造印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ云々ト規定セリ盜用トハ上述セル如ク余ノ信スル所ニ依レハ盜捺使用ナリ而シテ此場合ニ付テモ押捺者カ

(イ) 官ノ印類ノ監守者ナルコトアリ 官ノ印類ノ監守者ハ自身之ヲ押捺シテ使用スルニ付キ最モ便宜ノ地位ニ立ツ者ナリ故ニ刑法ハ監守者ニ付テハ比較的重キ罪ト規定シ其官ノ印類ノ偽造罪ト同一ノ刑ヲ科シタ

リ刑法ハ單ニ監守者ト規定セルニ拘ラス大審院ニテハ之ヲ監守スル官吏ニ限ルト判示セリ蓋字義上穩當ナラスト雖モ官吏ニアラサレハ概ネ官印ヲ監守スル場合ナキカ於ニ或ハ此見解ヲ正當ト爲スヲ得ヘシ

(ロ) 否ラサル者ナルコトアリ 此種ノ盜用罪ニ對シテハ其官ノ印類ノ偽

造罪ニ對スル刑ヨリ一等ヲ減輕シタル刑ヲ科シタリ

2 押捺者カ印影ノ使用者以外ノ者ナルトキ 余輩ハ刑法上此種ノ印影使

用ハ罪ト爲ラスト信ス是レ上述ノ如ク刑法第百九十七條ノ盜用即チ盜捺

使用トハ盜捺シ且使用スルコトヲ謂フト解スル當然ノ結果ナレハナリ

第二 偽造ノ官ノ印類ノ影蹟ナル場合 此場合ハ單ニ偽造ノ官ノ印類ト云フ故

ニ官ノ印類ノ使用者自身ノ偽造ニ係ルモノト又ハ否ラサル者ノ偽造ニ係ルモ

ノナルコトヲ問ハサルハ論ナシ然レトモ其押捺者カ何人ナルカニ付キ更ニ之

ヲ二ニ區別シテ論セサルヘカラス

一 押捺者カ印影ノ使用者ナル場合 偽造ノ官印類ノ影蹟ヲ使用シタル場合

ニ於テ其押捺者カ同時ニ使用者ナルトキハ恰モ第百九十四條乃至第百九十

六條ノ後段ニ該當スルヲ以テ其官ノ印類ノ種類ニ從テ各其偽造罪ト同一ニ

處罰セラルヘキモノトス

二 押捺者カ印影ノ使用者以外ノ者ナル場合 刑法ハ御璽ヲ使用シト云ヒ又

ハ偽印ヲ使用シト云フト雖モ上述ノ如ク押捺使用殊ニ押捺且使用ト解釋ス

ヘキヲ以テ本場合ハ固ヨリ罪トナラスト云ハサルヘカラス

第二款 印紙、界紙、郵便切手ニ關スル罪及其刑

第一 總說

印紙トハ現時ノ國法ニ依レハ收入印紙ノミトス從前ニ在リテハ印紙ニハ證券印

紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ノ數種類アリシナリ界紙トハ證券界紙

訴訟用罫紙、裁判所用罫紙ヲ意味セルモノナルカ現時ノ國法ニハ界紙ト云フヘキ

モノ皆無ナリトス郵便切手ハ郵便料金ヲ表彰スヘキ證標ニシテ郵便法ニ依レハ

郵便ニ關スル料金ハ概ネ郵便切手其他郵便料金ヲ表彰スヘキ證標ヲ以テ納付ス

ヘキモノトシ尙ホ郵便切手其他郵便料金ヲ表彰スヘキ證標ハ政府之ヲ發行スヘ

キモノトセリ但郵便法ニ於テ郵便切手偽造、偽造ノ郵便切手ノ使用及郵便切手ノ

印紙、界紙、郵便切手ニ關スル罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 官印ヲ偽造スル罪及其刑

再貼用ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルヲ以テ郵便切手ニ關シ刑法ノ規定ハ廢止セラレタルモノト云フコトヲ得ヘシ
本款ニ規定シタル罪ノ未遂ハ常ニ之ヲ罪ト爲シ輕罪ノ刑ヲ科スルトキニハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキナリ
收入印紙ノ再貼用罪ハ罰金ヲ科スヘキ輕罪ナリ而シテ刑法ハ本罪ニモ亦監視ヲ附加セントス故ニ罰金刑ニ對シテ自由刑ヲ附加スル奇觀ヲ呈ス立法上妥當ナラサルコト論ヲ俟タス

第二 收入印紙ヲ偽造スル罪及其刑

本罪ハ收入印紙ヲ偽造又ハ變造スル行爲ノ既遂又ハ未遂ニシテ之ヲ使用スルヲ必要トセス而シテ此種ノ物ノ偽造又ハ變造ハ恰モ紙幣ノ偽造又ハ變造ト其意味ヲ同ウス故ニ此種ノ物ニ付テハ所謂第二種ノ變造ヲ豫想シ得サルハ勿論ナリ
本罪ノ刑ハ主刑トシテ一年乃至五年ノ重禁錮附加刑トシテ五圓乃至五十圓ノ罰金トス

第三 偽造ノ收入印紙ヲ使用スル罪及其刑

本罪ハ偽造又ハ變造ニ係ル收入印紙ヲ使用スル行爲ノ既遂又ハ未遂ナリ使用トハ偽造物ヲ真正ノ物トシテ使用スル意ナルヲ以テ必ス真正ノ收入印紙トシテ使用スルコトヲ必要トスヘシ刑法ハ其情ヲ知リテト云ヒ其偽造又ハ變造ノ收入印紙ヲ使用スト云ハサルヲ以テ其偽造又ハ變造ノ收入印紙ハ必ス他人ノ偽造又ハ變造ニ係ルコトヲ要スヘキカ如シ

本罪ノ刑ハ上述シタル偽造又ハ變造ノ罪ニ對スル刑ニ同シ

第四 收入印紙ノ再貼用罪及其刑

本罪ハ使用済ノ印紙ヲ使用スル行爲ノ既遂又ハ未遂ナリ凡テ印紙ハ一度之ヲ使用シタルトキハ法令ノ規定ニ依リ官廳又ハ使用者ニ於テ文書面ト印紙ノ彩紋トニ懸ケテ消印ヲ押捺スヘキモノトス故ニ既ニ使用シタル印紙ハ概テ消印アルヘク消印アル印紙ナレハ常ニ其既ニ使用済ナルコトヲ知リ得ヘシ然ラハ本罪ハ概テ消印アル印紙ヲ使用スルノ行爲ナリト云フヲ得ヘシ刑法ハ貼用シト云フ然レトモ畢竟收入印紙トシテ使用スル謂ニ過キスト解セサルヘカラス貼用ヲ貼付使用ト解スルモ亦單純ナル使用ト解スルモ其適用ニハ大ナル區別ナシ唯日附ヲ變

シタル古キ借用證文ニ依リテ借金ヲ爲シタル場合ノ如キハ單純ノ使用ト解スレ
ハ本罪成立スルニ拘ラス貼付使用ト解スレハ本罪成立セサル差異アルノミ
本罪ニハ主刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金ヲ科ス但上述ノ如ク附加刑トシテ六
月乃至二年ノ監視ヲ科セサルヘカラス

第四節 官ノ文書ヲ偽造スル罪及其刑

第一款 總說

官ノ文書
ヲ偽造ス
ル罪及其
刑
總說

刑法ハ本節目ニ於テハ官ノ文書ヲ偽造スル罪ト題スルニ拘ラス官文書ノ偽造ニ
關スル罪及官文書ノ毀棄罪ヲ規定ス刑法ハ私文書ノ毀棄罪ハ之ヲ物品毀棄罪ノ
一體様ト規定スルヲ以テ官文書ノ毀棄罪ト大ニ權衡ヲ失スルニ至レリ
文書ナル語ノ意義ハ明確ナル如クニシテ其實ハ最モ不明ナリ特ニ我刑法ニ於テ
ハ印章特ニ記號印章ヲ認ムルヲ以テ文書ノ意義ハ一層曖昧タルニ至レリ獨逸ニ
於ケル所謂「ウルクन्द」カ事實證明ニ關スル文書ナルコトニ付テハ學者間異論ナ
シト雖モ尙ホ他ノ點ニ於テ左ノ異說アルカ如シ

(一) 主觀說 此見解ニ依レハ作成者カ事實上證明ノ用ニ供スヘキ意思ヲ以テ作

成シタル文書タルコトヲ要スト爲ス

(二) 客觀說 此見解ニ依レハ作成者ノ意思如何ニ拘ラス總テ事實證明ノ用ニ供
シ得ル文書ナルヲ以テ足レリト爲ス

然レトモ獨逸ニ於ケル「ウルクन्द」ナル語ハ寧ロ我證書即チ權利義務ニ關スル文
書ナル語ニ當リ文書ナル語トハ少シク其意義ニ於テ廣狹ノ別アルヲ免レス故ニ
獨逸學者ノ説明ヲ以テ直ニ我文書ヲ説明シ得サルモ今是等ノ學者ノ研究ノ結果
ヲ參酌シテ文書ノ何タルヤヲ研究スヘシ文書トハ

- 1 意思表示ナリ 既ニ文書ト云フ以上ハ必スヤ一定ノ意思ヲ明示シ又ハ默示
シタルモノナラサルヘカラス故ニ例ハ彼ノ名刺ノ如キハ文書ニアラス然レト
モ既ニ意思ヲ表示スト云フ以上ハ必ス表示スル意思ヲ以テ表示シタルヲ要ス
ルハ勿論ナリ故ニ例ハ草案、原稿、謄本等ハ多クノ場合ニ於テハ文書ニアラス
- 2 形體ヲ付與シタルモノナリ 意思表示ハ言語、形容又ハ行爲ニ依リテモ之ヲ
爲スコトヲ得ヘシ然レトモ文書トハ無形ノ意思表示ナラサルコトハ明確ナリ
文書ニハ必ス其意思表示ニ何等カノ形體ヲ付與シタルモノナラサルヘカラス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 官ノ文書ヲ偽造スル罪及其刑

形體ヲ付與ストハ或ハ紙上或ハ石上或ハ板上其他ニ其意思表示ヲ現出セシムルコトヲ謂ヒ其現出セシムル物ノ何タルヤヲ區別セス

3 文字ニ依ルモノナリ 意思表示ニ形體ヲ付與スル方法ハ種々アリ或ハ繪畫ニ依リ或ハ記號ニ依リ又ハ文字ニ依ルコトヲ得ヘシ文字特ニ我國ノ形象文字ノ如キハ或場合ニ於テハ繪畫又ハ記號ト之ヲ區別スルコト困難ナルヘシト雖モ而モ文書ト云フ以上ハ必ス主トシテ文字ニ依リタルモノナラサルヘカラス繪畫又ハ記號カ文字ニ依ル意思表示中ニ散見スルハ文書タルコトヲ害セサルヘシト雖モ單ニ繪畫又ハ記號ノミニ依ル意思表示ハ文書ト云フヲ得サルヘシ故ニ例ハ地圖繪畫下足札其他ハ之ヲ文書トハ云ハサルヲ通説トス

然ラハ文書トハ文字ニ依リ形體ヲ付與シタル意思表示ナリト解スルヲ可トス論者或ハ文書トハ證據文書ナリト云ヒ或ハ權利義務若ハ事實ノ證明ニ關スル文書ナリト云フ獨逸法ノ「ウルクन्द」ノ如キハ其語句上必ス證據又ハ證明ニ關スル文書ナラサルヘカラス我刑法ニ於テハ私文書ニ付キ故ラニ權利義務ニ關セサル文書ヲ豫想セルヲ以テ之ヲ證據又ハ證明ニ關スル文書ト爲サハルヲ可トスル

如シ故ニ余ハ通説ニ反シテ文書ヲ證據又ハ證明ニ關スルモノニ限ル見解ヲ採ラス但余ノ如ク單ニ意思表示ナリト解スルモ既ニ意思表示ナランカ概シ權利義務若ハ少クトモ或事實ノ證明ノ用ニ供スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ實際上論者ノ説ト其結果ヲ異ニセサルヘシ而シテ彼ノ文書ニ依ル著作物ハ其性質上文書ナルコト疑ナシト雖モ特ニ其偽作ニ付テハ著作權法違反ノ成立スルカ故ニ刑法上文書ノ中ニハ之ヲ含マサルモノト解セサルヘカラス然レトモ此意味ニ於ケル文書ト著作物トノ關係ハ或場合ニ於テ區別シ難キコトアルヘシ 獨逸刑法ハ文書偽造ニ關シテハ凡テ内外國ノ公文書又ハ權利若ハ權利關係ノ證明上重要ナル私文書ニ付テ規定シ文書毀棄ニ關シテハ特別ノ規定アリト雖モ其一般規定トシテハ所有又ハ其占有ニ屬セサル文書ニ付キ規定シ特ニ官吏ニ對スル規定トシテハ職務上信託セラレ又ハ職務上接手セル文書ニ付キ規定ス要スルニ偽造又ハ變造ノ目的物タル文書及毀棄ノ目的物タル文書間ニ明文ヲ以テ顯著ナル區別ヲ認メタルコトハ爭フヘカラス我刑法ハ常ニ官文書ヲ偽造又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ云々ト云ヒ其第二項ニ於テ直ニ其官ノ文書ヲ毀棄シタル

者ハ云々ト云フ然ラハ語句ノ解釋上官文書ノ意義ハ其文書カ偽造又ハ變造ノ目的物タル場合ナルト又ハ毀棄ノ目的物タル場合ナルトヲ區別セス常ニ同一ナリト解セサルヘカラサルニ至ル然ルニ之ニ同一ノ意味ヲ有セシムルニハ左ノ如キ非常ノ困難ヲ感セサルヘカラス

一 假ニ官文書ノ意義ヲ官吏カ職務上作製シタル文書ナリトセン例ハ官吏カ職務上作製シタル文書ト雖モ有效ニ私人ノ所有ニ歸スルコトアラン此場合ニ於テ之ヲ毀棄シタル者ヲ官文書毀棄者トシテ處斷スルハ刑法ノ眞意ニハアラサルヘク官吏カ職務上作製セサル文書ト雖モ之ヲ官吏ニ提出シタル後ニ於テ毀棄シタル者ハ官文書ノ毀棄者トシテ處斷セサルヘカラサル如シ此種ノ不當ノ結果ヲ避ケンニハ官文書ノ意義ヲ官府ノ所有ニ屬スルモノ、ミニ限定セサルヘカラス

二 然ラハ官文書ノ意義ヲ官府ノ所有ニ屬スル文書ナリトセン私人ノ所有ニ屬スル文書モ官吏カ職務上作製シタルモノナリセハ其偽造又ハ變造ノ行爲ハ官文書ノ偽造又ハ變造罪ニアラスト云ハサルヘカラス此不當ノ結果ヲ避ケンニ

ハ官文書ノ意義ヲ官吏カ職務上作製シタルモノ、ミニ限定セサルヘカラス斯ノ如ク何レノ假定ニ依ルトスルモ偽造變造ト毀棄トニ共通シ何等不當ノ結果ヲ見ルコトナクシテ説明スルコトヲ得ス故ニ字義上稍不穩當ノ感ナキニアラサルモ獨逸刑法ノ如ク偽造又ハ變造ノ目的物タル官文書ト毀棄ノ目的物タル官文書トニ付キ別異ノ意義ヲ付與セサルヘカラス

第一 偽造又ハ變造ノ目的物タル官文書

一 狹義ノ官文書 狹義ノ官文書トハ要スルニ官吏カ其職務ノ執行上作製シタル文書及官吏カ其職務ノ執行上證明シタル私文書ナルヘシ而シテ職務ノ執行タルニハ官吏抗拒罪ニ付キ述ヘタル條件ヲ具備スルヲ要スルヲ以テ官吏ノ作製又ハ證明シタル文書ト雖モ管轄權及具體的管轄權ヲ有シ一定ノ形式ヲ遵守シテ作製又ハ證明シタルモノニアラサレハ之ヲ官文書ト云ハス

(イ) 詔書 詔書トハ主權者カ主權者タル資格ニ於テ爲シタル意思表示ヲ概稱ス

(ロ) 官吏ノ公證文書 官吏カ其職務ノ執行上一私人ノ身分、權利其他ノ事項

ヲ證明シタル文書ハ之ヲ官吏ノ公證文書ト云フ官吏ノ公證文書ニ付テモ全部官吏ノ作製ニ係ルモノト一部官吏ノ作製ニ係ルモノトノ別アリ

(1) 全部官吏ノ作製ニ係ル公證文書トハ例ハ公債證書、登記簿其他ノ謄本或種ノ身分證明書其他ヲ謂フ地券モ亦公證文書ナリト雖モ既ニ廢止セラレタルヲ以テ現今ニ於テハ全ク其適用ナシ郵便爲替證書、官設ニ係ル營造物ノ使用券等ハ一私人ノ權利ニ關シテ官吏カ證明ヲ爲シタル文書ナルヲ以テ余輩ハ之ヲ官文書中ノ公證文書ト爲スヲ可トスト雖モ通説ハ之ヲ最狹義ノ官文書トナス如シ郵便切手及印紙等モ亦公證文書ナレトモ其偽造又ハ變造ニ付テハ特別ノ明文アルヲ以テ之ヲ公證文書ト見ルト否トハ何等ノ實益ナシ

(2) 一部官吏ノ作製ニ係ル公證文書トハ換言セハ官吏ノ公證ヲ經タル所ノ私文書ニシテ例ハ所謂與書證明、登記濟ノ記載アル文書其他ナリトス

(ハ) 最狹義ノ官文書 是レ前二者ニ屬セサル總テノ官文書ヲ謂フ

二 公文書 公文書トハ公吏カ其職務ノ執行上作製シタル文書及其職務ノ執行上證明シタル文書ヲ謂ヒ公證文書ト公證文書ニアラサル公文書トノ別ヲ認ムルコトヲ得ヘシ

第二 毀棄ノ目的物タル官文書

一 狹義ノ官文書

(イ) 詔書 詔書ハ偽造又ハ變造ノ目的物タル詔書ト同一ニ解セサルヘカラス

(ロ) 最狹義ノ官文書 毀棄ニ付キテノ最狹義ノ官文書トハ官府ノ所有ニ屬スル文書ヲ謂ヒ其文書カ官吏ノ作製ニ係ルモノナルト又ハ私人ノ作製ニ係ルモノナルトヲ區別セス是レ官文書毀棄ハ夫ノ私文書毀棄ト同シク多少財産傷害ノ性質ヲ有スヘキモノナレハナリ但官廳カ現實ニ保管スル文書ト雖モ夫ノ刑事事件ノ證據書類ノ如ク單ニ一時的ニ保管抑留スルニ止リ其所有權カ官府ニ移ラサルモノハ毀棄ノ目的物タル官文書ハアラス

(ハ) 官吏ノ公證文書 官吏ノ公證文書ハ果シテ毀棄ノ目的物タル官文書ナリヤ否ヤハ解釋上極テ困難ナル問題ナリトス刑法第二百二條第二項ニハ

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シト規定シ同第二百三條第二項ニハ其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シト規定シ同第二百五條第二項ニモ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ毀棄シタル者亦同シトノ意義ヲ表示セシムルニ拘ラス第二百四條ニ規定スル所謂公證文書ニ付テハ何等毀棄ニ關スル條項ヲ設ケス然ラハ刑法ノ真意ハ公證文書ノ毀棄ハ官吏カ其管掌ニ係ル公證文書ヲ毀棄シタル場合ニアラスンハ之ヲ罪トナサ、ルニ在リト解釋スヘキ如シ然レトモ上述ノ如ク偽造又ハ變造ノ目的物タル官文書ト毀棄ノ目的物タル官文書トハ同一ノ意義ヲ有スト解釋セサルヘカラサルニ拘ラス此解釋ヲ爲スコトヲ得サル障礙アルヲ以テ已ムコトヲ得ス毀棄ノ目的物タル官文書ニ偽造又ハ變造ノ目的物タル官文書ト別異ナル意義ヲ與ヘサルヘカラサルニ至レリ既ニ此別異ナル意義即チ官府ノ所有ニ係ル文書ナル意義ヲ與ヘタル以上ハ苟モ官府ノ所有ニ屬スル所ノ文書ナレハ其偽造又ハ變造ニ關シテハ所謂最狹義ノ官文書ナルト又ハ公證文書ナルト又ハ私文書ナルトニ論ナク凡テ毀棄ノ目的物タルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラサル

如シ此條理ノ抵觸ヲ調和スルコトハ固ヨリ困難ナリト雖モ余ハ寧ロ後ニ述ヘタル見解ヲ採用スルノ外ナシト信ス

本節ノ罪ハ官文書ノ偽造罪タルト又ハ其毀棄罪タルトヲ問ハス其刑ハ總テ重罪ノ刑ナリ然レトモ時ニ種々ノ減輕事由ニ因リ其科スヘキ刑カ輕罪ノ刑トナルヘキ場合モ敢テ尠ナシトセス刑法ハ是等ノ場合ヲ豫想シテ第二百七條ニ於テ此種ノ場合ニ付テハ六月乃至二年ノ監視ヲ附加スヘキ旨ヲ規定シタリ

第二款 官文書偽造罪及其刑

第一項 總說

刑法ハ官文書ヲ偽造スル罪ニ付テモ又私文書ヲ偽造スル罪ニ付テモ單ニ文書ヲ偽造又ハ増減變換シテ行使シタル者云々ト規定シ其成立ニ他ノ條件ヲ必要トスルコトヲ明言セス然ラハ單ニ一時ノ戲作ニテモ亦文書偽造トシテ處罰スヘキ如シ學者或ハ曰ク文書偽造ヲ斯ク廣義ニ解スルハ何等ノ必要ナクシテ却テ數多ノ弊害ヲ生セシムルニ過キスト故ニ文書偽造ノ適用ヲ狹クスル爲メ學者ハ概ネ左ノ二主義ノ一ヲ採用セサルヘカラサルニ至レリ

第一主義 偽造行使ハ特別ノ條件例ハ害ヲ加フル目的又ハ害ヲ生シ得ヘキ事實ヲ具有スルモノニ限定スル主義 明治十三年四月三十日司法省内訓ニハ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使スル罪ヲ構成スルニハ必ス眞實ヲ變換スルコト他人ニ害ヲ加フル意思害ヲ生シ得ヘキコトヲ要ス云々ト云ヘリ然ラハ刑法ノ立法當時ノ解釋者ハ此主義ニ依リテ文書偽造行使罪ノ適用ヲ一定ノ範圍内ニ止メントシタルモノ、如シ然レトモ其見解ノ當否ハ自ラ別種ノ問題ニ屬ス

第二 文書ヲ特定ノ文書例ハ害ヲ生シ得ヘキ文書ニ限定スル主義 此主義ニ依レハ偽造行使ニハ何等特別ノ目的アルコトヲ要セサルモ文書カ特定ノ性質即チ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ具有スルコトヲ必要トス

上述ノ二主義ハ其限定スル手段ヲ異ニスルモ行使カ害ヲ生シ得ヘキ場合ニ於テハ概ネ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル文書ニ關スト云フコトヲ得ヘク又其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル文書ニ關スル場合ニ於テハ概ネ其行使ハ害ヲ生シ得ヘキモノナリト云フコトヲ得ヘクシテ畢竟スルニ第一主義ト第二主義トハ別異ノ手段ニ依リ同一ノ目的ヲ達セントスルモノト云ヒ得ヘシ

二主義ハ斯ノ如ク何レモ同一ノ目的ヲ達シ得ヘキニ拘ラス余輩ハ何等ノ明文ナキトキニ於テ單純ノ理論ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ行使ナルコト其他特別ノ條件ヲ附加スルハ擅私ノ解釋ナリト信スルヲ以テ寧ロ文書ノ意義ヲ刑法上必要ノ程度ニ限ル法制ヲ歡迎ス然レトモ文書ニ付テモ我刑法ノ如ク廣ク官文書又ハ私文書ト規定スル刑法ニ於テハ之ヲ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル文書ニ限定スルハ果シテ妥當ナリヤ否ヤ余輩ハ所謂文書トハ嚴格ナル意味ニ於テハ事實上概ネ其行使ニ依リ害ヲ生シ得ヘキモノタルヘシト思料スルニ拘ラス理論上此主義ヲ採用スルコトヲ躊躇シ余自身ハ此點ニ關シテ別種ノ見解ヲ有ス

刑法改正案ハ文書偽造行使罪ニ付テモ行使ノ目的ニ出テタル偽造タルコトヲ要スト明言セリ余輩ハ此法制ニ從ヒ行使ノ目的ニ出テタル文書偽造行使ハ凡テ之ヲ罪トシテ何等ノ差支ナシト信ス然リト雖モ此見解ヲ以テ改正案ノ規定ニ依リテ刑法ノ解釋ヲ試ミシモノト思料スヘカラス余輩ハ改正案ヲ離レ刑法ノ解釋トシテモ此見解ヲ採ルコトノ妥當ナルヲ感スル者ナリ

一 行使ノ目的ハ文書偽造ニ必要ナリ 貨幣偽造罪、官印偽造罪ハ行使ノ目的ニ

出テタル偽造ノ場合ニ於テノミ成立ナルコトハ上述セル所ニシテ刑法上ニハ何等ノ明文ナキニ拘ラス少ナクモ今日ニ於テハ全然疑似ナキ問題ニ屬ス刑法ノ解釋トシテ貨幣偽造又ハ官印偽造ニ行使ノ目的ニ出テタルコトヲ必要トシ文書偽造ニ付テハ何故ニ行使ノ目的ニ出ツルコトヲ必要トセサルカ文書偽造ニ行使ノ目的ヲ要スルコトハ貨幣偽造又ハ官印偽造等ニ行使ノ目的ヲ要スルト同一論理ノ結果ナリトス

二 行使ノ目的以外ノ條件ハ文書偽造ニ必要ナラス 文書偽造ノ何ナリヤハ後ニ述フヘシト雖モ其嚴格ナル意味ニ於テハ其偽造ニ行使ノ目的ヲ必要トスルノミニシテ理論上ヨリ云ヘハ其行使ニ依リテ害ヲ生シ得ヘキ文書ナルコトヲ必要トセサルノミナラス害ヲ加フル目的又ハ其行使カ害ヲ生シ得ヘキ事實等ヲ必要トセス從來ノ學者ハ害ヲ生シ得ヘキ行使ニアラサレハ文書偽造ヲ處罰スルハ不當ナリトナシ或ハ文書偽造ハ害ヲ生シ得ヘキモノナルコトヲ要ストナシ或ハ文書ハ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スルコトヲ要ストナシ以テ何等ノ明文ヲ置カサル我刑法ノ解釋ト爲サントシタリ然レトモ害ヲ生シ得ヘキ行使ニ

一七二

アラサレハ文書偽造ノ何故ニ之ヲ處罰シ得サルカ例ハ刑法ハ私印偽造ヲ罰ス而シテ印章ノ中ニハ文書ト同シク之ヲ使用スルモ何等ノ害ヲ生シ得サルモノアルニ拘ラス學者ハ私印偽造ニ付テハ害ヲ生シ得ヘキ行使ナルコトヲ必要トセサルニ獨リ文書偽造ニ付テノミ之ヲ必要トセリ若シ嚴格ニ論者ノ言ニ從ヘハ信用ヲ害スル罪ハ殆ト害ヲ生シ得ヘキ行使ニ付テノミ罪トナルヘキモノナルコトヲ斷言セサルヘカラス然ルニ論者ハ單ニ文書偽造罪ニ付テノミ之ヲ言フ其論理ヲ貫徹セサルコト言フ俟タス然レトモ若シ其理論ヲ貫キテ凡テ信用ヲ害スル罪ニハ其行為カ害ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スルコト又ハ其行使カ害ヲ生シ得ヘキコト又ハ害ヲ加フル目的アルコト等ヲ必要トスト解センカ專斷ノ譏ヲ免ル、能ハス余輩ハ是等ノ要件ヲ要セストスル見解ヲ採ラントス然レトモ上述ノ如ク嚴格ナル意味ニ於ケル文書ハ或程度マテハ其行使ニ依リテ害ヲ生シ得ヘキモノナルコトニ注意スヘシ

官文書ノ何タルヤハ上述シタルヲ以テ左ニ偽造又ハ増減變換行使ノ何タルヤヲ說明セントス而シテ其說明ハ私文書ノ偽造又ハ増減變換行使ニ付キテモ亦同一

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 官ノ文書ヲ偽造スル罪及其刑

ナリト知ルヘシ

第一 偽造又ハ増減變換

一 偽造 偽造トハ文書ニ關シテモ貨幣ノ偽造ノ如ク行使ノ目的ヲ以テ真正ノ文書ヲ基礎トナサスシテ真正ノ文書ヲ模造スルコトヲ謂ヒ其模倣ハ一般世人ヲシテ真正ノ文書ナリト錯誤セシムル程度ニ在ルコトヲ要ス即チ余ハ文書ヲ作成シタリト雖モ其文書カ眞ニ特定ノ官府ノ文書ヲ模倣シタルモノニシテ其模倣ノ程度ハ一般世人カ其特定ノ官府カ作成又ハ證明シタル文書ナリト錯誤スヘキモノニアラサレハ文書ノ偽造ニアラストナスナリ貨幣又ハ官印ニ付テハ概ネ貨幣法又ハ各官制其他ニ於テ其形式ヲ定ムルヲ以テ其偽造カ模造ナルヘキコトヲ明示スル必要アリト雖モ官文書ノ如キハ概ネ法律上其形式ヲ定ムルコトナキヲ以テ從テ學者官文書ノ偽造カ官文書ノ模造タルコトヲ論定スルニ至ラス官文書ニ付キ法定ノ形式ナキ以上ハ其偽造ヲ模造ナリト云フモ模造ナリト云ハサルモ實際上弊害ヲ生スルコトナカルヘシト雖モ余ハ其偽造ノ本質ハ依然一定ノ程度ニ於テ類似スル模造ナリト信

一七五

ス即チ特定ノ官府カ作製シタル文書ナリト一般世人ヲ錯誤セシムル程度マテ類似セル文書ニシテ該官府カ作製スヘキモノヲ作製スルヲ謂フ

二 増減變換

刑法ハ貨幣、印紙、郵便切手、度量衡ニ付テハ變造ト云フニ拘ラス特ニ文書、免狀、鑑札ニ付テノミ増減變換ト云フ文書、免狀、鑑札ニ付キ變造ト云ハサルハ其何ノ謂ナルヤ解シ難シト雖モ文書、免狀、鑑札ノ如キハ概ネ法定ノ形式ヲ有セス隨時官吏カ任意ノ形式ニ依リ作製スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ貨幣其他ノ如ク法定ノ形式ニ依リテ一ノ形式ナル真正ノ貨幣其他ヲ他ノ形式ナル貨幣其他ニ模造スルト稍外觀ヲ異ニスルニ因ルナルヘシ要スルニ通説ハ増減變換ト變造トハ全然同一意義ヲ有スト解スル如シ余モ亦通説ヲ正トス故ニ増減變換トハ變造ト同シタ行使ノ目的ヲ以テ真正ノ文書ヲ基礎トシテ他ノ真正ノ文書ヲ模造シ其模倣ハ一般世人ヲシテ錯誤セシムル程度ニ在ルコトヲ要シ基礎トナシタル文書カ真正ノ文書ナリヤ否ヤハ其文書ヲ尙ホ真正ノ文書ト認メ得ルヤ否ヤニ依リテ決スヘキモノトス而シテ文書ノ變造カ外觀上多少貨幣其他ノ變造ト差異アル如キ外觀ヲ呈スルハ偽造

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 官ノ文書ヲ偽造スル罪及其刑

ニ付キ上述シタル如ク文書ニハ法定ノ形式ナキコトヲ常トスルニ依ル
 然ラハ偽造又ハ變造ハ唯真正ノ文書ヲ基礎トスルヤ否ヤニ依リテノミ區別ス
 ヘク行使ノ目的ヲ以テ真正ノ文書ヲ模造シ其模倣ハ一般世人ヲシテ真正ノ文
 書ナリト錯誤セシムル程度ニ在ルコトヲ要スル點ニ於テ共通ナリトス故ニ眞
 正ノ文書ノ模造トハ常ニ當該文書ノ作製者ノ氏名ヲ偽稱セサルヘカラス而シ
 テ當該文書ノ作製者ノ偽稱ハ左ニ記載スル事項ノ全部又ハ一部ヲ偽稱スルニ
 依リテ成ルモノトス

(イ) 作製者ノ署名

(ロ) 内容

(ハ) 作製ノ日時

(ニ) 作製ノ場所

或學者ハ作製者ノ氏名ヲ偽稱セサル文書即チ自己ノ正當ニ作製シタル文書ニ
 付テモ日時場所又ハ内容ノ偽稱アルトキハ偽造又ハ變造ナリト論スル如シ然
 レトモ主トシテ其文書カ變造者ノ所有物ナル點ヨリ之ニ反對セサルヲ得ス余

ハ後述ノ如ク明文以外ニ無形ノ偽造ヲ認メサル見解ヲ正トスルヲ以テ自己名
 義ノ正當ノ文書ナラハ之ヲ變更シタリトスルモ少ナクトモ文書偽造罪ヲ構成
 セスト云ハサルヘカラスト信ス大審院モ代理權ヲ有セサル者カ代理人トシテ
 文書ヲ作成スルハ文書偽造罪ヲ構成スト評決セル如シト雖モ同一ノ理由ニ依
 リテ其不當ナルコトヲ知り得ヘシ
 文書ノ廣義ノ偽造又ハ變造ハ其作製權ヲ有スル者ニ關スル場合ト否ラサル者
 ニ關スル場合トニ依リ其外觀ヲ異ニス刑法ハ唯作製權ヲ有セサル者ニ關スル
 場合ノミヲ所謂偽造又ハ變造トシ作製權ヲ有スル者ノ偽造又ハ變造ハ唯文書
 特ニ官文書及疾病證書ニ付テノミ之ヲ認ム學者ハ偽造又ハ變造ニ付キ其行爲
 者カ作製權ヲ有スル者ナルトキハ之ヲ無形ノ偽造又ハ變造ト云ヒ其他ノ者ナ
 ルトキハ之ヲ有形ノ偽造又ハ變造ト云ヘリ有形又ハ無形ト云フ語句ニ依リテ
 果シテ正當ニ是等ノ意義ヲ表示スルコトヲ得ルヤ否ヤハ別問題ナリト雖モ有
 形ノ偽造又ハ變造ニ付テハ其偽造又ハ變造ノ手段モ真正ノ文書ノ模造ナレト
 モ無形ノ偽造又ハ變造ニ在リテハ上ニ述ヘタル具體的ノ管轄權ナキ行爲ナル

ヲ以テ主トシテ其文書ノ實質カ眞實ナリヤ否ヤト云フ點ヨリ區別セサルヘカ
 ラス換言スレハ無形ノ偽造又ハ變造ニ在リテハ文書ノ内容カ眞實ニ反スルコ
 トニ著眼スヘク有形ノ偽造又ハ變造ニ在リテハ文書ノ内容カ眞實ニ反スルト
 否トニ關セス其行爲者ニ作製又ハ變更ノ權限ナキコトニ著眼スヘキナリ
 公務ニ從事スル者ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ官文書公文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲サ
 シメタル行爲ハ之ヲ偽造又ハ變造ト云フコトヲ得ルモ獨逸刑法第二百七十一
 條ニ依レハ權利又ハ權利關係ニ付キ重要ナル陳述商議又ハ事實ニシテ全然存
 立セサルモノ又ハ他ノ體様ニ依リ存立セルモノ又ハ資格ナキ者ノ爲シタルモ
 ノ又ハ他人ノ爲シタルモノナルニ拘ラス犯意ヲ以テ之ヲ眞實ナリトシ公ノ證
 書帳簿又ハ登記簿ニ記入セシメタル者ハ云々ト規定セリ故ニ獨逸學者ハ概不
 之ヲ以テ無形ノ偽造又ハ變造ノ一種類ト爲ス如シ然レトモ獨逸學者カ此解釋
 ヲ爲スハ其刑法ニ明文アルニ依ルモノニシテ當然偽造又ハ變造ノ行爲中ニ含
 マルハ一體様トナシタルニアラス我刑法ノ佛文草案ハ明文ヲ設ケ此種類ノ行
 爲ヲ偽造又ハ變造ト同視スヘキ旨ヲ定メタルニ拘ラス刑法ニハ何等之ニ關ス

ル規定ヲ置カサルナリ余輩ハ刑法カ此種類ノ規定ヲ設ケサリシハ之ヲ偽造又
 ハ變造ト認メサル趣意ナリト解釋ス或ハ曰ク此種類ノ行爲者ハ之ヲ所謂間接
 ノ行爲者トシテ官公文書ノ偽造又ハ變造ノ責任ヲ負擔セシムルコトヲ得ルニ
 アラスヤト是レ自ラ別個ノ觀察ニ屬スト雖モ主體カ特別ノ身分ヲ有スルコト
 ヲ必要トスル罪ハ其身分ヲ有セサル者ニ於テ間接ニ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ否
 ヤハ刑法學者間ニ疑アル問題ナルヲ以テ一ニ該問題ニ對スル斷案ノ如何ニ依
 リ之ヲ決スル外ナシ

第二 行使 偽造又ハ變造ノ文書ノ行使トハ上述ノ如ク貨幣ニ付キテノ行使ト
 ハ稍其意義ヲ異ニスト雖モ印影ニ付キテノ使用ト同シク偽造又ハ變造ノ文書
 タルニ拘ラス之ヲ眞正ノ文書トシテ使用スルコトヲ謂フ然レトモ如何ナル行
 爲アリタルトキヲ以テ文書ノ使用アリタリトナスヘキカ

一 他人カ視官ニ依リ了知スルヲ要ストナス見解ハ到底採用スヘカラス此見
 解ニ依レハ盲目者ニハ文書ノ行使ヲ爲スコトヲ得サルヘク又接手シタル文
 書ヲ視官ニ依リ了知スルト否トハ被行使者ノ自由ナルヲ以テ畢竟行使ノ時

期ハ被行使者ノ行爲ニ依リ定ルヘキ不確定ノモノトナルヘケレハナリ
 二 他人ニ交付スル手段ニ著手シタル行爲又ハ他人ニ文書ノ存在ヲ了知セシムヘキ行爲ヲ爲スコトヲ以テ足ルトナス見解モ亦妥當ニアラス例ハ文書ヲ郵便ニ付シ使者ニ託シ文書ノ取寄ヲ請求シ文書ノ謄本ヲ呈示若ハ朗讀シタル行爲モ未タ文書ヲ行使スル行爲ナリトハ云フヘカラス
 要スルニ文書ノ行使トハ其文書ヲ他人ニ接手セシムル行爲即チ文書ヲ了知スル機會ヲ付與スル行爲又ハ文書ノ了知ヲ容易ニスル行爲ナリト云ハサルヘカラス外國法ノ沿革ヲ見レハ羅馬法ニ於テハ文書ノ作製又ハ變更ヲ以テ文書偽造罪ノ成立スル時期ナリトスル見解ヲ採リ其後ニ至リ害ヲ生シタル時期ヲ以テ文書偽造罪ノ成立スル時期ナリトスル見解ヲ生シ漸ク近時ニ至リ前述ノ二見解ヲ調和シテ折衷ノ見解ヲ生シタルカ如シ折衷説ト云フハ即チ文書偽造罪ノ成立時期ヲ其行使ニ在リトスルモノニ外ナラス
 官文書ニハ多クノ場合ニ於テ官ノ印章ヲ押捺セラル、モノトス故ニ官文書ノ偽造又ハ變造ハ概ネ偽造シタル官ノ印章ノ押捺又ハ少クトモ真正ノ官ノ印章ノ押捺ヲ隨伴スルモノトス純然タル理論ヨリ云ヘハ文書ノ偽造變造又ハ偽造變造ノ文書ノ行使ト印章ノ偽造又ハ真正ノ印章ノ使用トハ別個ノ行爲ナルヲ以テ此種類ノ行爲ヲ二罪トナシ刑法第百條ヲ適用セサルヘカラサルニ拘ラス刑法ハ此種ノ二罪ハ頻繁ニ俱發スルヲ以テ第二百六條ニ依リ比較的重キ刑ニ當ル一罪ナリト規定シタリ

詔書ノ偽造及變造罪及其刑

第二項 詔書ノ偽造又ハ變造罪及其刑

官文書中ニ於テ偽造又ハ變造ノ行爲ノミヲ罪トスルハ唯詔書ニシテ詔書ノ偽造又ハ變造ハ行使ヲ待タスシテ罪トナルナリ本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ詔書ヲ偽造スル行爲又ハ變造スル行爲ニシテ本罪ノ刑ハ無期徒刑ナリ

第三項 官文書ノ偽造又ハ變造行使罪及其刑

刑法ハ詔書ヲ除ク外凡テ文書ニ付キテハ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ云々ト規定ス即チ偽造若ハ増減變換且行使ノ意ナリ之ヲ偽造若ハ増減變換又ハ行使ト解釋スルニ餘地ナキナリ近者大審院ハ偽造ノ文書タルコトヲ知リテ之

官文書ノ偽造及變造罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 官ノ文書ヲ偽造スル罪及其刑

ヲ行使スルハ文書偽造行使罪ナリト判示シタル如シ立法論又ハ刑事政策論トシテハ兎ニ角解釋論トシテハ一顧ノ價值タニナシト信ス
本項ノ罪ハ行爲者カ官吏又ハ公吏ニシテ文書カ其管掌ニ係ルト否ト即チ所謂偽造若ハ變造ノ無形ナルト有形ナルトニ區別スルコトヲ得

第一 有形ノ偽造若ハ變造ノ場合
一 行使ノ目的ヲ以テ狹義ノ官文書又ハ公文書ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ行使スル罪 本罪ニ對スル刑ハ輕懲役ナリ

二 行使ノ目的ヲ以テ無記名ノ公債證書ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ行使スル罪 本罪ニ對スル刑ハ重懲役ナリ

三 行使ノ目的ヲ以テ無記名公債證書以外ノ官吏又ハ公吏ノ公證文書ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ行使スル罪 本罪ニ對スル刑ハ輕懲役ナリ

第二 無形ノ偽造若ハ變造ノ場合即チ主體カ官吏又ハ公吏ニシテ其文書カ其管掌スル文書ナル場合 官吏又ハ公吏ノ管掌スル文書ト云フハ官吏又ハ公吏タル身分ヲ有スル者カ其職務上作製又ハ保管スル文書ヲ謂フ論者或ハ職務上作

製又ハ保管スル文書ナレハ其作製者又ハ保管者ニ官吏又ハ公吏タル身分アルコトヲ要セスト言ヒ或ハ作製者又ハ保管者ニ官吏又ハ公吏タル身分アルコトヲ必要トスレトモ職務ニ依リテ之ヲ作製又ハ保管スルコトヲ要セス事實上作製又ハ保管スルヲ以テ足ルト言フ者アリト雖モ通說ニアラス此種ノ場合ニ於テハ更ニ其文書カ狹義ノ官文書ナリヤ公文書ナリヤ無記名ノ公債證書ナリヤ又ハ其他ノ官吏又ハ公吏ノ公證文書ナルヤヲ區別シテ各通常ノ場合ニ於テ科スヘキ刑ニ一等ヲ加重シタル刑ヲ科スヘキモノトス

第三款 官文書毀棄罪及其刑

毀棄トハ文書ノ一部又ハ全部ヲ損壞スル行爲ヲ謂フ即チ其形體ヲ變更スルコトニ關スルナリ或ハ毀棄ハ意思表示ノ效力ノ全部又ハ一部ヲ害スル行爲ヲ謂フトナスモノアリ立法上妥當ナル見解ナリト雖モ余ハ之ヲ採ラス故ニ所謂汚損又ハ剝キ取ル行爲ノ如キハ余輩ノ信スル所ニ依レハ毀棄ニアラス
一 詔書ヲ毀棄スル罪ニハ無期徒刑ヲ科シ
二 其他ノ官文書又ハ公文書ヲ毀棄シタルトキハ原則トシテハ輕懲役ヲ科シ官

官文書毀棄罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 官ノ文書ヲ偽造スル罪及其刑

シ得ヘキ文書ハ概ネ委任裏書又ハ質入裏書ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ注
 意スヘシ讓渡裏書トハ所謂完全裏書ニシテ完全ナル手形ニ付キ爲シタル附
 屬ノ手形行爲ニシテ手形上ノ新債權者及新債務者ヲ現出セシムルモノヲ謂
 フ然ラハ此種ノ手形行爲ニ依リテ讓渡スコトヲ得ルモノハ果シテ如何刑法
 ハ明治十五年ノ發布ニ係ルヲ以テ其所謂裏書ニ依リテ讓渡シ得ヘキ文書ト
 ハ主トシテ文書ノ事實上ノ效用ニ依リ判斷セサルヘカラサリシト雖モ現時
 商法ノ制定アリタル以上ハ概ネ商法ノ規定ニ依リテ論決ヲ下スコトヲ得ヘ
 シ商法第二百八十二條ニハ第四百五十七條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ
 目的トスル指圖債權ニ之ヲ準用ス下規定シ而シテ第四百五十七條ニハ裏書
 ハ云々スルニ依リテ之ヲ爲スト定ム同第三百三十四條ニハ貨物引換證ヲ作
 リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ荷送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換
 證ノ定ムル所ニ依ルト規定シ同第三百三十五條ニハ裏書ニ依リテ貨物引換
 證ヲ讓渡シタルトキハ運送品ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有スト規定シ同第三百
 六十四條ニハ預證券及質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之

ヲ讓渡スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニア
 ラスト規定シ同第四百五十五條ニハ爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏
 書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタル
 トキハ此限ニアラスト規定シ同第五百二十九條及第五百三十七條ニ於テハ
 上述ノ第四百五十五條ノ規定ヲ約束手形又ハ小切手ニ準用シ同第六百二十
 九條ニ於テモ亦上述ノ第四百五十五條ヲ船荷證券ニ準用シタリ然ラハ現時
 ニ於テ所謂法律上裏書ニ依リ讓渡シ得ヘキ文書トハ

- 1 指圖文句ヲ有スル文書
- 2 指圖文句ヲ有スルト否トニ關セスシテ貨物引換證、倉荷證券(即チ預證券
 及質入證券)爲替手形、約束手形、小切手及船荷證券
 ヲ謂フニ外ナラス刑法ハ裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書又ハ金錢ヲ以テ交換ス
 ヘキ約束手形ト規定スト雖モ理論上ヨリ言ヘハ約束手形ハ總テ裏書ヲ以テ
 賣買スルコトヲ得ル證券ナリト云フコトヲ得ヘク賣買トハ近時ノ用例ニ於
 ケル讓渡ト同一ナルヘク賣買スヘキ證書ト云フモ證書中必ス裏書ヲ以テ讓

渡セサルヘカラサルモノナキヲ以テ讓渡シ得ヘキ文書ト云フコト其語句上
 妥當ナルヘク又裏書ヲ以テ讓渡ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ廣ク法律上ノ一
 般ノ性質ニ付キテ謂フモノニシテ振出人又ハ作製者カ裏書ヲ禁スル旨ヲ定
 メタル爲替手形、約束手形、小切手及船荷證券ヲ除外スル意ニアラサルヘク而
 シテ總テ財産上ノ權利義務ニ關スル文書ハ事實上概ネ裏書ヲ以テ讓渡スル
 コトヲ得ルモ刑法第二百九條ノ規定ハ第二十條ノ規定ヨリ見ルモ法律上
 讓渡シ得ルモノニ限定スル趣旨ナルコトハ明瞭ニシテ夫ノ事實上裏書ヲ以
 テ讓渡スル文書ニシテ指圖文句ヲ有セサルモノ即チ指圖證券タラサルモノ
 例ハ近時坊間ニ於テ散見スル商品切手ノ如キハ刑法ノ所謂裏書ヲ以テ讓渡
 シ得ヘキ文書ニアラサルヘシ是レ余輩カ法律上裏書ニ依リ讓渡シ得ヘキ文
 書ト云フ所以ナリ

二 裏書 裏書ハ商法第四百五十七條ニ依レハ文書自體又ハ其謄本若ハ補箋
 ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス補箋ニ裏書ヲ爲シタルトキハ果シテ之ヲ文
 書ト論定スルコトヲ得ルヤ否ヤハ學說ノ岐ル、所ナルモ刑法ニ於テハ少ナ

クトモ之ヲ文書ニ準スヘキナリ而シテ裏書ハ讓渡裏書、委任裏書、質入裏書ヲ
 包含スルモノト解スヘシ刑法ハ既ニ裏書ヲ文書ニ準ス然ラハ何故ニ保證參
 加引受モ亦之ヲ文書ニ準セサルカ到底論理不貫徹ノ譏ヲ免ルヘカラス
 三 其他ノ權利義務ニ關スル文書 所謂權利義務トハ廣ク財産上ノ權利義務
 及身分上ノ權利義務ヲ謂フモノト解ス刑法ハ賣買、交換、贈與、貸借ノミヲ例示
 スルモ之ヲ以テ直ニ所謂權利義務トハ財産上ノ權利義務ナリト速斷スヘカ
 ラス

第二 權利義務ニ關セサル私文書 權利義務ニ關セサル私文書トハ例ハ印鑑證
 明、在籍證明等ノ證明願、印鑑届、登記願、普通ノ書簡等ヲ謂フ
 而シテ權利義務ニ關セサル私文書ノ偽造又ハ變造行使罪ニ付キテハ主刑トシテ
 一月乃至一年ノ重禁錮附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金ヲ科シ法律上裏書ニ
 依リ讓渡シ得ヘキ文書又ハ裏書ノ偽造又ハ變造行使罪ニハ輕懲役ヲ科シ其他ノ
 權利義務ニ關スル文書ノ偽造又ハ變造行使罪ニハ主刑トシテ四月乃至四年ノ重
 禁錮附加刑トシテ四圓乃至四十圓ノ罰金ヲ科ス

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
 信用ヲ害スル罪及其刑 私印私書ヲ偽造スル罪及其刑

第六節 免狀、鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪及

其刑

第一款 總說

本節ノ罪ハ免狀、鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪ト題スルニ拘ラス尙ホ詐僞ノ行爲ニ依リ免狀、鑑札ノ下附ヲ受クル行爲及官吏カ詐僞ノ所爲ナルコトヲ知ルニ拘ラス免狀、鑑札ヲ下附シタル行爲ヲ規定シタリ而シテ免狀、鑑札ハ概テ官文書若ハ公文書ニシテ疾病證書ハ私書ナルヲ以テ是等ノ物ヲ偽造スル罪ニ付テハ文書偽造ニ付キテ論シタルモノヲ參酌スヘシ

免狀、鑑札トハ所謂官文書若クハ公文書中ノ公證文書ニ屬スヘキモノニシテ免狀トハ概テ一定ノ資格ヲ公證スル文書例ハ卒業證書、合格證書ヲ謂ヒ鑑札トハ一定ノ行爲ノ認許ヲ公證シタル文書例ハ營業鑑札ヲ謂フ如シ疾病證書トハ現今ノ所謂診斷書又ハ檢案書ニシテ身體又ハ健康ノ狀況ヲ鑑定シタル文書ナリ

第二款 免狀、鑑札又ハ疾病證書ノ偽造行使罪

及其刑

免狀、鑑札及疾病證書ノ偽造行使罪及其刑

第一 免狀又ハ鑑札ノ偽造又ハ變造行使罪(二一七) 本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ免

狀若ハ鑑札ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル行爲ニシテ其刑ハ刑トシテ一月乃至一年ノ重禁錮附加刑トシテ四圓乃至四十圓ノ罰金トス本罪ノ目的物ハ前述セル如ク官文書又ハ公文書中ニ屬スルモノナルヲ以テ其偽造行使罪ハ彼ノ官印ヲ偽造又ハ盜用スルノ行爲ト俱發スルコトヲ通常トス此場合ニ於テモ刑法第百條ヲ適用シテ比較的ニ重キ刑ヲ科スヘキモノナレトモ刑法ハ第二百三條但書ニ於テ此場合ニハ常ニ官印偽造ノ各本條ニ照シテ處斷スヘキ旨ヲ定ムルヲ以テ第百條ヲ適用スルノ煩ヲ省クコトヲ得刑法ハ此種ノ場合ニ於テハ概テ二者ヲ比照シテ重ニ從テ處斷スト規定スルニ拘ラス本條ノ但書ニ於テハ常ニ官印偽造ヲ以テ論スヘキモノト規定セルハ免狀又ハ鑑札ノ偽造又ハ變造行使罪ノ刑ハ常ニ官印偽造ニ關スル罪ノ刑ヨリ輕キヲ以テナリ

第二 疾病證書ノ偽造又ハ變造行使罪(二一五、二一七) 疾病證書トハ前述セル如ク所謂診斷書又ハ檢案書ナリ故ニ醫師ノ氏名ヲ以テ作製シタルモノナルヘキコトハ勿論ナリ本罪ノ主體ハ公務ニ服スル義務ヲ有スル者特ニ兵役ニ服スル義

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 免狀、鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪及其刑

務ヲ有スル者ナルヘクシテ本罪ハ二ノ體様ヲ有ス本罪ノ刑ハ主刑トシテ一月乃至一年ノ重禁錮附加刑トシテ三圓乃至三十圓ノ罰金トシ若シ兵役ヲ免ル、目的ニ出テタルトキハ上述ノ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

一 自己ニ關スル疾病證書ノ偽造又ハ變造行使罪 本罪ハ公務ヲ免ル、爲メ行使ノ目的ヲ以テ自己ニ關スル疾病證書ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ行使スル行爲ニ關ス公務ヲ免ル、爲メトハ兵役ヲ免ル、目的、證人又ハ參考人トシテ裁判所ニ出頭シ又ハ證人若ハ參考人トシテ事實ノ陳述ヲ爲サ、ル目的等總テ法律上公務ニ從事スヘキ義務アル場合ニ於テ其義務ニ服セサルヘキ目的ヲ謂フ

二 他人ニ關スル疾病證書ノ偽造又ハ變造行使罪 本罪ハ公務ヲ免レシムル爲メ行使ノ目的ヲ以テ他人ニ關スル疾病證書ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ行使スル行爲ニ關ス

第三 疾病證書ノ偽造罪(二一五) 疾病證書ノ偽造罪ハ所謂疾病證書ノ無形ノ偽造ノ場合ノミニ關ス即チ醫師カ虛偽ノ疾病證書ヲ作製スル行爲ナリ故ニ本罪

ノ主體タルニハ必ス醫師タル身分ヲ有スルコトヲ必要トス而シテ本罪ハ無形ノ偽造ノ場合ナルヲ以テ固ヨリ變造ヲ包含セサルコトハ勿論ナリトス本罪ハ公務ヲ免レントスル者特ニ兵役ヲ免レントスル者ノ囑託ヲ受ケタル場合ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ疾病證書ヲ偽造シタル行爲ニ關シ其刑ハ兵役ヲ免ルヘキ證書ニ關スル場合ト其他ノ公務ニ關スル場合トヲ區別シ各其偽造行使者ニ科シタル刑ニ一等ヲ加重シタルモノトス

第二款 免狀又ハ鑑札ノ下附ニ關スル罪及其刑

本罪ニハ二個ノ體様アリ

第一 詐僞ノ行爲ニ因リ免狀又ハ鑑札ノ下附ヲ受ケタル罪 詐僞ノ行爲トハ例ハ屬籍身分氏名ノ詐稱其他ヲ謂フモノニシテ詐僞ノ行爲ニ依ルト云フハ詐僞ノ行爲カ下附ヲ受クル重要ナル原因ナリシコト即チ詐僞ノ行爲ヲ下附ヲ受クル手段ニ施行シタルコトヲ謂フ本罪ノ刑ハ主刑トシテ十五日乃至六月ノ重禁錮附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金トス

第二 詐僞ノ行爲ニ依リ下附ヲ受ケントスル者ニ免狀又ハ鑑札ヲ下附シタル罪

免狀又ハ鑑札ノ下
附ニ關スル
罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 免狀、鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪及其刑

本罪ノ主體ハ當然官吏ナリトス特ニ申請ニ應シテ免狀又ハ鑑札ヲ下附スル職權ヲ有スル官吏ナリ本罪ノ刑ハ下附ヲ受ケタル者ノ刑ニ一等ヲ加重シタルモノトス

偽證ノ罪及其刑

總說

第七節 偽證ノ罪及其刑

第一款 總說

本節ノ罪ハ其主體ニ證人タル身分、鑑定人タル身分又ハ通事タル身分ヲ必要トスルモノニシテ證人ニ付キテハ偽造罪、鑑定人又ハ通事ニ付キテハ虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ス罪ヲ規定セルヲ以テ嚴格ニ論スレハ本節ノ題目ハ不當ナリト云ハサルヘカラス

本節ニ於テハ上述セル如ク別種ノ二罪即チ偽證罪及虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲ス罪ヲ規定セルモ刑法第二百二十五條及第二百二十六條ニ依レハ此別種ノ二罪ニ共通スル規定アルヲ以テ今左ニ其共通ノ規定ニ付キ説明セントス

第一 偽證又ハ虛偽ノ鑑定若ハ通事ノ教唆 刑法第百五條ニ依レハ人ヲ教唆シテ重罪、輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲スト規定セリ故ニ證人、鑑定人又ハ

通事タルヘキ者ヲ教唆シテ重罪又ハ輕罪タルヘキ偽證若ハ虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲サシメタル者ハ之ヲ偽證罪若ハ虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲シタル罪ノ正犯ヲ以テ論スヘキコトハ疑ナキ如シ而シテ刑法第二百二十五條ニ依レハ「賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者モ亦偽證ノ例ニ同シ」ト規定ス故ニ學者ノ第二百二十五條ニ對スル見解ハ自ラ二様ニ分岐セリ

第一見解 本條ハ偽證若ハ虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲スノ罪ニ付キテ特別ナル教唆ヲ規定シタルモノナリ教唆ノ一般規定ニ依ルトキハ單ニ人ヲ教唆シ云々ト規定シアルニ拘ラス本條ノ教唆ハ其方法ヲ賄賂其他ノ方法ニ限定セリ即チ教唆ノ方法ノ何タルヤハ區別セサルモ必スヤ何等カノ方法ヲ用ヒサルヘカラサルナリ若シ教唆ノ一般規定ト本條ノ規定トニ前述セル如キ差異アリトセハ刑法ノ眞意ハ本節ノ罪ニ付テハ教唆ノ一般規定ヲ適用スルコトヲ妥當ナラスト思料シ特別ニ本條ニ於テ教唆ノ特別規定ヲ設ケタルナリ大審院ノ判例ハ此見解ヲ採リシ如ク或ハ刑法第二百二十五條ニ所謂其他ノ方法

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 偽證ノ罪及其刑

ト云ヘルハ脅迫、詐欺、威權、約束等不正ニ渉ル手段ヲ指シタルモノナリト云ヒ
或ハ不法ノ方法ヲ用ヒス單ニ過去ニ屬スル恩惠上ノ關係ヲ説キ偽證ヲ囑託
シタル行爲ハ法律上罪ト爲ラスト云ヒ或ハ賄賂其他ノ方法ニ依ラス單ニ人
ニ囑託シテ偽證ヲ爲サシムルモ同條ノ犯罪ヲ構成セスト云ヘリ

第二見解 本條ハ單ニ教唆ノ一般規定ノ適用アルコトヲ明ニシタル規定ニ過
キス佛文案案註釋ニ依レハ本條ハ教唆ノ一般規定ノ適用ニ過キササルヲ以テ
裁判所ノ適用スルニ一任シテ不可ナキモ偽證罪ニ對スル刑ト共ニ偽證セシ
メタル罪ノ刑ヲ規定スルコトハ從來ノ習慣ナル旨ヲ明記セリ刑法ハ佛文案
案ノ規定ヲ襲用シタルニ過キササルノミナラス教唆ノ一般規定ニハ單ニ人ヲ
教唆シト云フモ何等カノ方法ニ依ラサル教唆ハ想像スルコト能ハサルナリ
要スルニ本條ノ規定ト教唆ノ一般規定トハ其實質ニ於テハ何等ノ差異ナキ
モノナリ

余輩ハ大體ニ於テ第二ノ見解ヲ正トシ特ニ本罪ハ身分ニ因リ構成スル罪ナル
ヲ以テ身分ナキ者カ身分ニ因リ構成スル罪ヲ共犯シ得ヘキヤ否ヤノ根本問題
ニ對スル見解ノ如何ニ依リ本罪ノ教唆ヲ正犯トシテ所罰シ得ルヤ否ヤニ多大
ノ疑義アルヲ以テ本條ノ如キ明文アルコトヲ妥當ナリト信ス尙ホ偽證又ハ詐
偽ノ鑑定、通事ハ第二百十八條第三號及第二百二十四條ノ場合ノ如ク違警罪タ
ル場合アリ違警罪ノ教唆ハ一般規定ニ依リテ之ヲ處罰スルコトヲ得サルモ本
條ノ規定ニ依レハ之ヲ處罰セサルヘカラス

第二 偽證又ハ虛偽ノ鑑定若ハ通事ノ自首 本節ノ罪ニ對シテモ自首ノ一般規
定ノ適用アルコトハ勿論ナルモ刑法ハ更ニ刑ノ免除ノ效力ヲ有スル自首ヲ規
定ス
刑ノ免除ノ效力ヲ有スル本罪ノ自首ノ要件ハ一般自首ノ要件以外ニ尙ホ其自
首ノ時期カ事件ノ裁判ノ宣告前ナルコトヲ要ストセリ事件ノ裁判宣告トハ或
ハ各審級ニ於ケル裁判ノ宣告ナルカ或ハ確定裁判ノ宣告ナルカニ付キ學者間
ニ異說ノ存スル所ナリ通說ニ依レハ之ヲ確定裁判ノ宣告ト解スルモ余輩ハ之
ヲ採ラス蓋裁判宣告トハ少ナクトモ宣告ノ時期ヲ謂フモノナルコトハ明瞭ニ
シテ事件ノ裁判宣告トハ偽證又ハ虛偽ノ鑑定又ハ通事ヲ爲シタル各審級ニ於

ケル裁判宣告ノ時期ヲ謂フモノナリ今試ニ通説ニ從フトセハ

一 大審院ニ於ケル偽證又ハ裁判ノ鑑定若ハ通事ノ外ハ自首期間ノ終期ハ宣告ノ時期ニアラスシテ判決確定ノ時期即チ宣告ノ日時後一定ノ日時ナルヘクシテ成文上宣告ナル語ニ適セサル不當アリ

二 大事件ノ第一審廷ニ於テ爲シタル偽證又ハ虚偽ノ鑑定若ハ通事ノ如キ數年後其大事件ノ確定スル時期マテハ其判決ヲ下スヲ得サル不當アリ

要スルニ通説ハ自首免除制ノ立法論ニ適セル如キモ成文ヲ正確ニ解釋セントスル者ノ採用シ難キ見解ナリト云ハサルヘカラス

偽證罪及其刑
其刑
總說

第二款 偽證罪及其刑

第一項 總說

本罪ノ主體ハ必ス證人ナル身分ヲ有スル者ナラサルヘカラス證人ハ其實質ヨリ謂ヘハ宣誓ヲ經テ裁判所ニ對シ一定ノ事實ヲ陳述スル者ニシテ其形式ヨリ謂ヘハ訴訟ノ當事者ニアラスシテ完全且公平ニ事實ヲ陳述シ得ヘキ者ナリ

第一 實質 證人トハ裁判所ニ對シ宣誓ヲ經テ一定ノ事實ヲ陳述スル者ナリ

定ノ事實トハ罪タル事實又ハ罪ニ牽聯スル事實ノ義ニシテ宣誓トハ刑事訴訟法及民事訴訟法ニ依レハ良心ニ從ヒ眞實ヲ陳ヘ何事モ默祕セス又ハ附加セサル旨ノ誓言ナリ陸海軍治罪法ニ依レハ誠實ニ事實ノ陳述ヲ爲スヘキ旨ノ誓言ナリ裁判所ニ對スル陳述トハ裁判所ノ訊問ニ應シ裁判所ニ對シテ爲ス應答ヲ謂フ必スシモ裁判所ト名クル建造物ノ中ニ於テスルヲ要セス而シテ裁判所トハ前述ノ如ク現今ノ國法上通常裁判所軍法會議懲戒委員會懲戒裁判所行政裁判所領事、樺戶監獄ノ司獄官吏ヲ謂フモノナリト雖モ懲戒委員會懲戒裁判所ノ裁判ハ民事刑事ニアラス又商事行政裁判ニアラサル結果偽證罪ニ所謂裁判所トハ云フコトヲ得サルヘク通常裁判所トハ大審院控訴院地方裁判所區裁判所ハ勿論豫審判事又ハ受命判事ヲモ包含ス豫審判事又ハ受命判事カ裁判所ナリヤ否ヤハ多少ノ異論ヲ爲ス餘地アリ蓋豫審判事ハ通常之ヲ裁判所トハ稱セサルモ其性質ヨリ謂ヘハ一種ノ裁判所ナルコトハ外國法ニ審理裁判所又ハ豫審裁判所ノ成語アルニ依リテモ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ佛文草案ノ註釋ニ依ルモ偽證罪ニ付テハ明文ヲ以テ豫審判事ヲ豫想セルヲ以テ少ナクトモ偽證罪ニ關

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 偽證ノ罪及其刑

シテハ豫審判事ハ之ヲ裁判所ト看做サ、ルヘカラス然ラハ受命判事ニ付キテ
 モ亦刑事訴訟法第二百四十一條末項等ニ依リ同一ノ斷案ヲ下サ、ルヲ得ス
 第二形式 證人トハ訴訟當事者ニアラスシテ完全且公平ニ事實ヲ陳述シ得ヘ
 キ者ナリ蓋訴訟當事者モ亦裁判所ニ對シテ一定ノ事實ヲ陳述スルコトヲ得ト
 雖モ當事者ハ如何ナル場合ト雖モ證人ニアラス而シテ訴訟當事者以外ノ者ニ
 對シテ事實ノ陳述ヲ爲サシムルニ付テモ或ハ智能ノ發達不十分ノ爲メ完全ニ
 事實ノ陳述ヲ爲スコトヲ得サル者又ハ其境遇上眞實ニ反スル陳述ヲ爲ス虞ア
 ル者ニ對シテハ訴訟法ハ之ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ許サス故ニ證人ハ完
 全且公平ニ事實ヲ陳述シ得ヘキ者ナラサルヘカラス然ラハ訴訟法上完全且公
 平ニ事實ノ陳述ヲ爲シ得サル者トハ如何ナル者ヲ謂フヤ刑事訴訟法ニ依レハ
 其第二百二十三條及第二百二十四條ニ記載シタル者又ハ第二百五條ニ記載シタ
 ル事由ヲ有スル者ハ刑事事件ニ付キ證人ト爲ルコトヲ得ス民事訴訟法ニ依レ
 ハ其第二百九十七條ニ記載シタル者又ハ第二百九十八條ノ事由ヲ有スル者ハ
 同法第二百九十九條ニ於テ多少ノ例外ヲ認メサルニアラサルモ概ネ民事事件

ニ付キ證人ト爲ルコトヲ得ス陸軍治罪法ニ依レハ其第六十條及第六十五條第
 二項ニ記載シタル者ハ陸軍軍法會議事件ニ付キ又海軍治罪法ニ依レハ其第六
 十五條及第七十條第二項ニ記載シタル者ハ海軍軍法會議事件ニ付キ證人ト爲
 ルコトヲ得ス行政裁判法第三十八條ニ依レハ民事訴訟法ニ於テ證人タルコト
 ヲ得サル者ハ行政裁判事件ニ付テモ亦證人トナルコトヲ得ス
 偽證罪トハ眞正ノ事實ヲ陳述セサル行爲ニシテ眞正ノ事實ヲ陳述セサルニ付キ
 テハ其手段ニ二様アリ一ハ眞正ノ事實ヲ陳述セサルコトニシテ二ハ虛偽ノ
 事實ヲ陳述スルコトナリト雖モ共ニ其偽證事項カ事件ニ影響ヲ及ホスモノナル
 ト否ラサルトヲ區別セサルナリ此點ニ對スル反對論ハ多少ノ理由ナキニアラス
 ト雖モ立法論ハ直ニ解釋論トナスヘカラサルコトヲ悲ム
 第一 眞正ノ事實ヲ陳述セサル偽證 眞正ノ事實ヲ陳述セサル偽證トハ所謂事
 實ヲ默秘スルコトニシテ其知悉スル眞正ノ事實ヲ陳述セサル不作爲ニ關スト
 雖モ全部ノ陳述ヲ爲サ、ル者ハ之ヲ證言ヲ拒ム罪ト區別シ難カルヘシ理論上
 ヨリ謂ヘハ苟モ偽證ノ意思ヲ以テ默秘セルトキハ直ニ之ヲ偽證トナスコトヲ

得ルモ實際ニ於テハ偽證ノ意思ヲ認定スルコトノ困難ナル結果事實ヲ默秘シタル場合ト雖モ其默秘セル事實カ裁判所ヨリ質問ヲ受ケタル事實ナルカ又ハ其事件ノ重要ナル事實ニアラサレハ偽證ヲ以テ論スルコトヲ得サルヘシ

第二 虚偽ノ事實ヲ陳述スル偽證 此種ノ偽證ハ作爲ニシテ陳述ハ明示ナルコトアリ或ハ默示ナルコトアリ明示ノ陳述トハ進ミテ虚偽ノ事實ヲ陳述スルコトヲ謂ヒ默示ノ陳述トハ陳述セサルモ陳述シタルト同一ノ效果ヲ生スヘキ動作ヲ爲スヲ謂フナリ

偽證罪成立ノ時期ハ宣誓後陳述ヲ爲シタル場合ト陳述ノ後ニ宣誓ヲ爲シタル場合トニ區別シテ論セサルヘカラス我國法ニ於テハ一般ニ陳述ノ前ニ宣誓ヲ爲シタル法制ヲ採レリト雖モ民事訴訟法第三百六條第二項ニ依ルトキハ宣誓ハ特別ノ原因アルトキ特ニ之ヲ爲サシムヘキヤ否ヤニ付キ疑ノ存スルトキハ訊問ノ終ルマテ之ヲ延フルコトヲ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ民事訴訟法ヲ適用スル結果トシテ行政訴訟ニ付テモ亦陳述後ニ宣誓ヲ爲ス場合アリト云ハサルヘカラス

一 宣誓後陳述ヲ爲ス場合 此場合ニ於テハ其訊問ヲ全物トシテ觀察スヘキヲ

以テ偽證罪ハ其訊問ノ終了シタル時期即チ被訊問者カ署名捺印其他ノ方法ニ依リ陳述ノ誤ナキコトヲ確保シタル時期ニ於テ成立ス虚偽ノ事實ヲ陳述シ又ハ真正ノ事實ヲ陳述セサリシコトハ單ニ偽證ノ著手ニ過キササルヲ以テ訊問ノ終了前其取消ヲ爲シタルトキハ偽證罪ハ成立セサルモノトス

二 陳述後宣誓ヲ爲ス場合 此場合ニ於テハ偽證罪ハ宣誓ヲ爲ス時期ニ於テ成立ス故ニ宣誓前ニ當テ取消シタルトキハ當然偽證罪ノ成立ヲ妨クルモノトス偽證罪ノ成立ニハ偽證ヲ爲ス觀念アルヲ以テ足り一般論トシテハ所謂害意又ハ惡意アルコトヲ要セサルハ勿論ナリ然レトモ偽證ノ意思ハ理論上極テ明確ナルモ實際ニ於テハ極テ不明確ナルノミナラス偽證ノ動作ハ或ハ不作爲ナルコトアルヲ以テ一層其意思ノ認定ヲ困難ナラシム之ヲ要スルニ偽證罪ニ於ケル要點ハ法律論ニ在ラスシテ事實論ニ在リト云ハサルヘカラス

刑事裁判ニ關スル偽證及其刑

第一項 刑事裁判ニ關スル偽證及其刑

刑事裁判ニ關スル偽證トハ通常刑事裁判所軍法會議領事館及樺戶監獄ニ於テ生スルモノトス此種ノ偽證ハ一定ノ目的ニ出テタル場合ニアラサレハ之ヲ罪トセ

刑法各論 本論ニ重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 偽證ノ罪及其刑

サルナリ而シテ一定ノ目的トハ被告人ヲ曲庇スル目的及被告人ヲ陷害スル目的ヲ謂フ蓋刑事裁判ニ關スル偽證ハ概ネ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テサレハ則チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出ツヘク被告人ヲ陷害又ハ曲庇スル目的ニ出テスシテ偽證スル場合ハ事實上殆ト稀有ナルヘシト雖モ理論上ヨリスレハ被告人タラサル真正ノ犯人ヲ曲庇スル目的ニ出ツル場合自己ノ犯シタル罪ノ發覺ヲ妨クル目的ニ出ツル場合等ヲ豫想シ難キニアラス刑法カ民事商事其他ニ付テハ目的ヲ限定セシテ單ニ刑事裁判ノミニ付キ目的ヲ限定セルハ多少ノ非難ヲ免レサルヘシ

第一 被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證罪 此種ノ偽證罪ハ刑法第二百十八條ニ規定ス本條ノ罪ハ被告人ヲ曲庇スル目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル行爲ナリ刑法ハ「裁判所ニ呼出サレタル者」ト規定セルモ裁判所ヨリ呼出サレサルヘカラサルコトハ證人ノ當然ノ性質ニシテ裁判所ニ對スルニアラサレハ證人ナルモノヲ想像スルコトヲ得ス刑法ハ「事實ヲ掩蔽シ」ト規定セルモ事實ヲ掩蔽スルコトハ偽證自體ノ要素ナリ余輩ハ裁判所ニ呼出サレ及事實ヲ掩蔽シタル語辭

ハ共ニ全然不必要ナルモノナリト信ス

本罪ハ被告人ヲ曲庇スル目的ヲ以テ偽證シタル行爲ニ關ス曲庇トハ所謂「カバ」フ「ト云フ意味ニシテ被告人ニ利益ヲ與フルコトヲ謂ヒ所謂被告人トハ少ナクトモ本罪ニ付テハ公訴ノ提起後ノ被嫌疑者ヲ謂ヒ其嫌疑セラル、罪ヨリ觀察スレハ之ヲ重罪トシテ訴追セラル、被告人、輕罪トシテ訴追セラル、被告人又ハ違警罪トシテ訴追セラル、被告人ニ區別スルコトヲ得刑法ハ此種ノ偽證罪ニ付テハ重罪トシテ訴追セラレタル被告人ヲ曲庇スル目的ト輕罪トシテ訴追セラレタル被告人ヲ曲庇スル目的ト違警罪トシテ訴追セラレタル被告人ヲ曲庇スル目的トニ區別シテ其目的ノ異ルニ從ヒ之ヲ別種ノ罪ト規定セリ刑法ハ單ニ重罪、輕罪又ハ違警罪ヲ曲庇スル爲メト規定シ其言詞不十分ニシテ如何ナル意味ヲ有スルモノナルカヲ解釋スルニ苦ムト雖モ佛文草案ニ依レハ違警罪、輕罪又ハ重罪ノ訴追ニ關シト明ニ定メタルヲ以テ刑法ノ解釋トシテモ亦上ニ述ヘタル如ク解釋セサルヘカラズ

第二 被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル偽證罪 本罪ハ被告人ヲ陷害スル目的

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 偽證ノ罪及其刑

ヲ以テ偽證シタル行爲ニ關ス陷害トハ被告人ニ不利益ヲ與フル意義ニシテ刑法ハ陷害ノ目的ニ付キテモ重要トシテ訴追セラル、被告人ニ關スルモノト輕罪トシテ訴追セラル、被告人ニ關スルモノト又違警罪トシテ訴追セラル、被告人ニ關スルモノト區別シテ別種ノ罪ト規定セリ刑法ハ重罪ニ陥ラシムル爲メ輕罪ニ陥ラシムル爲メ又ハ違警罪ニ陥ラシムル爲メト規定スルヲ以テ若シ其語句ニ拘泥スレハ偽證者カ偽證ニ依リ陥レントスル罪カ重罪ナリヤ輕罪ナリヤ又ハ違警罪ナリヤ意味スル如キヲ以テ學者或ハ如上ノ解釋ヲ爲ス者ナキニアラスト雖モ(1)佛文草案ニ依レハ本條ニ該當スル條項ニ於テ明ニ重罪事件ニ付キ被告人ニ不利益ナル陳述ヲ爲シタル者云々ト記載シ刑法ハ此草案ノ意味ヲ繼受シタルモノト認メサルヘカラサルノミナラス(2)曲庇ノ目的ノ場合ト一致ヲ缺クヘカラス且(3)偽證者カ陥レントシタル罪ノ輕重ニ依リテ刑ヲ輕重スルコトハ理論上妥當ニアラスシテ實際上ノ適用モ亦極テ困難ナルヘシ刑法ノ語ニ拘泥セスシテ訴追セラル、罪質ニ依リテ重罪、輕罪又ハ違警罪ヲ區別スヘシトナス學說ハ從來學者ノ唱導スル所ニシテ殆ト現今ニ於ケル通説ナ

リト云フコトヲ得ヘシ余モ亦此見解ヲ正トスト雖モ本罪ノ刑ハ第三百五十五條ノ誣告罪ニモ亦其適用ヲ有スルモノニシテ誣告罪ニ關シテハ所謂重罪輕罪又ハ違警罪ハ件名ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得サル場合アリテ勢ヒ誣告者ノ目的ニ依リテ定メサルヘカラサルハ此見解ノ重大ナル弱點ナリトス或ハ反對ノ見解ヲ採用スルヲ以テ可ナリトスヘキカ而シテ刑法ハ重罪トシテ訴追セラ、事件ナルト輕罪トシテ訴追セラル、事件ナルト又ハ違警罪トシテ訴追セラル、事件ナルトヲ論セス苟モ被告人ヲシテ死刑ノ宣告ヲ受ケシムル目的ナル場合ニ於テハ其否ラサル目的ノ場合ニ比シ其刑ニ輕重ノ區別ヲ爲シタリ

第一 被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證罪ノ刑 被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證ニ對スル刑ハ其被告人カ重罪ノ犯人トシテ訴追セラレタル者ト輕罪ノ犯人トシテ訴追セラレタル者ト又ハ違警罪ノ犯人トシテ訴追セラレタル者トヲ區別シテ説明セサルヘカラス

一 重罪事件ノ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證 本罪ノ刑ハ主刑トシテ二月乃至二年ノ重禁錮、附加刑トシテ四圓乃至四十圓ノ罰金トス然レトモ

其偽證ニ因リ被告人カ正當ニ受クヘキ刑ヲ免ル、ニ至リタルトキハ上ニ述
ヘタル刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

二 輕罪事件ノ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證 本罪ノ刑ハ主刑トシ
テ一月乃至一年ノ重禁錮附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金トス然レトモ
其偽證ニ因リ被告人カ正當ニ受クヘキ刑ヲ免ル、ニ至リタルトキハ上述ノ
刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

刑法ハ違警罪事件ノ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル偽證ヲ本節ニ規定スト
雖モ本罪ハ違警罪ニシテ重罪又ハ輕罪ニアラサルヲ以テ茲ニ之ヲ規定スルハ
論理上穩當ノ處置ト云フコト能ハス而シテ刑法モ其刑ニ付テハ第三百二十五
條第十四號ニ規定セルヲ以テ茲ニハ之ヲ説明セス

第二 被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル偽證罪ノ刑 刑法ハ被告人ヲ陷害スル
目的ニ出テタル偽證罪ニ對シテ一定ノ刑ヲ規定スルト共ニ或場合ニ於テハ所
謂反坐ノ刑ヲ科スヘキ旨ヲ規定セリ所謂反坐トハ歐洲ノ古代ノ「タリオン」法即
チ反坐法ニ胚胎スルモノニシテ歐洲ニ於ケル刑法ノ沿革ニ遡ルトキハ刑法ノ

主義トシテ反坐法ト云フ法制ヲ認メタルコトヲ知ルコトヲ得始メ國家團體ノ
基礎ノ未タ薄弱ナル時代ニ於テハ團體ノ一人カ他人ノ爲メニ身體上ノ傷害ヲ
被ルトキハ即チ其下手人ヲ捕ヘテ之ニ對シ任意ノ傷害ヲ加ヘタリシカ其後國
家團體ノ基礎漸ク鞏固トナルニ至リ所謂目ハ目、齒ハ齒ヲ以テ償フコトヲ基礎
タル觀念トスル反坐ナル法制ヲ採用シテ下手人ニ對スル制裁ハ尙ホ之ヲ被害
者ニ一任シタリシモ國家ハ其復讐ニ一定ノ制限ヲ付シテ必ス其受ケタル傷害
ト同一ノ傷害ヲ加フヘキコトヲ命シタリ是レ學者ノ所謂制限復讐主義ノ時期
ト稱スル刑法ノ沿革ノ一階段ナリ此反坐ノ法制ハ弊害百出シテ國家的ノ制度
トナスコトヲ得サルヲ以テ直ニ之ヲ廢止シタレトモ現時ノ佛國刑法典及我刑
法ニ於テ偽證罪ニ付キ或場合ニ於テ反坐ノ刑ヲ科スルハ畢竟スルニ此歐羅巴
ノ古代ノ反坐法ノ觀念ヲ繼承シタルニ過キス我刑法上ニ於テ反坐トハ一人カ
執行セラレタル刑ト同一種且同一程度ノ刑ヲ科スルコトヲ謂フモノナリ即チ
所謂彼ノ反坐法ト比較スルトキハ(1)被害者カ反坐ヲ爲サ、ルコトニ於テ異リ
(2)其受ケタル傷害ヲ標準トスルニアラスシテ執行シタル刑ヲ標準トシテ之ト

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 偽證ノ罪及其刑

同一ノ刑ヲ科スル點ニ於テ異リ(3)或場合ニ於テハ多少ノ輕キ種類又ハ輕キ程
度ノ刑ヲ反坐スルコトアル點ニ於テ異レリ

本罪ニ對スル通常刑ハ其陷害セントスル被告人カ重罪事件ノ被告人タルト輕
罪事件ノ被告人タルト又ハ違警罪事件ノ被告人タルトニ依リ其刑ノ輕重ヲ區
別セリ

一 重罪事件ノ被告人ヲ陷害セントスル目的ニ出テタル偽證 本罪ノ刑ハ主
刑ハ二年乃至五年ノ重禁錮附加刑ハ十圓乃至五十圓ノ罰金トス

二 輕罪事件ノ被告人ヲ陷害セントスル目的ニ出テタル偽證 本罪ノ刑ハ主
刑ハ六月乃至二年ノ重禁錮附加刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金トス

三 違警罪事件ノ被告人ヲ陷害セントスル目的ニ出テタル偽證 本罪ノ刑ハ
主刑ハ一月乃至三月ノ重禁錮附加刑ハ二圓乃至十圓ノ罰金トス

本罪ニ對スル反坐刑ハ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル偽證カ重罪事件ノ被
告人ニ關スルト輕罪事件ノ被告人ニ關スルト又ハ違警罪事件ノ被告人ニ關ス
ルトヲ區別セスシテ其適用ヲ有スレトモ仍ホ反坐ノ當然ノ結果トシテ

一 被告人刑ニ處セラレサル場合

二 被告人カ刑ニ處セラレタリト雖モ其刑ニ處セラレタルハ本罪ノ結果ニア
ラサル場合

又換言スレハ

一 被告人カ刑ニ處セラレサル前本罪カ發覺シタル場合

二 被告人カ刑ニ處セラレタル後本罪カ發覺シタリト雖モ其刑ニ處セラレタ
ルハ本罪ノ結果ニアラサル場合

ニ於テハ其適用ナキハ勿論ニシテ其適用ヲ有スルハ被告人カ刑ニ處セラレタ
ル場合ニ於テ其刑ニ處セラレタルハ本罪ノ結果ナリシ場合ノミナリ刑ニ處セ
ラル、トハ刑ヲ言渡ス判決カ確定シタルコトヲ謂ヒ發覺トハ搜查權ヲ有スル
官署ニ發覺シタルヲ謂フ其刑ニ處セラレタルハ本罪ノ結果ナリシコト、ハ刑
ヲ言渡ス判決ノ確定及本罪トノ間ニ因果ノ關係アルコト即チ被告人ヲ陷害ス
ル目的ニ出タル偽證ニ原因シテ其被告人カ刑ヲ言渡ス確定判決ヲ受ルニ至リ
タルコト換言スレハ被告人ヲ陷害スル目的ニ出テタル偽證ナカリシトセハ其

被告人ハ刑ヲ言渡ス確定判決ヲ受クルニ至ラザリシコトヲ謂フナリ

一 死刑ニ處セラレタル場合 此場合ニ於テモ偽證罪カ死刑ノ執行後ニ發覺シタル場合ト執行前ニ發覺シタル場合トノ區別アリ

1 偽證罪カ死刑ノ執行後發覺シタル場合

(イ) 被告人ヲ死刑ニ陷害スル目的ヲ以テ偽證シタル場合 此場合ニ於ケル反坐刑ハ第二百二十二條第二項前段ニ規定スル所ニシテ即チ死刑ニ反坐ス

(ロ) 其他ノ目的ヲ以テ偽證シタル場合 此場合ニ於テハ死刑ヨリ一等ヲ

減輕シタル刑即チ無期徒刑ニ反坐スヘキモノニシテ第二百二十二條第

一項前段ノ規定スル所ニ屬ス

又2 偽證カ死刑ノ執行前ニ發覺シタル場合

(イ) 被告人ヲ死刑ニ陷害スル目的ヲ以テ偽證シタル場合 此場合ニ於ケ

ル刑ハ第二百二十二條第二項後段ノ規定スル處ニシテ死刑ヨリ一等ヲ

減輕シタル刑即チ無期徒刑ニ反坐スヘキモノナリ

(ロ) 其他ノ目的ヲ以テ偽證シタル場合 此場合ノ刑ハ第二百二十二條第

一項後段ノ規定スル所ニシテ死刑ヨリ二等ヲ減輕シタル刑即チ有期徒

刑ニ反坐スヘキモノナリ

本二 死刑以外ノ刑ニ處セラレタル場合

1 偽證罪カ刑ノ執行後ニ發覺シタル場合 此場合ニ於ケル反坐刑ハ被告

人カ執行ヲ受ケタル刑ナリ然レトモ此反坐刑ハ偽證罪ニ對スル通常刑ト

執行シタル刑トノ比較上執行シタル刑カ通常刑ヨリ輕キトキハ通常刑ヲ

科スヘキモノナリ

2 偽證罪カ刑ノ執行中ニ發覺シタル場合 刑ノ執行中トハ刑ノ本質上ヨ

リ考フルトキハ專ラ自由刑ノミニ關スヘキモノナリ而シテ自由刑ノ刑期

限内ニ偽證罪發覺シタル場合ニハ現ニ執行シタル刑期間其刑ヲ反坐ス但

其刑期カ通常刑ノ刑期ヨリ短キトキハ通常刑ヲ科スヘキモノナリ

第三項 民事事件又ハ行政裁判事件ニ關スル偽證罪及其刑

民事事件
又ハ行政
裁判事件
ニ關スル
偽證罪及
其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
信用ヲ害スル罪及其刑 偽證ノ罪及其刑

刑法第二百二十三條ニハ民事、商事ト規定セルモ現今ノ國法ニ依レハ特別ニ商事裁判ト云フヘキモノナク商事ニ關スル爭訟モ亦民事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ以テ特別ニ商事ナルコトヲ明定スルノ必要ナシ所謂民事事件トハ民事訴訟法ニ依リテ審判スヘキ事件ト云フ意味ニシテ純粹ナル民事訴訟事件ハ勿論商事訴訟事件、人事訴訟事件、非訟事件又ハ選舉ノ效力ニ關スル事件ヲモ包含ス本罪ハ其目的ノ何タルヤヲ論セス凡テ民事事件又ハ行政裁判事件ニ關スル證人カ偽證ヲ爲ス行爲ニシテ本罪ノ刑ハ主刑ハ一月乃至一年ノ重禁錮、附加刑ハ五圓乃至五十圓ノ罰金ナリトス

第三款 虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス罪及

虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス罪及其刑

其刑

本罪ノ主體ハ鑑定人又ハ通事タル身分ヲ有スルコトヲ要ス

第一 鑑定人 鑑定人トハ裁判所ニ對シ宣誓ヲ經テ意見ヲ陳述スル者ニシテ完全且公平ニ陳述ヲ爲シ得ヘキ者ナルコトヲ必要トス鑑定人ノ宣誓ハ公平且誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキ誓言ヨリ成リ其完全且公平ニ陳述ヲ爲シ得サルニ依リテ

鑑定人トナシ難キ者ノ種類ハ證人ニ付キ述ヘタル所ト同一ナリ而シテ鑑定人ハ意見ヲ陳述スル者ナルヲ以テ縱令虛偽ノ事實ヲ陳述スルモ其事實ヲ陳述スル點ニ於テハ鑑定人ト云フコトヲ得ス而シテ鑑定人ノ事實ノ陳述カ虛偽ナル場合ニ於テ之ヲ罰セントスルニハ別ニ證人トシテ宣誓ヲ爲サシメタル場合ナラサルヘカラス然レトモ實際ニ於テハ虛偽ノ事實ノ陳述ト虛偽ノ意見ノ陳述トハ區別シ難キモノナルヲ以テ斯ノ如キ場合ト雖モ尙ホ虛偽ノ鑑定トシテ罰セラル、ヲ免レサル如シ

第二 通事 裁判所構成法第百十五條第二項ニ依レハ當事者、證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用フルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用フト規定シ刑事訴訟法第百條、第百二十九條、第百三十六條第二項、民事訴訟法第百二十五條、第百二十六條、行政裁判所法第四十三條、陸軍治罪法第五十九條、第六十三條、海軍治罪法第六十四條、第六十八條ハ通事ヲ使用シ正實ニ通譯ヲ爲スコトヲ誓ハシムヘキ旨ヲ規定ス然ラハ通事トハ裁判所ニ對シ宣誓ヲ經テ通譯ヲ爲ス者ニシテ刑事訴訟法第百一條第二項ニ於テハ完全

且公平ニ通譯ヲ爲シ得ヘキ者ナルコトヲ必要トス而シテ刑事訴訟法上完全且公平ニ通譯ヲ爲シ得ヘキ者トハ證人ニ付テ述ヘタルト同一ナリ

本罪ハ虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ス行爲ナリ刑法ハ詐僞ノ陳述ト云ヒ其語辭ノ上ヨリ云フトキハ或ハ書面ニ依リタル虛偽ノ鑑定ヲ包含セサルカ如キ嫌アルモ書面ニ依リ虛偽ノ鑑定ヲ爲シタル行爲ハ口頭ニ依ル虛偽ノ鑑定ヲ爲シタル行爲ト其罪責ヲ區別スヘキ特別ノ理由ナシト信ス

本罪ノ刑ハ偽證罪ニ對スル刑ト同シ即チ本罪ニ付テハ刑事裁判ニ關スルモノト民事裁判又ハ行政裁判ニ關スルモノトニ區別シ刑事裁判ニ關スル場合ニ在リテモ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタル場合ト陷害スル目的ニ出テタル場合トヲ區別シテ偽證罪ニ付キ規定シタル刑ヲ科スヘキモノトス

第八節 度量衡ヲ偽造スル罪及其刑

第一款 總說

度トハ物ノ長短ニ關シ量トハ物ノ分量ニ關シ衡トハ物ノ輕重ニ關ス而シテ度量衡器ハ度量衡ノ標準タルヲ以テ明治二十四年三月法律第三號度量衡法ハ其基本

度量衡ヲ偽造スル罪及其刑
總說

ヲ定メ其原器、副原器ノ製作又ハ度量衡器ノ製作、修覆、販賣ニ關スル規定其他ヲ設ケ明治三十年四月勅令第十六號ニハ度量衡器ノ制限、其製作、修覆及販賣、免許並ニ檢査ニ關スル事項ヲ規定シテ特ニ其正確ナランコトヲ期セリ而シテ度量衡器ニ關スル罪ハ刑法典及前述セシ度量衡法ニ之ヲ規定シ相裨補シテ以テ秩序ヲ維持セントスルナリ度量衡法ニ於ケル刑法規ハ茲ニ之ヲ說カス今專ラ刑法典ニ於ケル刑法規ニ付キ講述スヘシ

第二款 偽造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣スル罪及其刑

販賣トハ賣買ヲ營業トスルコトヲ謂フモノニシテ既ニ營業トナス以上ハ現ニ賣買ヲ爲サル場合ト雖モ亦之ヲ販賣ト云フコトヲ得ヘシ刑法ハ度量衡器ノ販賣ハ度量衡器ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル場合及偽造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣シタル場合ニ於テノミ之ヲ罪トセリ

第一 度量衡器ヲ偽造又ハ變造シテ販賣シタル罪 本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ度量衡器ヲ偽造又ハ變造シテ之ヲ販賣シタル行爲ニ關シ其刑ハ主刑トシテ二年

偽造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣スル罪及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 度量衡ヲ偽造スル罪及其刑

乃至五年ノ重禁錮附加刑トシテ十圓乃至五十圓ノ罰金トス度量衡法第十五條
 第一項ニハ免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ又ハ修覆シテ販賣シタル者云
 云ト規定ス然ラハ度量衡法ノ製作又ハ修覆シテ販賣スル罪ト本罪トノ關係ハ
 果シテ如何度量衡法第八條ニ依レハ度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣セント
 スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ出願シテ免許ヲ受クヘキ旨ヲ規定ス
 然ラハ度量衡器ノ偽造又ハ變造ニ付テハ(イ)度量衡器ノ免許ヲ受ケタル者ノ爲
 シタル如ク製作又ハ修覆シタル偽造又ハ變造(ロ)度量衡器ヲ自身免許ヲ受ケタ
 ル者ノ如ク製作又ハ修覆シタル偽造又ハ變造ノ二ニ區別スルコトヲ得思フニ
 第一ノ偽造又ハ變造ハ刑法ノ豫想スルモノニシテ第二ノ偽造又ハ變造ハ度量
 衡法ノ豫想シタルモノナルヘシ而シテ本罪ニ付テハ常ニ官ノ記號印章即チ檢
 印ノ偽造罪ハ盜用ヲ伴フヘシ是レ度量衡法ノ施行規則第五條ニ依レハ度量衡
 器ヲ檢查シタル場合ニ於テ其合格シタル物ニハ檢查ノ證印ヲ付シ云々ト命シ
 タレハナリ此場合ニ於テハ官ノ記號印章ノ偽造罪ト比シ比較的重キ罪ニ依リ
 處斷スヘキ旨ヲ定メタリ

第二 偽造又ハ變造ノ度量衡器ヲ販賣シタル罪 刑法第二百八十八條ハ情ヲ知
 リナル語ヲ附加スレトモ其不必要ナルコトハ既ニ前述セル所ニシテ其刑ハ第
 一ノ罪ノ刑ニ一等ヲ減輕シタルモノトス

第三款 度量衡器ノ偽造又ハ變造罪及其刑

刑法中度量衡器ノ偽造又ハ變造ノミヲ罰スルハ行使ノ目的ヲ有スル他人ノ囑託
 即チ教唆ヲ受ケテ爲シタル場合ノミナリトス何故ニ自己ノ發意ニ因リ偽造又ハ
 變造シタル行爲ヲ罪トナサ、ルヤヲ解釋スルコトヲ得スト雖モ或ハ此場合ニ於
 テハ常ニ販賣ヲ爲スヘシト斷定シタル結果ニハアラサルカ
 本罪ハ行使ノ目的ヲ有スル他人ノ教唆ヲ受ケ度量衡器ヲ偽造又ハ變造シタル行
 爲ニ關シ其刑ハ其囑託シタル犯人ノ刑即チ第二百二十八條ノ刑ニ一等ヲ加重シ
 タル刑トス

第四款 定規ヲ變更シタル度量衡器ヲ所持スル罪及其刑

定規トハ度量衡器ノ全體ヲ謂フニアラスシテ度量衡器ニ表示スル長短多寡又ハ

度量衡器
ノ偽造又
ハ變造罪
及其刑

定規ヲ變
更シタル
度量衡器
ヲ所持ス
ル罪及其
刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑
 信用ヲ害スル罪及其刑 度量衡器ヲ偽造スル罪及其刑

輕重ノ度ヲ謂ヒ定規ノ増減ハ度量衡器ノ變造ノ一種ニ外ナラサルナリ而シテ本罪ハ定規ヲ變更シタル度量衡器ヲ所持スル行爲ニ關シ其刑ハ主刑トシテ一月乃至三月ノ重禁錮附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金トス

第五款 定規ヲ變更シタル度量衡器ヲ使用シ

テ利ヲ得ル罪及其刑

本罪ハ定規ヲ變更シタル度量衡器ヲ使用シテ利ヲ得ル罪ナリ利トハ必スシモ之ヲ財物ノミニ限定スルコトヲ得サルヲ以テ從テ本罪ハ常ニ詐欺取財ナリト云フコト能ハスト雖モ刑法ハ明文ヲ以テ特ニ常ニ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノトセテ而シテ其利ヲ得タル度數ノ如何ニ拘ラス常ニ一箇ノ本罪ノミ成立スルコトハ詐欺取財ト異ルノ點ナリ

第九節 身分ヲ詐稱スル罪及其刑

第一 身分詐稱罪 所謂身分トハ原籍、族稱、氏名、年齢、職業ヲ謂フ而シテ詐稱トハ虚偽ノ事實ノ申立ニシテ其申立ハ或ハ書面ニ依ルコトアルヘク或ハ口頭ヲ以テスルコトアルヘシ本罪ハ法律上其身分ヲ申立ツヘキ場合ニ於テ官署、公署又

定規ヲ變更シタル度量衡器ヲ使用シテ利ヲ得ル罪及其刑

身分ヲ詐稱スル罪及其刑

ハ官吏、公吏ニ對シ虚偽ノ身分ヲ申立ツル行爲ニシテ其刑ハ二圓乃至二十圓ノ罰金トス而シテ其主體カ刑事被告人ナルト否ラサルトハ區別セサルコトハ勿論ナリ論者或ハ刑事被告人ニハ辯護權アルヲ以テ其身分ヲ詐稱シタル場合ト雖モ罪ト爲ラスト言フ者ナキニアラスト雖モ是レ固ヨリ何等ノ根據ナキ説ナリ唯實際ニ於テハ身分詐稱罪ハ罰金刑ナルヲ以テ刑事被告人ニ對シ身分詐稱罪ヲ起訴スルモ何等ノ實益ナキヲ以テ或ハ之ヲ不問ニ付スル傾向アルノミ

第二 官職、位記ノ詐稱罪 本罪ハ公然虚偽ノ官職位記ヲ僭稱スル行爲ナリ官トハ官吏タル身分、資格ノ種様即チ親任官、高等官及判任官タル階級ヲ謂ヒ職トハ其管掌スル職務ヲ謂ヒ位記トハ從八位乃至正一位ノ貴號ヲ謂フナリ而シテ本罪ニ付テハ官公署又ハ官公吏ニ對シテ詐稱スルコトヲ要セスト雖モ公ノ信用ヲ害スル罪ノ一種ニ屬スルヲ以テ見レハ少ナクトモ公然詐稱スルヲ要スヘシ佛文草案ノ如キハ本罪ニ付キ明ニ公然ナル制限ヲ付シタリ本罪ノ刑ハ主刑トシテ十五日乃至二月ノ輕禁錮附加刑トシテ二圓乃至二十圓ノ罰金トス

第三 官服、官ノ記章、内國又ハ外國ノ勳章ノ僭用罪 本罪ハ身分資格ヲ有セスシ

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 信用ヲ害スル罪及其刑 身分ヲ詐稱スル罪及其刑 公選ノ投票ヲ偽造スル罪及其刑

テ官服、官ノ記章又ハ内國又ハ外國ノ勳章ヲ着用又ハ佩用シタル行爲ニシテ其刑ハ官職、位記ノ詐稱罪ニ同シ官服、官ノ記章トハ例ハ皇族ノ大禮服、文官ノ禮服、警察官、軍人、司法官ノ制服、其裝飾、紋樣又ハ褒章等ヲ謂ヒ内國ノ物ノミニ關ス著用トハ官ノ記章ニ付テ謂ヒ佩用トハ勳章ニ付テ謂フナリ

第十節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪及其刑

本節ニ於テハ公務ニ關スル投票ノ偽造罪、公務ニ關スル投票ノ數ヲ變更スル罪、賄賂ヲ授受シテ公務ニ關スル投票ヲ爲シ又ハ爲サシメタル罪ヲ規定スト雖モ其規定ハ粗雜ニシテ殆ト實際ノ必要ニ應シ難シ故ニ自治制ノ實施以來數多ノ單行法律ニ依リ選舉ニ關スル詳細ナル規定ヲ設ケ實際上選舉ニ關スル罪ハ多數ノ場合ニ於テ單行法ニ觸ル、コト多キヲ以テ刑法ノ本節ノ規定ノ適用ハ殆ト皆無ナリト云フコトヲ得ヘシ余ハ本節ノ罪ヲ説明スル必要ヲ感セス

選舉ニ關スル罰則ハ明治三十三年三月法律第七十三號衆議院議員選舉法第十章罰則アリ又明治二十三年五月法律第三十九號市町村會議員選舉罰則アリ而シテ衆議院議員選舉法ハ明治三十二年三月法律第六十四號府縣制第四十條ニ依リテ

公選ノ投票
票ヲ偽造
スル罪及
其刑

之ヲ府縣會議員ノ選舉ニ準用シ市町村會議員選舉罰則ハ明治三十二年三月法律第六十五號郡制第二十八條ニ依リ之ヲ郡會議員ノ選舉ニ準用スルナリ

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪及其刑

阿片烟ノ吸食カ人身ヲ蠱毒スルコトハ言ヲ俟タサル所ニシテ此惡慣習ハ盛ニ隣邦清國內ニ行ハル是レ刑法カ阿片烟ノ吸食ヲ禁止スルニ付キ他罪トノ比較上特ニ重キ刑ヲ科シタル所以ナリトス

輸入トハ内國ニ荷揚スル目的ヲ以テ外國ヨリ内國ニ入ラシメタル行爲ヲ謂ヒ異說アリト雖モ領水内ニ入ラシメタル時ニ於テ既遂タルヘシ所有トハ事實上ノ所持ノ意ニシテ固ヨリ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ區別スルコトヲ得ス而シテ受寄トハ委託ヲ受ケテ所持スル行爲ヲ謂フニ外ナラサルヲ以テ嚴格ニ論スレハ所持以外ニ之ヲ豫想スル必要ナカルヘシ

第一 阿片烟ヲ輸入、製造販賣シ又ハ所持シタル罪 阿片法(明治三十年三月三號)ニハ多少ノ例外アリ而シテ所持ハ傳播ノ虞少ナキヲ以テ其刑輕ク一月乃至一年ノ

健康ヲ害
スル罪
阿片烟ニ
關スル罪
及其刑

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 健康ヲ害スル罪 阿片烟ニ關スル罪及其刑

禁錮ヲ科スルニ止ルモ輸入、製造、販賣ハ傳播ノ虞多キヲ以テ其刑重ク有期徒刑ヲ科ス

第二 阿片烟吸食ノ器具ヲ輸入、製造、販賣シ又ハ所持シタル罪 所持シタルトキハ一月乃至一年ノ重禁錮トシ輸入、製造、販賣シタルトキハ輕懲役ヲ科ス

第三 稅關官吏阿片烟又ハ阿片烟吸食ノ器具ノ輸入ヲ幫助シタル罪 本罪ノ刑ハ各常人カ輸入シタル場合ニ於テ科スヘキ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス

第四 阿片烟ヲ吸食シタル罪 本罪ノ刑ハ二年乃至三年ノ重禁錮トス

第五 阿片烟吸食者ニ房室ヲ給與シテ利ヲ圖リタル罪 本罪ノ刑ハ輕懲役トス而シテ清國人ノ所謂烟館ヲ設クル者ノ如キハ本罪ノ犯人ナリ所謂利ヲ圖ルトハ財産上ノ利益ヲ得ントシタル行爲ヲ謂フ必スシモ現實ニ利ヲ得タルコトヲ要セス

第六 人ヲ教唆シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル罪 本罪ノ刑ハ輕懲役トス而シテ引誘トハ勸誘ノ義ニシテ略ホ教唆ニ同シ

飲料ノ汚穢
水ヲ汚穢スル
罪及
其刑

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪及其刑

人ノ飲料ニ供スル水トハ多衆ノ人類カ飲料ト爲スモノタルコトヲ要ス故ニ人類以外ノ動物ノ飲料ニ供スルモノ又ハ人類カ飲用以外ノ用ニ供スルモノヲ包含セスト雖モ其流水タルト湧水タルト停水タルトヲ問ハス

第一 人類ノ飲用ニ供スル水ヲ飲用不能ノ程度マテ汚穢シタル罪 本罪ノ刑ハ主刑トシテ十一月乃至一月ノ重禁錮、附加刑トシテ二圓乃至五圓ノ罰金トス本罪ハ其手段ノ如何ヲ制限セスト雖モ自ラ人類ノ健康ヲ害スヘキ物ノ施用以外ノ手段ナルヘキヲ以テ汚穢シテ健康ヲ害スヘキ物ト爲シタル場合ヲ包含セス

第二 人類ノ健康ヲ害スヘキ物ノ施用ニ依リ人類ノ飲用ニ供スル水ヲ人類ノ健康ヲ害スヘキモノト變セシメタル罪 本罪ノ刑ハ主刑トシテ一月乃至一年ノ重禁錮、附加刑トシテ三圓乃至三十圓ノ罰金トス而シテ予ハ腐敗セシムルコトモ固ヨリ質ヲ變セシムルコトノ一體様ナリトシ又第一ノ罪及其刑トノ比較上人類ノ健康ヲ害スヘキ物ニ變セシメタル行爲ナリト解ス而シテ本罪ハ現ニ人類ノ健康ヲ害シタルコトヲ要セスシテ成立スト雖モ其結果トシテ人カ疾病ニ罹リ又ハ死ニ至リタルトキハ歐打創傷罪ニ對スル刑及本罪ニ對スル刑中重キ

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 健康ヲ害スル罪 三六一
飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪及其刑 傳染病豫防規則ニ關スル罪及其刑

モノニ依リテ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪及其刑

傳染病豫防規則ニ關スル罪及其刑

傳染病ニ人類ニ關スルモノト獸類ニ關スルモノトアリ從テ其豫防規則ヲ異ニス

一 人類ニ關スル傳染病ノ豫防規則ハ種々アルモ特ニ本節ノ罪ニ付キ關係アル

モノハ傳染病豫防法、ペスト、豫防ノ爲メ檻樓古綿類等輸入禁止ノ件、海港檢疫法

同法ニ依ル船舶檢疫手續、船舶檢疫規則、船舶檢疫手續、汽車檢疫規則等ナリ

二 獸類ニ關スル傳染病ノ豫防規則ハ獸疫豫防法、牛疫檢疫規則、畜牛結核病豫防

法、輸入畜牛結核病検査規則等ナリトス

第一 人類ニ關スル傳染病流行ノ際豫防規則ノ規定ニ違背シテ其流行地域外ニ

至リタル罪 人ニ關スル傳染病ハ傳染病豫防法第一條第一項ニ規定スル八種

其地方長官カ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用シタル八種傳染病ノ疑似症

及主務大臣ノ指定ニ依ル傳染病ヲ謂ヒ豫防規則トハ豫防ニ關スル法律勅令省

令府縣令ヲモ包含スト雖モ本罪ノ性質上自ラ流行地域ノ脫出ヲ禁止シタルモ

ノ、ミニ限定セラレヘシ本罪ノ刑ハ十五日乃至六月ノ輕禁錮又ハ十圓乃至百

圓ノ罰金トス

第二 獸類ニ關スル傳染病流行ノ際豫防規則ノ規定ニ違背シテ獸類ヲ其流行地

域外ニ出シタル罪 獸疫豫防法ニ依レハ所謂獸類トハ牛、馬、羊、豕、犬ヲ謂ヒ獸類

ニ關スル傳染病トハ同法第一條ニ規定シタル十種ノミヲ謂フ本罪ノ刑ハ十一

日乃至二月ノ輕禁錮又ハ五圓乃至五十圓ノ罰金トス

第三 人類又ハ獸類ニ關スル傳染病豫防規則ノ規定ニ違背シテ船舶ヨリ上陸シ

又ハ船舶内ノ牛、馬、羊、豕、犬其他ノ物ヲ陸揚シタル罪 本罪ノ刑ハ一月乃至一年

ノ輕禁錮又ハ二十圓乃至二百圓ノ罰金ニシテ本罪ノ犯人船長ナルトキハ一等

ヲ加重シタル刑トス

第四 船長カ第三ニ掲ケタル犯行ヲ制止セサル罪 本罪ノ刑ハ第三ノ罪ヲ犯シ

タル船長ニ科スヘキ刑ニ一等ヲ加重シタル刑トス而シテ制止シ得サルトキハ

制止セストハ謂フヘカラス船長トハ船舶職員法及船員法ニ依レル甲種、乙種、丙

種ノ免許狀ヲ有スル者ナルヘクシテ海員ヲ指揮監督スル者ヲ謂フ

第四節 危害品及健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規

危害品及健康ヲ害

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 健康ヲ害スル罪 危害品及健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則

三六三

三六二

則ニ關スル罪及其刑

危害ヲ生スヘキ物品トハ公衆ノ危険ヲ生スヘキ物例ハ爆發物、石油、瓦斯等ヲ謂ヒ
健康ヲ害スヘキ物品トハ公衆ノ健康ヲ害スヘキ物例ハ有毒瓦斯、健康ヲ害スヘキ
飲料等ヲ謂フ要スルニ公衆ヲ害シ得ヘキコトニ著眼スルヲ要ス刑法ハ特ニ官許
ヲ得テト規定スト雖モ法令ニ於テ製造ヲ許容スルトキハ官許ヲ得サル場合ト雖
モ固ヨリ罪タラス而シテ本罪ヲ犯ス結果人ヲ傷害又ハ死去ニ致シタルトキハ過
失殺傷罪及本罪中重ニ從テ之ヲ論ス

第一 危害ヲ生スヘキ物又ハ人ノ健康ヲ害スヘキ物ノ製造所ヲ設置スル罪 本
罪ノ刑ハ危害ヲ生スヘキ物ノ製造所ニ關スルトキハ二十圓乃至二百圓ノ罰金
トシ人ノ健康ヲ害スヘキ物ニ關スルトキハ十圓乃至百圓ノ罰金トス而シテ此
種ノ物ノ製造所ヲ設置スルコトヲ罪トスルヲ以テ共ニ其既製品カ危害ヲ生シ
又ハ健康ヲ害スヘキ物ナルコトヲ要シ其製造ノ際危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害ス
ヘキ物ト雖モ製造後危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルコトナシトセハ本罪ハ成立
セサルヘシ而シテ諸般ノ特別刑法ノ發布セララルト共ニ本罪ハ或ハ實際上概

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及藥劑ヲ販賣
スル罪及其刑

不適用ナカルヘシ

第二 違法ニ危害ヲ生スヘキ物又ハ人ノ健康ヲ害スヘキ物ノ製造所ヲ設置シタ
ル者危害ノ豫防若ハ健康ノ保護ニ關スル規則ニ違背シタル罪 本罪ノ刑ハ各
第一ノ刑ニ一等ヲ減シタル刑トス

本節ノ罪ヲ犯ス結果トシテ人ヲ疾病又ハ死去ニ致シタルトキハ過失殺傷罪及本
節ノ罪中重ニ從テ之ヲ論ス

第一 人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混和シタル飲食物ヲ販賣シタル罪 本罪ノ刑ハ
三圓乃至三十圓ノ罰金トス

第二 毒藥、劇藥ヲ販賣シタル罪 本罪ノ刑ハ十圓乃至百圓ノ罰金トス而シテ所
謂毒藥トハ劇藥ニ相對スル語トシテハ狹義ニ解セサルヘカラス即チ毒藥及劇
藥ハ共ニ毒藥及劇藥品目ニ記載シタル物ニ限定セサルヘカラス而シテ藥品營
業並ニ藥品取扱規則ニ規定シタル形式及制限内ニ於テ之ヲ販賣シタルトキハ

當然罪ト爲ラスシテ同規則ニハ罰則ヲモ規定スルヲ以テ本罪ノ適用ハ實際上皆無ナルヘシ

私ニ醫業ヲ爲ス罪及其刑

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪及其刑

醫業トハ疾病ヲ治療スル業務ヲ謂フ即チ疾病ノ根源ヲ診察想定シテ之ヲ救治セシムヘキ方法ヲ施用スル義務ヲ謂フ而シテ其治療スヘキ目的物ノ如何ニ依リ之ヲ左ノ二ニ區別スルコトヲ得

一 人ニ關スル醫業 人ニ關スル醫業ニハ種々ノ種様アリ内科醫外科醫産科醫

耳鼻咽喉科醫等ノ業務ハ勿論醫業タルヘキモ其他ノ業務ニ付テハ疑似アリ

(イ) 入齒、齒拔、口中治療、接骨等ノ營業 大部分ハ醫業タルヘシト雖モ入齒ノ如

キ又ハ接骨ノ如キニ付テハ疑似アリ但此種ノ營業取締方ニ依レハ此種ノ營

業ヲ新規開業スルニハ醫術開業試験ヲ經タルコトヲ要スト爲シタルヲ以テ

少クトモ現時ノ國法上醫業ニ準スヘキモノトス

(ロ) 鍼灸術營業ハ醫業ニアラサルヘシ而シテ鍼灸術營業取締方ニ依ルモ新規

營業ノ開始ニ付テモ醫術開業試験ヲ經ルコトヲ要求セス按摩、按腹營業モ亦

醫業ニアラス

(ハ) 産婆營業モ亦醫業ニアラス産婆營業ノ取締ニ付キテハ別ニ産婆規則アリ

看護婦營業モ亦醫業ニアラス

(ニ) 催眠行爲ニ付テハ異説アリ余モ亦確タル断定ヲ下シ難シト雖モ常ニ之ヲ

醫業ニ屬スル行爲ナリトナスハ誤謬ニハアラサルカ之ヲ醫業ノ目的ニ利用

シタルトキノミ醫業ニ屬スル行爲ナリト云ヒ得ヘシト信ス

二 獸醫業 獸醫業ハ醫業タルコト疑ナシト雖モ現ニ獸醫免許規則アリ同法第

十條ニハ免許ヲ受ケスシテ獸醫業ヲ爲ス行爲ハ罪ト爲スヲ以テ本節ノ罪ト爲

ルヘキ醫業ニアラス又馬蹄工ハ醫業ニアラス

凡テ業務トハ任意ニ取得シタル社會上ノ地位ヲ謂フヲ以テ醫業ヲ爲ストハ任意

ニ醫師タル社會上ノ地位ニ立ツコトヲ謂フ故ニ報酬ヲ得ルヤ否ヤ患者アリヤ否

ヤ診察セシコトアリヤ否ヤ處方ヲ指示シタルコトアリヤ否ヤ又ハ之ヲ主要ノ生

計法ト爲スヤ否ヤニ關セス苟モ醫師ト稱スル社會上ノ地位ニ立ツ行爲ヲ爲シタ

ル者ハ之ヲ醫業ヲ爲シタル者ト云フコトヲ得ヘシト信ス

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 健康ヲ害スル罪 私ニ醫業ヲ爲ス罪及其刑

本節ノ罪ハ醫業ヲ爲シタル罪ニシテ適法ニ醫師タルヲ得ヘキ資格ハ醫師免許規則二十五年以上ノ醫師子弟ニ免狀附與ノ件、奉職履歷ニ依リ免狀授與ノ件、十六年十二月内務省乙四十七號達ノ限地開業醫免狀内規等ニ依リ定ル本罪ノ刑ハ十圓乃至百圓ノ罰金トス而シテ本罪ヲ犯シ治療ノ方法ヲ誤リタル結果人ヲ傷害又ハ死去ニ致シタルトキハ過失殺傷罪及本罪中重ニ從テ之ヲ論シ其治療ヲ誤リタルヤ否ヤハ全然客觀的ニ之ヲ所定スヘク過失ニ依ル場合ト同視スヘキニアラス

第六章 風俗ヲ害スル罪及其刑

風俗ヲ害スル罪及其刑

第一 公然猥褻ノ所行ヲ爲ス罪 猥褻ノ何タルヤハ上述シタリ公然トハ比較的多衆ノ人民カ見聞シ得ヘキ狀況ニ在ルコトヲ謂ヒ猥褻ノ所爲トハ猥褻ナル行爲自體ヲ謂フ本罪ノ刑ハ三圓乃至三十圓ノ罰金トス

第二 公然猥褻ノ物品ヲ陳列又ハ販賣シタル罪 公然ナル語句カ販賣ナル語句ヲモ制限スルヤ否ヤハ疑問ナリ余ハ公然ニ販賣シタル義ト解ス刑法ハ猥褻ノ物品トシテ風俗ヲ害スル冊子圖書ヲ例示シタリ而シテ公然ノ貸與ヲ罰セサルハ刑法ノ缺點ナルヘシ本罪ノ刑ハ四圓乃至四十圓ノ罰金トス

第三 飲食物以外ノ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲ス際搜查權アル官吏ニ認知セラレタル罪 刑法ハ財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ト規定ス故ニ字句上不明ナリト雖モ草案ノ沿革ニ依據シテ通説及大審院判例ハ如上ノ解釋ヲ採用スヘキモノトナセリ

一 飲食物以外ノ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲ス行爲

(イ) 博奕 博奕即チ博戲又ハ賭博トハ予ハ賭事ニ相對スルモノト解ス博奕ト賭事トノ關係ニ付テハ異説アリ

(1) 無區別説 凡テ偶然ノ輸贏ヲ目的トスル行爲ハ之ヲ博奕又ハ賭事ト謂フト爲ス

(2) 區別説

(甲) 主觀的ニ區別スル見解 此見解ハ其目的ニ依リ區別セントスルモノニシテ偶然ノ輸贏ヲ爭フ者カ其判定ヲ確保セントスル目的ヲ有スルトキハ賭事ナリ利得ヲ獲ントスル目的ヲ有スルトキハ博奕ナリト謂フ

(乙) 客觀的ニ區別スル見解 此見解ニ依レハ博奕ノ行爲トハ自身其輸

刑法各論

本論 重罪、輕罪及其刑
風俗ヲ害スル罪及其刑

公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑

贏ヲ決スル行爲ヲ爲ス行爲ヲ謂ヒ賭事トハ他人ヲシテ之ヲ爲サシムル行爲ヲ謂フト爲ス
余ハ主觀的ニ區別スル見解ヲ可トシ博奕トハ利得ヲ獲ンコトヲ目的トシテ全部又ハ一部カ關係者一同ニ不確實ナル輸贏ヲ爭フコトヲ謂フト解ス故ニ單ニ其判定ヲ確保スル爲メ偶然ノ輸贏ヲ爭フ行爲又ハ博奕ノ外觀ヲ有スト雖モ其輸贏カ關係者ノ一部ノミニ主觀的不確實ナル行爲其他ハ博奕ニアラス

(ロ) 飲食物以外ノ財物ヲ賭シタル事實 博奕ノ意義上述ノ如シトセハ何物ヲモ賭セサルトキハ全然博奕ニアラス然レトモ賭シタル場合ニ於テモ賭物カ財物即チ交換價值ヲ有スル動産又ハ不動産ニアラスンハ罪ト爲ルヘキ博奕ニアラス故ニ身分上ノ利益其他ヲ賭シタルトキハ所謂博奕罪ニアラス而シテ飲食物ハ財物ナリト雖モ刑法ハ飲食物ヲ賭シタル場合ニ限り之ヲ罪トナラサルモノトス然レトモ要スルニ娛樂ノ目的ニ出テタル博奕ヲ除外セントスル意ニ外ナラサルヲ以テ直ニ飲食シ得ヘキ性質且數量ノ物ニアラスンハ所謂飲食物ニアラス

二 其際搜查權アル官吏ニ認知セラレタル事實 即チ現ニ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲ス現場ヲ搜查權アル官吏ニ認知セラレタル事實ヲ謂フ搜查權アル官吏トハ刑事訴訟法ニ依リ定ルト雖モ其土地及事物ノ管轄ヲ有スルノミナラス當時其搜查スヘキ義務ヲ有シタルコトヲ要ス現場ノ認知トハ現ニ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲ス者ヲ認知スルコトヲ謂フト雖モ必スシモ其氏名ヲ知り又ハ現場ニ於テ逮捕スルコトヲ要セス

本罪ノ刑ハ主刑トシテ一月乃至六月ノ重禁錮附加刑トシテ五圓乃至五十圓ノ罰金トス而シテ博奕罪ニ付テハ特別ノ沒收例ヲ規定ス即チ賭博罪ヲ認知シタル際博奕ノ用ニ供スヘキ器具又ハ賭シタル財物カ博奕ヲ爲シタル場所ニ現存スルトキハ其供用物ニアラサル場合ニ於テモ又博奕ヲ爲シタル者ノ所有ニ屬セサル場合ニ於テモ凡テ之ヲ沒收スルヲ以テ刑法第四十三條及第四十四條ノ除外例ヲ成スモノトス

第四 飲食物以外ノ財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲ス者ニ房室ヲ給與シタル罪 本罪ハ

刑法各論 本論 重罪、輕罪及其刑 風俗ヲ害スル罪及其刑 公益ニ關スル重罪、輕罪及其刑 三七一